

日本写真家協会会報

NO.163

(2016. OCT.)

■特集 リオ・オリンピックに見るスポーツ報道

■展望「笹本恒子写真賞」創設

■第12回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる

JPS



Photo Sanda Takahiro

sd

Quattro



唯一無二の画質。唯一無二のカメラ。

SIGMA



写真家に知っておいていただきたい著作権のこと。

あなたが写真を撮った時に、
写真の著作権はあなたの**財産**となります。
そのためにはなんの**登録**も必要としません。

あなたの写真は、著作権というとても**強い権利**で、
あなたの**死後も50年間**にわたって守られますが、
著作権を**譲渡する契約**によって撮影された写真は、
その権利を**失い**、回復することは**困難**です。

写真家はでき得る限り、
「写真の著作権を**保持するべきだ**」
と私たちは考えています。

写真著作権を大切に。

一般社団法人日本写真著作権協会(JPCA) 〒102-0082 東京都千代田区一番町 25 JCII ビル3階 Mail: info@jpca.gr.jp

[正会員団体] 公益社団法人日本写真家協会／公益社団法人日本広告写真家協会／一般社団法人日本写真文化協会／日本肖像写真家協会
一般社団法人日本写真作家協会／全日本写真連盟／一般社団法人日本スポーツプレス協会／日本自然科学写真協会
日本風景写真協会／公益社団法人日本写真協会 (以上、10団体)

この広告は、公益社団法人日本複製権センターからの分配金による公益事業の一環として制作されています。

■ Gallery	JPS ギャラリー 森井禎紹、榎本正好、伊藤 厚、黒沢富雄、 5 公文健太郎、大津茂巳、森住 卓、江成常夫
■ First Message	写真を取り巻く世界の「今」 熊切圭介 13
■ Focus	-60年ぶりの再見-写真展「渡辺義雄の眼 伊勢神宮 イタリア・モスクワ」 ... 14
■ Telescope	ルーシー賞(Lucie Award)を受賞 名誉会員 笹本恒子さんに訊く 16
■ Wonder Land	特集 リオ・オリンピックに見るスポーツ報道 18 座談会 「現地取材カメラマンに聞くオリンピックの現場」 出席者＝朝日新聞社・榎山晃生、共同通信社・村上健一、時事通信社・山崎秀夫、 毎日新聞社・梅村直承、読売新聞東京本社・増田教三
■ Zooming	写真×写真(連載 11) 「温故知新」の襲来はアーカイブから 河野和典 26
■ Archives	「日本写真保存センター」調査活動報告(22) 松本徳彦 28 写真原板の利活用を促すフォトアーカイブの構築へ
■ Workshop	著作権研究(連載 38) クリエイタ指向の著作権制度を求めて ... 上野達弘 30
■ Topics	賛助会員トピックス 32
■ Digital Topics	フォトキナ 2016 最新情報、今年のトレンドを探る！ 34
■ Award	2016年第12回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる 36 「名取洋之助写真賞」川上 真「枝川・十畳長屋の五郎さん」 「名取洋之助写真賞奨励賞」和田芽衣「娘(病)とともに生きていく」
■ Congratulation	おめでとうございます 第42回「日本写真家協会賞」受賞 40 高柳 昇さん(株式会社東京図書館取締役 統括プリンティングディレクター)
■ New Face Gallery	JPS2016年新入会員展「私の仕事」 41
■ Report	「日本の海岸線をゆく」トンガ王国写真展 報告 45
■ Exhibition	2016JPS 展報告・2017JPS 展案内 46
■ Comment	写真解説 49
■ Report	平成 28 年度「報道写真論」講座報告 50
■ Education	平成 27 年度小学生を対象とした「写真学習プログラム」報告 52 平成 28 年度全国高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」報告 54
■ Message	Message Board 56
■ Books	JPS ブックレビュー 58
■ Topics	東京都写真美術館(TOP MUSEUM)リニューアル・オープン 61 日本写真文化協会全国文化部役員による写真展「写真館ものがたり - 愛 -」開催 2015 年受賞・出版・写真展(JPS 会員) 62
■ Annually	追悼 = 正会員・井上隆雄、本田祐造、渡辺英明／経過報告／編集後記 68
■ Information	日本写真家協会の沿革(英文) 70
■ International	エプソンのデジタルプリント最前線 76
■ Technical	表紙・三田崇博、表 4・山本昌男

広告 案内

- (株) シグマ
- 一般社団法人日本写真著作権協会
- フレームマン・ギンザ・サロン
- (株) 堀内カラー
- 富士フイルム(株)
- キヤノンマーケティングジャパン(株)
- (株) タムロン
- (株) ニコンイメージングジャパン
- リコーイメージング(株)
- エプソン販売(株)

フレームマン
frame-man

『スペシャルプライスプラン』

作品A-3or半切(30枚まで) だけご準備頂ければ、
これ以上一切頂きません!!

銀座で1週間の個展 or グループ展が

なんと ¥150,000 円(税込)

早い者勝ち!! 応募殺到中

※ミニギャラリー(15枚迄) ¥30,000 (税込)

詳細はこちらをご覧ください ▶ <http://www.frameman.co.jp/>



本社



石原倉庫



千葉倉庫

展覧会・グラフィック発表会におかれましては額縁・
パネル制作・作品二次加工全般を自社工場
で行っております。会場施工・作品の美術輸
送・展示作業・ライティング作業、その後の倉
庫保管まで受け賜わり、展覧会の「トータル
フィニッシュワーカー」を目指しております。

エキシビションサロン銀座
フレームマンギンザサロン



〒104-0061

東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ2F

TEL & FAX 03-3574-1036

期間中無休/開館時間10時~19時

(オープン初日[木]12:00~/最終日[金]は17:00閉館)

(株)フレームマン 本社

〒130-0026

東京都墨田区両国3-10-4

(旧 本所松坂町 吉良邸跡地内)

TEL 03-5638-2211 (代)

FAX 03-5638-2219

Eメール frameman@frameman.co.jp

関連会社 プロフレーム(株)

TEL 03-3632-2620



街角寸景——森井禎紹
写真集『地球・ぶらり旅』



FUJICHROME

秋の装い——榎本正好
写真集『赤城彩象』



Churchill.ca ——伊藤 厚
写真展「Photo Unit J12」

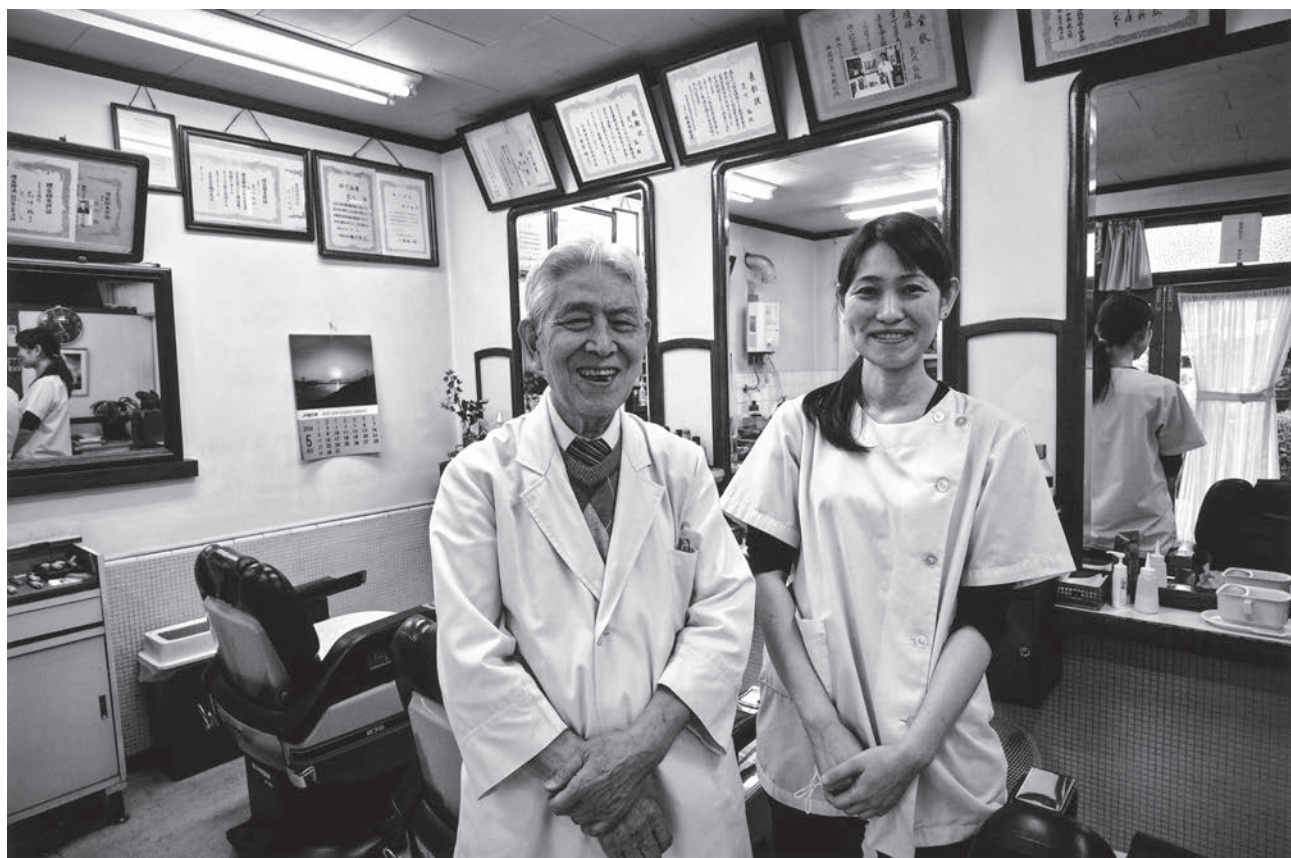


久慈川の氷花（シガ）——黒澤富雄
写真集『久慈川の氷花（シガ）』



りんご農家の夫婦——公文健太郎

写真集・写真展「耕す人」



理髪店の親子——大津茂巳
写真集・写真展「人間の日々」



戦わないために闘う（島袋文子さん）——森住 卓
写真集『沖縄戦 最後の証言』



多摩川 1970-1974 ——江成常夫
写真集・写真展「多摩川 1970-1974」

写真を取り巻く世界の「今」

会長 熊切 圭介

華やかな色彩の乱舞と華麗なイメージの開会式、期待を超える日本選手の活躍もあり、リオデジャネイロのオリンピックとパラリンピックはかなり盛り上がった。パラリンピックでは、209の世界新記録が生まれたようだ。新聞やTVなどマスコミは連日、競技を大々的に報道したが、反面、開催以前に盛んに報道されたりオの治安の悪さや、厳しい社会状況を伝える報道は影をひそめたのが気になった。

オリンピック関連の報道が優先したのであまり話題にならなかったが、写真や映像に関わる人達が、身近な話題として関心をそそられたのは、東京都写真美術館がリニューアルオープンしたことだろう。2年におよぶ長い休館期間を経て、今年の9月に新装オープンした。

新しい美術館のオープニング写真展は、毎年開催される「世界報道写真コンテスト」の入選作品だが、昨年は入選作品の画像加工問題が表面化し、論議が交わされた。今年度の大賞作品は、セルビアとハンガリーの国境を越えようとする難民の男性と子供の姿を撮影した作品で、世界的に大きな問題になっている難民をテーマにしたシリアスな作品だ。世界的な規模でいうと、2015年に2億4400万人の難民が移動し、6,500万人以上の難民が強制的な避難を余儀なくされている。こうした厳しい世界情勢に対し、日本は僅かな難民しか受け入れていないが、日本のこれからを考えると、より積極的な姿勢をとるべきだろう。難民問題だけでなく、TPPなど経済問題、地球温暖化や地球環境のことなど、様々な問題や事象に対応を迫られているのが現実だ。ヨーロッパで多発しているテロの問題も影響が大きい。毎年パリで開かれていた「パリ写真月間」も今年はテロの影響で中止になったとい

う。厳しい世界情勢に加え地震など自然災害が多発している日本の「今」を反映して、写真の世界ではドキュメンタリーフォトに対する関心が高まっている。

主としてドキュメンタリーの分野で活躍している35歳までの写真家を対象とした「名取洋之助写真賞」には、今年、プロの写真家を含め35名36作品の応募があった。一見平穏に見える日本が抱える様々な問題に加えて、人間の精神の内奥の世界を探り、日常生活の痕跡から生き方に想いを馳せる作品など、多種多様な作品との出会いがあった。名取賞の審査は、フォトジャーナリストの広河隆一氏、写真評論家の飯沢耕太郎氏とJPS会長の私があたった。その結果、名取洋之助写真賞には川上真氏の「枝川・十畳長屋の五郎さん」、奨励賞には和田芽衣氏の「娘(病)とともに生きていく」が選ばれた。川上真氏の作品は、都市の開発から取り残された長屋の住人の姿から、時代や環境が移り変わっていく中で生きていく一人の人間にスポットを当てた作品で、和田氏の作品は、病と向き合いながら生きている親子の5年間を描いた作品だ。

日本写真家協会は、今年102歳を迎えなお現役で活躍している名誉会員の笹本恒子氏の業績を記念して、「笹本恒子写真賞」を創設した。若い写真家の活動を助成するための賞で、受賞にふさわしい写真家の登場を期待したい。受賞者の発表は来年に行う予定だが、プロ写真家として3年以上の実績を持ち、現在活躍中の写真家を対象とする。なお笹本氏は、今年度のルーシー賞ライフタイム・アチーブメント部門賞を受賞した。この賞は、過去にはアンリ・カルティエ・ブレッソンも受賞している。

— 60 年ぶりの再見 —

写真展「渡辺義雄の眼 伊勢神宮 イタリア・モスクワ」

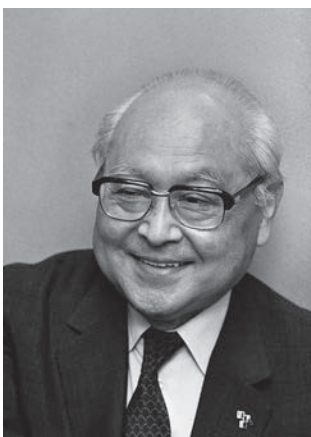
focus

2016 年 10 月 27 日(木)より東京・ポートレートギャラリーにて開催！

平成 27(2015)年 8 月、故名誉会長 渡辺義雄(1907~2000)氏のご遺族から公益社団法人日本写真家協会に写真原板並びに作品の寄贈の申し入れがあり、日本写真保存センターが収集、保存することを決め収集を図った。

写真原板は「伊勢神宮」「旧帝国ホテル」「迎賓館」「新宮殿」などと「イタリア」「モスクワ」な 渡辺義雄氏 撮影・木村恵一 どのほか、「奈良六大寺大観」「大和古寺大観」「日本の塔」等に収載されている作品の写真原板(5×7、4×5、6×6、35 ミリ)等 約 30,000 点と、写真集などに使用されたプリントおよび資料プリント 約 5,000 枚の寄贈を受けた。すでに整理の終わった 24,005 点の原板は、東京国立近代美術館相模原フィルムセンターの収蔵庫で保存している。

保存センターでは、これらの資料をベースに昨年の「原爆展」に続く第 2 弾として、写真展「渡辺義雄の眼 伊勢神宮 イタリア・モスクワ」を、平成 28(2016)年 10 月にポートレートギャラリーで、11 月に大阪ニコンサロンで開催す



ることを決めた。

写真展は昭和 28(1953)年にわが国で初めて式年遷宮直前に御垣内で撮影されたモノクローム作品と海外取材の先駆けともいえるモスクワとイタリアで撮影された写真で構成した。神宮の写真はこれまで何回も目にしてきたものであるが、イタリアは昭和 32(1957)年に銀座の小西六フォトギャラリー(その後新宿のニコンサロンでも)展示され、モスクワは同年平凡社から出版された『モスクワの一日』で披露された程度で、あまり知られていない作品であるところからこの度展覧することにした。

(記/副会長 松本徳彦)

写真展:「渡辺義雄の眼 伊勢神宮・イタリア・モスクワ」

主 催:公益社団法人日本写真家協会「日本写真保存センター」、一般社団法人日本写真文化協会(東京展)

協 賛:(株)ニコン、(株)ニコンイメージングジャパン、一般社団法人日本写真著作権協会

協 力:日本大学芸術学部

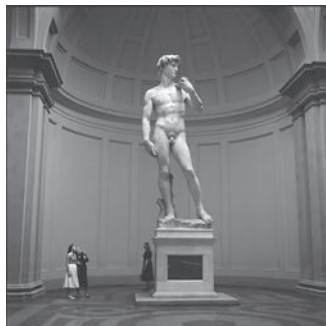
会期・会場:

10月27日(木)~11月9日(水)東京ポートレートギャラリー

11月24日(木)~30日(水)大阪ニコンサロン

プリント:寄贈を受けた写真原板から制作したモノクロ作品約 55 点

図 録:B5 版 P32 モノクロ 装幀 伊勢功治



写真展「渡辺義雄の眼 伊勢神宮 イタリア・モスクワ」

東京・四谷 ポートレートギャラリー

2016年10月27日(木)~11月9日(水)

開館時間10:00~18:00(最終日15:00まで)

主催:公益社団法人日本写真家協会「日本写真保存センター」 一般社団法人日本写真文化協会
協賛:(株)ニコン (株)ニコンイメージングジャパン 一般社団法人日本写真著作権協会
協力:日本大学芸術学部



-伊勢神宮-



内宮正殿北面全景 右の屋根は西宝殿 左は東宝殿 1953 年



内宮正殿の棟と高欄の飾金物 1953 年



ローマ 街角で 1956 年

- イタリア -



ローマ 舟の噴水 1956 年



フィレンツェ 洗礼 1956 年



モスクワ 田舎から来た人たち 1956 年

- モスクワ -



モスクワ 旅に出る家族 1956 年



モスクワ 掲示板を見る恋人 1956 年

ルーシー賞 (Lucie Award) を受賞 名誉会員 笹本恒子さんに訊く

公益社団法人日本写真家協会は、5月に名誉会員笹本恒子さんの102歳を記念して、「笹本恒子写真賞」を創設しました。これは若い写真家の写真活動を助成することを目的としたもので、年に1回、受賞対象者を選び発表されます。笹本さんは1914(大正3)年東京生まれ。1940(昭和15)年に報道写真家となり、以後長きに渡って報道の第一線で活躍してきました。さらに2016(平成28)年10月には、アメリカのルーシー財団から、「写真界のアカデミー賞」とも呼ばれる「ルーシー賞 (Lucie Award)」も受賞されました。そこで笹本さんの近況、自身の名を冠した賞への思いを伺いました。

高齢者にも魅力的な海外の環境

—— 10月のルーシー賞の受賞おめでとうございます。この賞は“写真界のアカデミー賞”とも言われている、大変に栄誉のある賞と言われています。

笹本 ありがとうございます。受賞を聞いて大変に驚いています。これまで私が頂いた賞の中で「吉川英治賞」というものがありますが、これは写真には関係がない賞だと思っていましたから驚きました。その時以来の驚きということになりますでしょうか。授賞式はカーネギー・ホールで行われるということで、本当であれば出席したいのですが、今の私は足が悪いものですから、どこに旅行するのにも、人に助けて頂いている状態で、さて、どうなりますか。

—— 外国はサポートする体制が整っていますから、大丈夫ですよ。それに笹本さんは、いつお会いしてもお変わりないから。

笹本 いえいえ。もう、1年に10歳くらい年を取っていますよ(笑)。今は自由に外に出ることができませんから、シャッターが切れないことが残念です。

—— でも、百歳を超えて、なお写真を撮っている人は、これまでいませんから。それだけでも素晴らしいことです。笹本さんがニューヨークに写真をお撮りに出かけられたのは、いつのことでしたっけ？

笹本 1998(平成10)年のことですね。あの時は、現地で働く日本人の姿を撮りたくて出かけました。けれども納得のゆく写真が撮れな



松本副会長のインタビューを受ける笹本さん

ったものですから、発表はしておりません。その次の年にはフランスに行きました。現地で老人ホームの

撮影をしました。この老人ホームというのは、入居者の国籍は問わない。フランスに貢献した芸術家をお城の跡にある施設に入れているのですね。そのような所ですから、環境が素晴らしい。日当たりが良く、絵を描くのに良いガラス張りの素晴らしい部屋が用意されているのです。それでは施設の料金はいくらなのかと伺ったら、年金が少ししかない人はそれだけ、高い収入がある人はそれなりにというシステムです。一つ条件があるのは、今もお芸術活動が続けているということだそうで、「私もこの施設に入りたい」と申し上げたら、「いつでもいらっしゃい」と答えて頂きましたけれど(笑)。その後は、システムが変わったようで、2度目に訪れた時は、ずいぶんと混み合っていましたね。

—— フランスなら美味しいワインもありますね。

笹本 そうです。お昼時に食堂に行きましたら、すべてのテーブルにワインの入った大きなデカンタが置かれていましたね。お昼からお肉、ワイン付きのランチです。やはり日本とは違いますね。日本の施設の食事も悪くはないのですが、ワインに合うものは少ないですね(笑)。

賞は写真界のこれからのために

—— 今回の「笹本恒子写真賞」創設についてお気持ちを伺いお聞かせ下さい。

笹本 私自身が、お世話になった写真界にどのような恩返しができるのか、お手伝いができるのかということを考えて時に、賞の創設を考えついたのです。これから活躍して頂ける若い写真家の方、写真界に進出してきた女性



名誉会員 笹本恒子さん

の方を少しでも応援したいという気持ちです。

—— 第1回の表彰式は2017(平成29)年に入ってからですから、どうぞ、お元気でいて下さいね。
笹本 ありがとうございます。選考にも時間がかかるでしょうから、それくらいになるでしょうね。

—— 女性の中には、ただ撮るだけでなく、コメンテーターとして活躍している方も大勢います。

笹本 ただ撮るだけでなく、言葉や文字で表現することも大切だと思います。振り返ってみますと、私自身が撮ることと書くことを半分半分で過ごしてきたように思います。写真家の仲間から書くことを頼まれたことも多かったですね。それであれば、この賞もそこまで含めた活動を対象にして下さい。撮ることももちろんですけど、書くことや、コメントを発することで、広く、写真界であるとか、日本のジャーナリズムに寄与している方に、賞を差し上げることができたのなら、それがいちばん素晴らしいことだと思います。

ところで、日本写真家協会は、設立されてどれくらいになりますか？

—— 設立は1950(昭和25)年のことですから、もう65年以上経っていますね。この会が発会した時に、女性のカメラマンはいらっしゃいましたか？

笹本 それはもう私一人です。ですから、会に出席するのも気後れしたものです。で、出かけてみると、やっぱり私一人だった(笑)。

—— それなら、モテたでしょう？



昭和26年12月号の週刊朝日「今日の群像」に掲載されたJPSのメンバー。中央に紅一点の笹本さんが写っている。

笹本 さあ、それはどうかしら(笑)？でも当時はカメラも重かったし、撮影は大変でした。スピグラとライカを持って歩きましたけれど、フラッシュを持つと、ボストンバック一つがフラッシュとアクセサリーだけで一杯になっていましたね。でも、あの頃のカメらは、どれも良いものばかりでした。だから写真を撮ることも、とてもやり甲斐のある仕事になっていました。勿論写真という仕事のやり甲斐は、カメラが軽くなった今でも何も変わってはいないのだと思いますけれど。

(2016年8月15日 聞き手／JPS副会長・松本徳彦、構成・撮影／出版広報委員・池口英司)

公益社団法人日本写真家協会は「笹本恒子写真賞」を創設します

公益社団法人日本写真家協会は、名誉会員 笹本恒子さんの102歳を記念して、若い写真家の写真活動を助成するために「笹本恒子写真賞」を設けます。

笹本さんは1914(大正3)年東京生まれ。画家を志してアルバイトとして東京日日新聞社(現毎日新聞社)で、紙面のカットを描いていたところ、1940(昭和15)年財団法人日本写真協会の誘いで報道写真家に転身。日独伊三国同盟の婦人祝賀会を手始めに、戦時中の様々な国際会議などを撮影。戦後はフリーとして活動をし、安保闘争から時の人物などを数多く撮影してきました。JPS名誉会員。

現在102歳で、写真集の出版、執筆。写真展、講演会等で活躍されています。

受賞歴：1996年東京女性財団賞、2001年第16回ダイヤモンド賞、2011年吉川英治文化賞、日本写真協会功労賞、2014年ベストドレッサー賞特別賞受賞。

2016年10月23日にはアメリカのルーシー財団から、写真界のアカデミー賞とも呼ばれる「ルーシー賞(Lucie Award)」のLifetime Achievement賞を受賞されることが決まっています。(2016年5月27日)

公益社団法人日本写真家協会「笹本恒子写真賞」

趣旨：この度公益社団法人日本写真家協会は、名誉会員 笹本恒子さんの102歳を記念して、若い写真家の写真活動を助成するために「笹本恒子写真賞」を設ける。

対象：プロ写真家として3年以上の実績をもち、現在活動中の写真家に対し、その活動を助成するために「笹本恒子写真賞」を設ける。対象とする写真作品は、過去3年間でわが国の社会状況を鋭く捉え、出版および写真展等で広く公開し、社会に大きな影響を与え、写真表現の力を公衆に知らしめた写真家に「笹本恒子写真賞」を贈る。

選考方法：選考委員3名で構成する「笹本恒子写真賞」選考委員会を日本写真家協会内に設けて行う。

選考委員会：日本写真家協会会長を委員長に、正会員または会員外の写真家又は有識者から2名の3名で構成する。

選考方法：毎年11月に委員会を設置し、写真に関わる有識者若干名にアンケート用紙を送り、過去3年間でわが国の社会状況を鋭く捉え、出版および写真展等で広く公開し、社会に大きな影響を与え、写真表現の力を公衆に知らしめた写真家2名を選出していただく。翌年3月に「笹本恒子写真賞」選考委員会を開き、受賞対象者1名を選び発表する。

表彰並びに写真展：表彰は毎年12月初旬の日本写真家協会相互祝賀会で表彰する。賞金は30万円。副賞として、写真集の発行または写真展を都内の写真展会場で催す。

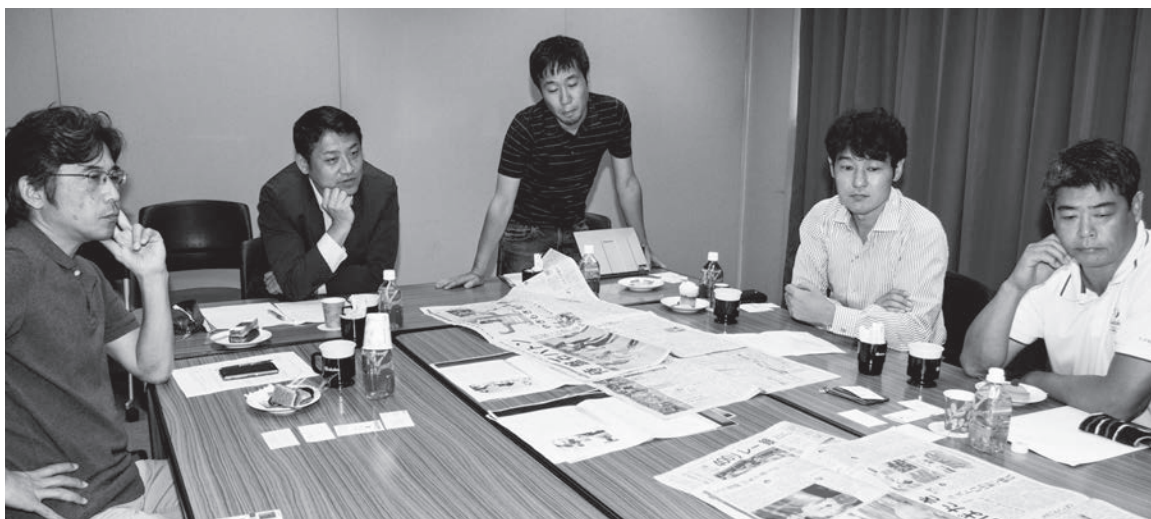
<特集>

リオ・オリンピックに見るスポーツ報道

始まるまではいろいろ言われた、リオデジャネイロオリンピック。しかし大会がスタートしてみれば、日本選手の活躍もあり、日本中が燃えました。JPS 会報では、長野、シドニー、アテネと、オリンピック取材はどのように行われたかの特集をしました。2004 年のアテネ大会から 12 年、カメラが完全にデジタルになって、オリンピック取材はどう変わったのか、そして 2020 年東京オリンピックの撮影はどうなるのか？ 久しぶりのオリンピック特集です。

<座談会>

現地取材カメラマンに聞くオリンピックの現場



出席者：写真左から、村上憲一（共同通信社 ビジュアル報道局写真部）、増田教三（読売新聞東京本社 編集局写真部）、梅村直承（毎日新聞社 編集編成局写真映像報道センター）、樫山晃生（朝日新聞社 映像報道部）、山崎秀夫（時事通信社 ニュース映像センター写真部）

司会・進行：出版広報委員会・伏見行介、小城崇史
(2016 年 9 月 7 日(水) 於：JCI 603 会議室)

Web・デジタル時代になり、オリンピックを伝えるメディアは種類も増え、方式も増えました。そんな時代でも、新聞は重要なポジションを占めています。今回のオリンピックの新聞報道では、新聞ならではの伝え方も登場したようです。機材が変わろうと、方式が変わろうと、大切なのは撮る人です。リオでがんばった新聞通信各社の皆さんから、現場の生の声をお聞きました。

何よりも大切な信頼性

—— JPS 会報では、これまでに 1998 年 6 月に、長野オリンピック後の座談会として「デジタル時代の新聞写真」、2001 年 2 月に、シドニーオリンピック後の座談会「デジタル写真とジャーナリズム」、そして 2004 年 10 月に、「アテネ・オリンピック写真報道最前線」とい

うタイトルで座談会を行ってきました。今回は、2020 年に東京オリンピックが開催されるということ、この 8 年間でデジタルカメラの状況も変化し、「第 2 世代」とでもいうべき局面を迎えていると判断されましたので、この座談会を企画しました。まず、皆さんがお使いになっている機材を教えてください。今回のオリンピックの取材に際して「オリンピックスペシャル」というようなものは、おありだったのでしょうか？

村上（共同通信社） 特別なものはなかったと思います。カメラマンによって、GO PRO を長い竿の先に付けて撮るということはやっていたようです。通常であれば脚立に乗るところを、長い一脚の先にカメラを着けて撮るというイメージでしょうか。秒 2 コマ程度シ

ャッターが切れる設定にしておいて、その中から良いコマを選んで使いました。ただし、それは競技の撮影ではなく「雑感」と呼ばれる一般的な記事の中で使っています。

増田(読売新聞社) 我が社では100パーセントキヤノンの機材を使用して、普通に使っていました。オリンピックの取材に選ばれたメンバーが全員キヤノンユーザーでした。弊社の場合は2003年の時点から、メーカーさんとの意見交換は継続的に行っているの、その延長にあるということでしょうか。「オリックススペシャル」というようなものはありませんでした。

梅村(毎日新聞社) キヤノンが3人、ニコンが2人という体制でした。特別な機材は使いませんでしたが、多くの写真素材をWebで展開するために、写真特集と、動画形式で見られる写真のスライドショーを作成しました。本社に担当のデスクを配置し、競技終了後30分以内に仕上げています。それから、写真のサイトにパノラマ写真を載せるコーナーがあり、会場の撮影をさせて頂いて、それをパノラマ映像で、見ている人に「ここで競技を行っているんだ」という臨場感を感じて頂けるようにしました。こういう写真表現は去年あたりから始めたものです。

樫山(朝日新聞社) 使用機材については、キヤノンユーザーが4人で、ニコンユーザーが2人です。機材の開発に関しては皆さんと同様に、メーカーさんとの意見交換を普段からやっております。カメラ以外では、今回GO PROを4台使用して、動画の撮影に挑戦しています。これは360度を動画で撮れるもので、この画像をグラスを通して見ると、あたかも現場にいるような感覚を味わえるというもので、体験イベントを都内で行いました。ただし、競技場内は動画の撮影が禁止されましたから、街の中のシェラスコ屋さんの様子など、人が集まっている場所が被写体となり、見る人にリオの街を体験して頂こうということです。

山崎(時事通信社) 5人全員がキヤノンでした。今回は4K動画からの切り出しで、フォーム分解写真を作ろうかと考えていたのですが、感度を上げるとノイズが発生するものですから、今回は実現しませんでした。競技場内は動画の撮影ができないということで、各社さんともいろいろ苦労はされているようですね。私は取材陣の中で最年長ではないかと思うのですが、最近のカメラの技術の進歩は素晴らしいと思います。そのお陰でカメラマンの寿命も延びたのではないかなと感じています(笑)。

—— これまで開催させて頂いた座談会の中では、2004年のアテネ・オリンピックで、夜間に行われるマラソンというような、撮影条件の悪い競技が生まれました。その時にキヤノン、ニコンというメーカーの垣根を越えた機材と人の融通、交流が生まれたという話を

伺っているのですが、今は各社さん、メーカーの垣根を越えて、色々な機材をお使いになっているのでしょうか？

増田 社内はキヤノンユーザーとニコンユーザーがほぼ7:3の比率ですが、高感度撮影についてはキヤノンの方が使い慣れています。

私たちは、東京ドームのバックスクリーン横のカメラ



朝日新聞社 樫山晃生氏

ポジションから超望遠レンズで撮影するノウハウや、撮影した写真をどこまで大伸ばしにできるのか、というようなデータは持っており、それがオリンピックの撮影でも活かされています。前回のオリンピックまでに、機材をキヤノンに入れ換えたメンバーが今回も選ばれた形になりましたから、これがスペシャルといえ、スペシャルチームといえるのかもしれませんが。機材についていえば、これからの各社の体力に拠るところもあるのでないかと思います。つまり、どれだけ機材に資本を投下できるのか？ということですね。新しいカメラが発売されたとしても、果たして4年で減価償却できるのか？東京本社にはカメラマンが60人おりますから、それに一人2台のカメラを供与して、それを次のオリンピックが開催されるまでの4年というスパンで取り戻していけるのか？ということですね。現実的には相当に厳しいのかなと。そういう意味では一つのメーカーの良い機材だけを揃えていくということには難しさがあると感じています。

紙媒体以外でも情報を発信する

—— 動画撮影のような新しい技術は、紙媒体には使用することができないと思うのですが、Web限定の素材ということなのでしょうか？

梅村 当社はWeb限定ですね。さらに今回はSNSでの展開に注力しています。今回は紙面の他に、Web展開も柱と考えました。読者に見て頂くということからするならば、多くの写真素材を見てもらえる写真特集、動画形式のスライドショーが非常に重要な要素となりますので、これからも重きが置かれるというのが認識です。

—— 紙媒体とWebで、使用目的を頭の中で切り替えながら撮影するのでしょうか？

梅村 それは全然ありません。カメラマンは目に見えるものをすべて撮っていくものです。どのように面で使われるか考え、優先順位を付けながら必要なものを、トリミングして写真説明をつけて送りましたが、撮った写真をすべて送っている会社さんもあったようです

ね。それでも、基本的な作業は各社で変わりはないと思います。

—— オリンピックは、さほど長くない日程の中で、競技は増えているという印象がありますが、経験を積んだ人、スペシャルチームでないと、取材はできないのでしょうか。

村上 そのようなことはないと思います。我が社ではすべてのカメラマンに、まんべんなくスポーツ大会を経験させています。オリンピックだから、という特別なことはありません。

—— 通信体制についてお伺いしたいのですが、パルセロナ・オリンピックの時に、携帯電話のモデムを使っている画像送信が行われたと聞いています。このシステムについては、オリンピックを経るごとに変わってきていますか。

山崎 大幅に変わっています。通信速度の高速化の部分が大きく、無線 LAN が導入された時に高速化が達成されましたが、今度はそれがバッティングする問題が生じるようになり、有線 LAN に戻されています。さらに今回は V-LAN というメジャーなエージェンシーが活用されるようになり、それは 100 メガビットという速度を持っています。私たちはその 100 メガを 5 社で分けて使用しました。回線が「空いていれば」通信速度は速くなるわけですね。それでも、海外の通信社は 1 日 1 万枚というような膨大な量の送信を行いますから、これで十分ということにはなりません。

梅村 今回、面白かったのは、各会場に有線 LAN が設置されていて自由に使えたのです。ケーブルが落ちていけば、自由に使っていいよ。ですから Wi-Fi はほとんど使っておりません。東京オリンピックでも、そのような形になればありがたいですね。

榎山 無線というのは当てにならないところがありまして、最初は使えていたはずのものが、取材陣の数が増えると使えなくなってしまうのです。開会式の撮影では、締め切りに間に合わせるために、無線 LAN ではなく、人間が RUN してメディアセンターに向かうということになりました(笑)。

梅村 金網のあるところに行くと無線 LAN の電波が拾えるのです。困ったら金網の所に行けと(笑)。

増田 私たちのスタッフで、開閉会式中に 42km 走ったと言っていた者がいました。iPhone で距離が出ますから。スタッフ 2 人で合わせて 90km(笑)。

梅村 閉会式の時は、回線はもう空いていました。



時事通信社 山崎秀夫氏

人間の育成もこれからの課題に

—— 日本の新聞社、通信社であるということで、世界向けに情報発信をする通信社とは異なる点というようなものをお感じになることはありましたか。

榎山 もちろん、日本人向けに特化している情報であるわけですから、日本人選手の活躍に関しては、より良い写真を撮っているということになるでしょうね。

—— 海外の通信社は、今回リモコンカメラの使用が非常に多かったという印象があります。

村上 私たちもレスリング会場と、体操、陸上競技場とバレーボール、それに開会式、閉会式にはリモコンカメラを設置しましたが、今回は初めての試みということで、上手くいかないこともありました。実は柔道会場にも同様の設備をしていたのですが、思うように作動しませんでした。しかし、競技会場が柔道からレスリングに移行する際に一日の余裕があったことから、この日を調整に当てて、伊調選手、吉田選手の活躍ぶりは、リモコンカメラで日本に伝えることができました。今後は、このようなカメラを増やしていきたいと考えています。PC を見ながらシャッターを切っていますが、これまでのカメラ操作とは異なる操作感がありました。現場の様子を知るためにテレビの映像とも見合わせながら、シャッターを切る操作を続けていくわけです。

—— そういう傾向が出てきたのは、ロンドン大会くらいからなのでしょうか。

榎山 以前はカメラを高い場所などに設置して、固定して使っていましたね。そういう使い方であれば、ずいぶん前からありました。

村上 リモートでの撮影 共同通信社 村上憲一氏は、実際にはかなり難しいです。機械のセッティングも難しく、カメラマンは朝早くから機材の調整をして、競技が終わった後もまた調整をするという連続でした。それは外国の通信社も事情は同じで、LAN 回線が途切れてしまうということも多かったですね。停電もあって、そのための再調整もありました。実際、高い場所であれ、機械に任せるより人が登って撮った方が良い写真が撮れるわけです。昨年の北京の世界陸上大会では、人が登りました。

梅村 去年、世界水泳に行った際にリモート撮影をしていた人が、今回も来ていましたから、やはり機材への習熟が必要なのだと思いますね。今回は、そういう撮影をする人のためのポジションというものも設置されていました。

増田 この会社はこの人間だ、というのはあるようで



すね。そういった人は会場に来て競技を見ることはせず、ひたすらパソコンを覗いています。

—— パソコンで操作をするカメラであれば、撮影した画像をリアルタイムで確認できる。でも、無線で操作するカメラは画像を見ることができない。その差は大きいのでしょうか。

村上 それは大きいですね。やはり無線操作のカメラは、枚数を撮り過ぎてしまう傾向はあります。そうするとサーバーに負担がかかるという問題が発生します。

—— 皆さん、1日に何カットくらい撮影されたのでしょうか。

樫山 競技にもよりますが、以前より増えたことは確かです。スチールカメラでも秒間14コマまで撮影ができるようになりましたから。撮った後にどのカットをチョイスするかはカメラマンに委ねられた作業ということになりますが、結構、悩んでいます。

山崎 カメラマンがある程度カットを選んでから、東京に送信するようにしていました。カメラマンが自身のカメラやPCでピントの確認をしてから送信しますから、以前のように、送られてきた写真が、拡大してみたらピンボケだったというようなことはなくなりました。

増田 私たちは撮っている段階でタグを打ちながら送信しますから、競技が終わった段階ですでにある程度の作業が終わっているという感覚です。そこからは東京本社の受けデスクの作業ということになるわけです。撮影や送信がそうであるように、必要なコマを選ぶこと、それに的確な写真説明をつけることにもテクニックが必要で、それは練習によって培われるわけです。そういった作業ができる人間の育成も、これからの課題になってくると思います。

競技が始まるまでが忙しい

—— 写真がデジタルになってこれまではなかった仕事が生まれ、競技が始まってから終わるまでは、働きづめという印象でしょうか。

山崎 忙しいのは、むしろ競技が始まる前でした。

梅村 私が現地に入ったのは6月25日です。現地に60日間おりました。開会式の朝3時半に聖火の到着を待って、それから開会式に行き、そこで体力を使い果たしたという印象です。

—— よくぞご無事です。

梅村 安全面には気をつけていましたから、機材を盗まれるというようなことはありませんでしたし、現地



伏見行介 出版広報委員

の温かい人に支えられたというのもあったのだと思います。開会式の写真を送ることができたときは、ほっとしました。

増田 競技が始まると、むしろ楽なのです。淡々と過ぎてゆく日程をこなしていけば良い。人員の配置も明確になる。競技が始まる前は、どのような記事作りをしていくかで悩みます。先ほど話に出たように機材の調整もしなければならない。工夫して作った記事が、日本の国内で起こった大きな事件のために没になることもありましたね。これは新聞というメディアの宿命ではあるのですが。

—— 日本選手が活躍した競技というものは、撮影していても、気持ちが高ぶるものですか。

山崎 比例しますね。競技に負けてしまうと、撮っている方も気が滅入りましたよ。

梅村 その意味では、今回のオリンピックは、どの種目でも健闘していたと思います。

樫山 メダルが取れそうで取れなかった競技もありますよね。そういう競技でも、選手が報われて欲しいな、一つだけでもメダルを渡してあげたかったなと、撮っていて感じるがありました。

—— 実際にカメラで撮っているのと、パソコンのモニターを通じて映像を見ているのでは違いますか。

村上 それはもう間違いありません。淡々と映像が流れる中で進める作業というのは、見逃しも生じます。やっぱり、現場にいてカメラを操作している方が高揚感に浸れます。モニターを通じての撮影は淡々としたものです。そのあたり、現場の雰囲気を持つということは、次への反省点であるのかもしれませんが。

梅村 今回のオリンピックは、会場の声援が大きかったという印象があります。それは地元の選手に対してはもちろんなのですが、頑張っている選手にはとても大きな声援が送られていました。卓球の水谷選手は、会場の声援に乗せられて活躍できたという印象もありました。声援に乗せられて選手がガッツポーズをして、撮る方もガッツポーズですよ（笑）。皆で盛り上がるわけです。今回は会場の熱気が凄かったので、選手もノッていったのではないかと思います。

—— 今回は報道陣がテレビに映ることが多かったように感じるのですが。

山崎 会場は狭かったですよ。体操などは、目の前で競技をしているという印象でした。

—— 近いということは、撮りやすいものなのでしょうか。

山崎 今回は比較的撮りやすかったですね。

樫山 どの会場でも、フィールドと観客席が近かったですね。客席とフィールドの間にも段差がなくて、そういう点で楽でした。

梅村 陸上競技場はスペースにゆとりがあって取材も

楽でした。

新聞が速報だけに頼れない時代

——取材する側で、「この競技に賭ける」みたいなものはありましたか。

樫山 力を置いたのは、やはり日本人選手でした。私も人が割いたのは、陸上の400メートルリレーでした。バトンを渡すところは重要と考え、高い場所にもカメラマンを配置しました。

梅村 私たちも同じで、高い場所に人を置きました。最終ランナーへのバトンの受け渡し、桐生から飛鳥へ。そして最終ランナー同士、飛鳥とボルトの併走ですね。このあたりは、大切なシーンだと考えました。

——出来上がった紙面、写真の扱いを見て、喜ぶとか、残念だとか感じるものなのでしょうか。あるいは他紙と比較してみて、何かを感じるということはおありですか。

梅村 現場ではその暇はありません。

増田 現地では、自分たちが送った写真がどのように扱われたのかを確認する程度で、他紙との比較をする時間はありません。そういった作業は帰国後の仕事になります。

——東京の方から、もっとこう撮れというような指示が来ることはあるのでしょうか。

増田 なきにしもあらず、ですね。本社と現場の間の信頼関係に拠るものでもあります。今回は生ニュースだけに頼ることをせず、フォト&エッセイというような記事も多く作りました。速報ということであれば、新聞はネットにはかなわないわけです。通常のスタイルの記事だけではなく、サイドストーリーやエッセイを入れて、写真を見せる、読み物として作る、ということです。それを他の媒体ともリンクさせる。私どもの場合でいえば、大手町で写真展をやりました。そういった展開ですね。これまでの経験から、特設ページを作ることが有効であるということを把握していましたから、速報の「紙勝負」だけでは難しい時代なのです。そういったメディアミックスは、多方面に協力を仰がなければならないという難しさが生まれるのですが、これも時代のニーズなのだと思います。これは次の東京オリンピックへの布石でもあります。

——デジタルの時代になり、紙媒体としての特色を出すということでしょうか。

増田 新聞が速報性だけに頼っているのは駄目だという

ことです。記事に対して、どのような付加価値をつけていくのか、ということです。読者はネットで結果を知っています。それを新聞がなぞっていても価値にはならないだろう。それでは東京オリンピックの時には通用しなくなるのではないかと考えています。

——新聞記事の展開方法も変わっていくということになりますね。

増田 スポーツ競技の記事は、常に結果が伴い、それは伝えなければいけませんから、限られた紙面では「勝ってしまったがために書けなかったこと、負けてしまったがために書けなかったこと」というようにサイドストーリーが紹介しきれない部分があります。フォト&エッセイというような記事はそういった事柄の受け皿になるという性格もあって、運動部記者の協力も得やすかったですね。

——一昔前は、新聞の写真というのは、紙質のためあって、印刷のクオリティは落ちるというイメージもあったのですが、それが近年になって飛躍的に向上しているという印象もあります。現場の方から見て、そのあたりはどのようにお感じになっているものなのでしょうか。

樫山 良くなっていますよ。

増田 昔は、単一色の暗部などに今よりもモアレが出ていました。新聞写真の場合でいえば、画質を上げすぎると、送信の速度に支障をきたす可能性があります。そこで画質を上げ過ぎず、落とし過ぎずという線を見出し、それを加工する人間の経験値も高くなっていますし、もちろんカメラの性能も上がっている。そうした全体のバランスの中で画質が高められているわけです。弊社の場合でいえば、写真部の横に画像センターが設置されていて、そこで新聞の材質に合わせた画質の調整を行っています。そういった人間のスキルについても、オリンピック大会を経るごとに上がっているというのは、はっきりと感じています。

梅村 特に最近になって、カメラの性能が向上しています。それが大きく反映されていると思います。自分たちで撮った写真を見比べてみても、今回撮影された写真は、北京オリンピックの写真よりも圧倒的に美しいものになっています。

——非常に初歩的な質問に戻ってしまいましたが、皆さん、JPEGでお撮りになっていますか、RAWデータなのでしょうか。

増田 カメラの方でデータをセバレート保存できますから、使い分けをしていますね。



毎日新聞社 梅村直承氏



読売新聞社 増田教三氏

—— 新聞に写真を掲載した後、オリンピックの写真集を出される予定はありますか。

櫻山 もう出ています。時期的にも、もう出さないと間に合いません。

—— 昔はJPEGで撮ったらデータ量が足りなくて、写真集に使うことができず、別途画像を調達したというような笑い話もありました。今はもうそういう問題はクリアされているのでしょうか。

梅村 今回、私たちが出した写真集はJPEGによるものですが、美しい仕上がりになっていますよ。もちろん、撮影の際には、大容量での撮影、保存を心がけていますが。

—— 撮影された画像というものは、どのように保存されるのでしょうか。

山崎 弊社にはデータベースがありまして、紙面に採用されたものは、データベース上に保存されます。それ以外のカットは、個人がハードディスクに保存をしています。

増田 紙面に使用されなかったものでも、後から利用される可能性のあるカットはデータベース上に保存します。

—— 膨大な量になるのではないのでしょうか。

櫻山 それが悩ましいところです。ただ、データというものは量が多い方が可能性を生み出しますから、なるべく多く保存するように心がけています。

村上 わが社の場合でも同じように考えています。

「東京」への準備を始めなければいけない

—— 2020年の東京オリンピックでは、報道の現場に開催国としてのアドバンテージはあると考えられるのでしょうか。

増田 共同通信さんは、開催国のホストエージェンシーとしてIOCと契約をされていますから、その部分では直接的な繋がりが生まれることと思います。それは我々にとって写真素材の供給を受けるというようなことになると思われますが、それ以上に私たち新聞社すべてが、何かの供給を受ける、開催国だからアドバンテージがあるとは考えにくいでしょう。IOC自身が開催国に対してフォトグラファーズカードを増やすという方向に舵を切っているということはありませんから、現在の割り当て、1000枚なら1000枚というカードをどのような形でシェアするのかということを考えなければいけません。日本で開催される大会だから、日本人のキャパシティが増やされるとは考えにくいのです。ですから、東京オリンピックでの報道体制は、今から考えていかなければなりませんし、私たち自身が試されている部分もあると思います。多くの人が来ます。国内からも多くの参加者があるはずで、その数は海外で開催されるオリンピックの比ではない。本番が始ま

る前に重要なミッションが幾つもあるのだと思います。東京への準備は、もう始めなければいけないということです。

櫻山 東京オリンピックは良い大会だったねという世界からの評価を得るためには、報道機関についても、各社が労働力を提供して共同体を構築しなければならないでしょう。報道各社の協力体制がどのような形に形成されるのかは、重要な要素となるのではないかと思います。

—— これからの4年間で機材がどのように進化するとお考えでしょうか。

櫻山 4Kからの切り出し機能が、より進歩することになるでしょう。現状では、ピントの追従性に不満が残りますが、それは進歩するでしょうし、その頃には4Kではなく8Kの時代になるでしょうか。

—— そうなると、すべて動画で撮れば良いということになるのでしょうか。

櫻山 ケースバイケースでしょうね。これには権利の問題(放映権)も関連してきますし、元々がスチールカメラマンは、皆シャッターを切る瞬間にこだわるものですし。

山崎 すべての動画で撮れば良いということになると、それはスチールカメラマンの時代が終わるということになりますね(笑)。

梅村 今回、オリンピックの現場でも強く感じたことなのですが、写真と、いわゆる動画では撮り方が違うものです。仮に機材などのインフラが整ったとしても、動画の撮り方では写真表現が得意とするところの「一瞬を狙う」ということはできないのではないかと。すると取材する人間には、シャッターを押す一瞬を見つけ出す力が大切になるのではないかなと思います。これからのカメラマンには、その力が求められるようになると思います。

—— 本日はありがとうございました。

(構成／出版広報委員・池口英司、撮影／出版広報委員・飯塚明夫)



小城崇史 出版広報委員

リオ・オリンピック報道最前線

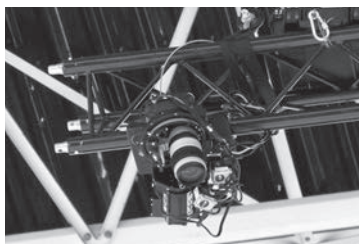
オリンピック競技では、金メダルがもう少し欲しい日本選手団。2020 東京ではがんばってくれると思いますが、昔から金メダルを取り続けているのが、日本のカメラ、キャノンとニコンです。どちらが金メダルかは別としてオリンピック取材に来た世界中のカメラマンの 99.9% は両社のカメラを使用しています。

両社に、今回のオリンピックにどう取り組んだのかお伺いしました。

テレビには映らない 「リモートカメラ」の最新事情

人間が遠隔操作で撮影するリモートカメラ。今大会でも柔道・レスリング・水泳や体操会場で数多く使われた他、Getty・イメージズが自社制作のハウジングを駆使して水泳競

技のダイナミックなシーンを切り取ったことでも話題になったが「リモートといっても、動画の撮影システムで既に作り上げられたものを応用しただけで、そこで使われるカメラは市販の EOS-1D X Mark II そのもの。システム自体も非常にシンプルなものです」とは、ロンドン大会に続きサポート業務に従事した、キャノン(株)ICP 第二事業部の原敬俊さん。そもそもロンドン大会から始まったリモートカメラの潮流は「テロ防止の観点ということもあり、キャットウォークからの有人撮影が禁止された」のがきっかけだという。



キャットウォークに設置されたリモートカメラ (写真提供/キャノン(株))

しかし 4 年の歳月はさまざまな部分に進化をもたらし、その一つとして「ロンドンでは、カメラをコントロールするソフトウェアと雲台をコントロールするソフトウェアは別々なものでしたが、今大会で使われたソフトウェアは一つにまとまったため、オペレーションも一人でのオペレーションを容易にする」までに進化したという。

しかし 4 年の歳月はさまざまな部分に進化をもたらし、その一つとして「ロンドンでは、カメラをコントロールするソフトウェアと雲台をコントロールするソフトウェアは別々なものでしたが、今大会で使われたソフトウェアは一つにまとまったため、オペレーションも一人でのオペレーションを容易にする」までに進化したという。

キャノンでは、AP、Reuters、AFP、そして Getty を中心に、全部で 60 台程度のリモートカメラが今大会では使われていたのではないかと推定しているようだ。「ソフトウェアやハウジングばかりがどうしても目立ってしまいますが、EOS のアクセサリとしてご提供している WFT シリーズ (ワイヤレスファイルトランスミッター) でも、複数のカメラを連動させて撮影可能なソリューションを提供しているので、かつてのように『特別なカメラ』をメーカーが作るのではなく、フォトグラファーやエージェンシーがカメラの持つ機能を生かして仕上げていく、そんなイメージではないでしょうか。

さらに言えば、キャノンでは「撮影領域の拡大」を目標に掲げてカメラを開発しています。『写真家がカメラを持って撮影する』がカメラ開発の中心であることに変わりはありませんが、リモートカメラは写真家の撮影する領域を拡大していくソリューションの一つの解だと考えています」という言葉に、五輪取材の最前線におけるカメラメーカーの役割も変わりつつある印象を受けた。

東京から TOKYO へ。報道現場を陰で支える

日本のカメラ産業の歴史を語るとき、1964 年の東京五輪は絶対に外すことのないイベントだ。それまでスビグラなどの大型カメラ中心だった報道機関の写真取材が、35mm 一眼レフカメラのシステムにとって代わったからだ。よく「報道のニコン」と言われるイメージも、源流をたどるとここに行き着くのかもしれない。しかし「オリンピックでは今、スポンサーになっていない企業が MPC 内で過剰なアピールをするとルール違反になってしまうので気を使います」と語るのは、今大会を現地でサポートしたニコンイメージングジャパンの富松圭さん。

オリンピックのサポートは(株)ニコンが中心となって 2 年ほどの準備期間を経て実施される業務だけに、長年の経験から編み出された MPC におけるサービス体制は「需要予測が外れることはほぼない」とか。

今回は 16 カ国から集まったサービスマンが、朝 7 時から夜 11 時までサポート業務に当たった。サービスデポに用意されたカメラは D5、D4S、D810、D500 で「市販されているものと何ら変わらない」ものだという。

富松さんの目から見た今大会における変化はやはり「ネットワーク環境の整備が進んだことと、それに伴う機材の変化」だという。「技術の新しい潮流をキャッチアップしていく上で、要素技術の進化も速いことからカメラのモデルチェンジサイクルも必然的に短くなってきます。今回私たちは D5 を持つ



MPC 内に設置されたサービスデポにおける作業の様子

て行ったわけですが、そのモデルサイクルが今大会と合致したことで、AF性能の大幅な向上とネットワーク機能の強化が好評でした。しかし技術が進化する以上、4年後の東京がどうなっているかは私たちにもわかりません」とも。悩ましいのはやはり、通信やインターネット

のあり方が変わることによるニーズの変化をどう製品に反映させるか、のようだ。

(取材／出版広報委員・伏見行介、取材・記／出版広報委員・小城崇史)

前回特集のアテネオリンピックから12年。その間大きく変わったのは、写真の流通手段と機材の劇的進化だ。2004年アテネオリンピック当時はまだまだ「紙」の時代、その時と今は大違いでWebメディア中心になった現在は、撮り方も写真の配信も大きく変わりました。IOCの公式写真エージェント・ゲッティイメージズと、JOCの公式写真エージェント・アフロは、今回のオリンピック取材をどのように取り組んだのでしょうか。

10万枚の写真を全世界に配信

今大会、IOCオフィシャルフォトエージェンシーとして全世界に写真を配信したのがゲッティイメージズだ。40名の写真家、20名のフォトエディターに加えて技術者や一般スタッフなど、リオ五輪に関わったスタッフの人数は120名を数え、早朝から深夜まで毎日18時間稼働で写真配信業務を行った。

同社でスポーツイメージ・サービス部門VPをつとめるケン・メイナルティスさんによると「撮影枚数は一日平均約83,000枚、大会期間中に撮影された総カット数は1,500,000枚にも及びます。テレビでは観たこともないような写真も配信され、男子100mでウサイン・ボルトが笑顔で他の選手を追い抜く写真のように、ネットで話題を集める写真も出てきました」という。そしてゲッティの写真を語るとき忘れてはならないのが、ロボットカメラによって撮影された写真だ。

「弊社はロンドン大会でロボットカメラの技術を取り入れましたが、リオでは2台の水の中ロボットカメラを含む、10の会場で20台のカメラを使用しました。ロボットカメラにより、フォーカス、ズーム、そしてカメラの向きなど、細かい調整をしながらアスリートの動きを追うことが可能になりました」とのこと、カメラ自体は市販のものだが、今大会では360度回転可能なコントロールシステムをカメラメーカーと共同開発することにより、オリンピック競技の全く新しい一面を捉えることに成功している。撮影された画像は光ファイバー回線によって写真家からフォトエディターに転送され「消費者には最短120秒」で届くようになっていたという。

現時点で考えられる最先端を行くゲッティイメージズだが、最近話題になっている動画からの切り出しについては「IOCの許可がないので動画からの切り出し等に行っていない」とのこと、放映権がビッグビジネスである以上、テレビ放映と写真取材の垣根が取り払われるにはまだ時間がかかるのかもしれない。

情熱は時代と世代を超えて

1998年、長野五輪から始まったJOC公式写真集。その撮影・編集・制作を手がけているのが、JOCのオフィシャルフォトエージェンシーでもあるアフロだ。代表で

あり、写真家の青木紘二さんは現地での撮影だけでなく、この写真集制作業務にも携わるためオリンピックが終わっても本が出来上がるまで息の抜けない日々が続くという。

「種目は何であれ、その国で一番になるというのは大変なこと。オリンピックはその一番の選手たちが世界中から集まってきた大会」と考える青木さんが一番最初にオリンピックに触れたのは1964年の東京大会で「始発電車に乗って沿道に行ったら、一番前で見ることができた。遠くからアベベ・ビキラ（エチオピア）がひたひたと走ってくる姿が今も脳裏に焼き付いている」という。写真集は「オリンピックが大好きな私が、日本のスポーツに貢献したい」という思いから始めた仕事で、後から見たときに「その時代の姿」が誌面を見て分かる構成を意識しているそうだ。

しかし会社の業務はそれだけではない。撮影後、配信までのスピードを競うのは新聞社・通信社と変わらない世界だ。写真のセレクト、タグ付け、キャプション、そして送信は現場に立つ7名の写真家が担った。クライアントからは報道機関とは違うクオリティの高い写真を求められるだけに「ベテランから若手まで、誰ひとり手を抜く者はいない。弊社にはイタリア人の写真家もいるが、大会期間中食事に誘ったら『送信があるから』と断られた」と笑う。

4年後にやってくる、夏季五輪としては56年ぶりの自国開催となる次の大会への思いを何うと、こんな言葉が返ってきた。「ここ10年機材の進歩によって今まで撮れなかった映像が取れるようになり、またその進歩を利用した新しい映像を皆が撮るようになってきています。しかし『慣れ』からくる慢心が一番よくない。常にアマチュアカメラマンのような気持ちで、未だかつて撮ったことのない、新しい映像を目指してカメラを構えたいと思っています。」

(取材／出版広報委員・伏見行介、取材・記／出版広報委員・小城崇史)



アフロ企画・編集による公式写真集2016

「温故知新」の襲来はアーカイブから

河野和典 KOUNO Kazunori (フォトエディター)

本欄では昨年 160 号で〈戦後 70 年「戦争を記録する写真」〉、今年の 161 号で〈戦後 71 年目からの「反戦・平和」へ向けて〉、前号 162 号で〈5 年目を迎えた「東日本大震災」〉を採り上げてきたが、何故か今年になってから急に写真展においては「古きを知って新しきを知れ!」とばかりに、先人の傑作展が目白押しに続いている。まるで「温故知新」の襲来のようなのだ。それも単なる蒸し返しではなくて、多くの人にとってこれまで目にしたことのない作品がほとんどで、新鮮このうえない印象であった。これは、今を生きるわれわれに対する先人の叱咤激励か、いやはや、現在の写真状況へのご不満かも知れない、と思ったりもした。以下に列記してみよう。

◎「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」展

(2016 年 4 月 5 日～5 月 22 日、埼玉県立近代美術館)

ラルティエグ(1894-1986)は、アンリ・カルティエ＝ブレッソン(1908-2004)やロベール・ドアノー(1912-1994)の先輩にあたるフランスを代表する、というより写真の発展と共にあった世界を代表するような“写真の申し子”とでも言えるような人であるが、オートクロームによるカラー写真を本邦初お目見えさせるなど、これまでになくラルティエグ作品の全貌を明らかにする展示であった。



ジャック＝アンリ・ラルティエグ展

◎大原治雄写真展

—ブラジルの光、家族の風景—

(2016 年 4 月 9 日～6 月 12 日、高知県立美術館／2016 年 6 月 18 日～7 月 18 日、伊丹市立美術館／2016 年 10

22 日～12 月 4 日、清里フォトアートミュージアム)

高知県出身の大原治雄(1909-1999)は、17 歳で家族と共にブラジルに渡り、24 歳で結婚したのだが、その結婚式を撮影した人から写真の手ほどきを受けて没入したという。入植地で鋤と共に手にしたカメラで撮影された日々の写真は、ブラジルの大地をバックグラウンドに家族、子供たち、周囲の人たち、風景、植物など様々な光景を詩情豊かに描き、20 世紀後半のブラジル写真史に名を刻む写真家の一人となった。今展は初めての里帰り展となる。



大原治雄写真集「ブラジルの光、家族の風景」

◎マルティン・チャンビ写真展

(2016 年 4 月 19 日～5 月 23 日、東京広尾・ペルー大使館)

チャンビ(1891 - 1973)は、南米ペルーを代表する歴史的写真家である。1920 年代から 40 年代にかけてのマチュピチュなどの風景をはじめ、遺跡、ポートレイト、記念写真、風俗、祭や儀式、農業など 32 点の展示作品は、ペルー独特の表情を刻んでいて文化的香りに満ち溢れていた。ラルティエグ同様にガラス乾板の精密なネガからのモノクロームプリントは、「光の詩人」と言われているそうだが、絶妙なグラデーションと深みのある黒がひととき印象深かった。

◎「新山清：サブジェクティブ・フォトグラフィー」—ヴィジュアル世界の冒険—

(Part1 2016 年 5 月 12 日～6 月 4 日、Part2 同 6 月 17 日～7 月 9 日、Blitz Gallery)

新山清(1911-1969)は、1950 年代の初め、ドイツの主観主義写真の提唱者オットー・シュタイナートに認め

られた日本を代表する主観主義写真家の一人である。ヴィンテージ9点と加藤法久のニュープリント37点が2回の会期に渡って展開されたが、今展で目を引いたのはBlitz Galleryオーナー福川芳郎による展示構成で、展示された新山作品が見違えるほど新鮮な輝きを放っていたことに驚かされた。

◎「光源の島」東松照明写真展

(2016年5月24日～30日、新宿ニコンサロン及びニコンサロン bis 新宿／6月16日～22日、大阪ニコンサロン)

昨年『新編 太陽の鉛筆』が出版されて話題となったが、東松照明(1930-2012)にとっては終の棲家となった沖縄を、1973年から1991年まで足繁く通って撮影された、まさに東松ならではの澁刺とした瑞々しさをたたえるフィルム時代の69点。写真展冒頭に「この度、東松にとって思い出深い島である宮古島で発見された百枚を超えるオリジナル・カラープリントは、今から四半世紀前に東京で初めて発表された、当時の雰囲気感を瑞々しく伝える意味深い写真群である」という展覧会企画監修・伊藤俊治／石川直樹のコメントが添えられていたが、「温故知新」という言葉がふさわしい写真展であった。

◎マヌエル・アルバレス・ブラボ写真展

—メキシコ、静かなる光と時

(2016年7月2日～8月28日、世田谷美術館)

メキシコの写真家マヌエル・アルバレス・ブラボ(1902-2002)は、よほどの写真史研究家でもない限りその全貌を知る人は少ないのではないだろうか。私の記憶に残る作品も、包帯を足に巻いた裸婦(「眠れる名声」1938-39年)くらいであった。今展は約1世紀(100歳)生きたブラボの1920年代の初期作品からはじまり、メキシコ革命時の壁画運動の画家リベラ、シケイロス、オロスコらとの交流、1923年米国からメキシコにやって来たエドワード・ウェストンとパートナーのティナ・モドッティに認められその影響を受けた時代を含めて、その全貌が年代順に192点の作品と資料によって4部・9章構成で展示された。今年屈指の注目の写真展であった。



マヌエル・アルバレス・ブラボ写真展

◎芸術写真の時代 塩谷定好展

(2016年8月20日～10月23日、三鷹市美術ギャラリー)

塩谷定好(1899-1988)は、かの植田正治(1913-2000)に「私にとっては神さまみたいな存在」と言わしめた郷里の先輩であると同時に、「芸術写真」の先達でもあった。今展は鳥取県立博物館と、個人所蔵の1922～1973年撮影の100点が展示された。鳥取の片田舎、赤碕を中心に撮影された風景、人物、静物はいずれも地味



塩谷定好展

で静かなたたずまいの作品だが、気品たどようファインプリントで、1982年にはフォトキナ栄誉賞を受賞し、アメリカでは「ジェントル・アイ」と評されている。

以上のほかにも、入江泰吉作品展「大和路郷愁」(2016年6月28日～7月31日、JCII PHOTO SALON)もあったが、スペースの関係でまたの機会にゆずりたい。

最後になるが、これら名作の数々を観てきて思うことは、「写真のアーカイブ」という大問題に突きあたったということだ。

急務な「写真アーカイブ」の設立

インターネットの「Wikipedia」によれば、「アーカイブ = archive とは重要記録を保存・活用し、未来に伝達することをいう」とある。上記ラルティエグのアーカイブはフランス文化庁の肝いりで設立された財団で管理・運営され、大原治雄作品もモレイラ・サーレス財団で、チャンビ作品には「Archivo Fotografico Martin Chambi, CUSCO」の刻印が読み取れる。ブラボも遺族の管理・運営ながらアーカイブが設立されている。日本では、当日本写真家協会が運営する「日本写真保存センター」が2007年から本格的に活動を開始したが、いまだ写真のアーカイブは始まったばかりと言ってよい。2013年高知県立美術館に石元泰博フォトセンターが開設され大きな話題となったり、また2008年に大辻清司コレクションが武蔵野美術大学へ寄贈され今年3月に膨大な『大辻清司 武蔵野美術大学美術館・図書館所蔵作品目録』が刊行されたのが目に付く程度である。いずれにしても、上記のような見応えある写真展が開催されるためには、作品の整理整頓が成された「写真アーカイブ」の有無が鍵を握る。

「日本写真保存センター」調査活動報告(22)

写真原板の利活用を促すフォトアーカイブの構築へ

松本 徳彦 (副会長)

写真保存センターの収蔵作品によるデータベースが間もなく稼働し始める。

保存センターの役割は、時代を色濃く捉えた歴史的、文化的に貴重な写真の原板(フィルム・ガラス乾板)を収集・保存することである。と同時に写真原板の利活用を促進するためにデータベースを構築し、ネット上で多くの人が必要な画像を検索して利用が図れるフォト・アーカイブ化を目指している。

利活用は新聞、テレビ、出版などのメディアから、学術、教育機関での活用、行政や企業などでの広報活動にいたる広範囲な需要に応えられるよう活動している。将来的には全国に在る公文書館、図書館、美術館、博物館、郷土資料館などの収蔵写真資料との連携を図り、横断的な検索を可能にし利便性を強める。

日々の記録こそ残しておきたい

野水正朔さんが写真に興味を持ったのは、敗戦から間もなくの1952(昭和27)年であった。ようやく町に復興の兆しが見え始めた頃で、二眼レフカメラを肩に自転車で町を駆け廻っていた。そのとき太平洋戦争で戦死した夫の遺骨を胸にしっかりと抱いた夫人の葬列を見たときは胸を打たれた。これは撮っておかねばとかられて必死の思いで撮影した。心臓は動揺しカメラを持つ手は震えたが、これこそが歴史の一瞬と思い撮ったという。1956年のことである。以来、出来事はいま写しておかないと、記憶は消え失せてしまうとの衝動から、その時々の人々の暮らしや出来事を撮るようにしたという。

暮らしも落ち着きを見せ始めた1967年、高度経済成長の波に乗って、町の様相がどんどん変わって行った。中学生が関西方面に次々と集団就職していった。洲本港では担任の先生やクラスの仲間たちが別れを惜しんで見送った。汽船のスピーカーから「蛍の光」が流れ出すと、「しっかりねえ」「身体に気を付けてえ」と励ましの声が響き、五色のテープを引きずりながら汽船がゆっくりと港を離れて行った。

淡路島は人形浄瑠璃の発祥の地でもある。正月には人形役者が三番叟の人形を手に、村々の家を訪ね神楽を奉納して歩く。こうした伝統行事も時代の変遷とともに消えて行く。今では地元の中学や高校に人形浄瑠璃のクラ

ブがあって先達から指導を受け、伝統を守る若手が育っている。田植えや稲刈りのころには村人が総出で田んぼで汗を流す。ひと時の休息は村人たちの打ち解けた茶飲み話で団欒が和む。こうした古くからの暮らしの諸相もどんどん失われ、農機

具ひとつとって

も機械化が進み、農村で働く人を見かけなくなっている。

「日本写真保存センター」では、こうした日本人の営みを記録した写真を集めている。祭りだけではない、日常生活記録こそ残しておく必要があると積極的にアマチュア写真家の家を訪ね、お宝を探している。



別れ 洲本港で 1967年

野水正朔 (のみず・まさあき)

1932(昭和7)年 淡路島三原町で生まれる。52年頃から「淡路島」を撮り始める。55年、淡光会設立会員。68年兵庫県写真作家協会会員。70年写団あわじ設立会員。71年洲本市美術展運営委員。72年全日本写真連盟兵庫県本部委員。79年三原大学ゆづるは学園写真講座講師。92年兵庫県「ともしびの賞」受賞。93年二科会友。94年全日本写真連盟関西本部委員。写真集『淡國写真帖』を淡國書房から出版。



無言の帰還 1956年

若目田幸平―庶民の住む下町風情を記録する

2007(平成19)年平凡社から帯に、“豆腐屋カメラマンが撮った、ノスタルジックな1970年代の町と人の記録”と付けられた写真集『東京のちょっと昔―30年前の下町風景』が出版された。これは面白そうだ。直感が当たった。

目次に、第1章：下町の風景、2章：元気な子ども、3章：下町の暮らし、4章：祭りと盛り場、5章：路地と横町、6章：作る、商う、働く、7章：庶民の素顔、8章：70年代東京風俗。とある。これを見ただけで東京の下町、庶民の暮らしぶりが目に浮かぶ。

若目田さんは77年頃から『アサヒカメラ』の月例に応募され、自由の部で年度賞第1位をとられたベテランである。78年には雑誌『太陽』の太陽賞に「女たちの下町」で応募し、第15回準太陽賞を受賞する。爾来、『太陽』や『アサヒグラフ』『ドリブ』『歴史読本』『写楽』などで活躍するかたわら、85年以降、テレビCMに出演するなど多彩。93年ニコンサロンで個展「部屋」を催す。2007(平成19)年平凡社から『東京のちょっと昔』を出版。

この『東京のちょっと昔』を編まれたのは、『太陽』の元編集者だった西田成夫さんで、氏によれば、若目田さんは品川区二葉町商店街で豆腐屋を営み、早朝から商売に励み、昼過ぎから撮影に出掛けるという。東京の下町は戦災で焼けてしまったところが多いが、被災しなかったところも結構あった。なかでも現在東京スカイツリーで知られる押上近くの墨田区京島界隈には、古くからの木造造りの家並みが軒を連ね、路地や横町に惣菜屋や衣装、小間物屋などの日用品を売る店があって、庶民で賑わっている。典型的な下町風情が残っていてフォトジェニックなところである。

若目田さんはこの界隈に惚れ込み足げしく通い詰め、出会った人物と溶け合い、すぐにも談笑しながら、庶民の何気ない風貌や風情を捉えヒューマンドキュメントにしている。まさに普段着の世界を初詣から神輿、七五三などの行事に集う人物に視点を定め記録している。屈託のない人柄の良さからか、写した人の家にまで上がり込み、庶民の生活振りや生きざまを捉えている。そのスナップの的確さは鋭く、建物の構造から人物の服装、髪形まで、

子供たちの様々な遊びと、まさに図鑑をひも解くような描写が凄い。

まだ時代が若すぎるという人もいるが、こうした日々の記録こそコツコツと残しておかないと、心に触れる記録は残らない。その意味で野水、若目田両氏の写真原板が保存センターに多数寄贈されたことは、写真による風俗史構築の一步である。

【セミナー開催予告】

・関西地区初の「日本写真保存センターセミナー」

“渡辺義雄からのメッセージ～フィルム保存の重要性～”

日時：2016年11月25日(金)14:00～16:00

会場：大阪ニコンサロン・セミナールーム

大阪市北区梅田2-2-2 ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー13F

講師：松本徳彦(日本写真家協会副会長)

定員：80名(先着順 申込み制) 参加費無料

・PAGE2017 日本写真保存センターのセミナー

“あなたの写真原板の保存について…”

“写真保存センターのデータベースはどこまで活用できるか”

会場：池袋サンシャインシティ文化会館

開催日：2017年2月8日(水)予定 聴講無料

定員80名 申込順

お願い：

あなたの写真原板(フィルム、乾板等)は、大丈夫ですか？

現像済みのフィルムは支持体の性質上、時間が経過すると経年劣化が起きます。保管箱を開けて、酢酸臭がするようでしたら、ビネガーシンドロームが起こっています。

急いで、「写真保存センター」TEL:03-3265-7451 にお問い合わせください。



荒川(荒川区)の京成本線の高架下 1970～80年頃



町屋(荒川区)の金魚売り 1970～80年頃

クリエイタ指向の著作権制度を求めて

上野達弘（早稲田大学法学学術院教授）

我々写真家であれ、日常生活の中で著作権に頼ることは稀ですが、いざ自分の作品の権利を守りたいと考えた時に必要になるのが、著作者や著作物を保護することを定めた著作権法です。100の国があれば100通りの著作権法が存在し、いずれにもその国が自国の文化をどのように考えているのかや守るべきことなどが書かれています。

今回は視野を広げ、日本の著作権法が、写真家の活動と作品にどう関わるのかを海外の著作権事情に詳しい早稲田大学法学学術院の上野教授に御紹介いただきました。（著作権委員会）

できるだけ外から日本を見る

このコラムは、8月の日本を離れてミュンヘンの地で記している。ここは私にとって、かつて留学していた第二の故郷。ここに私はできるだけ毎年夏に2週間ほど滞在している。単に日本の猛暑を避けるためだけではない。それは外から日本を見つめ直すためなのだ。

過度な強調は私も好まないが、日本というのは、離れて見ると特殊性を感じることが少なくないものだ。例えば、クリスマスが日本では恋人と過ごすロマンティックなイベントになっているが、それが静謐な聖夜でしかない外国から見れば奇異そのものだろう（※1）。また、日本のホテルで挙げるキリスト教式の結婚式も、外国から見れば「教会」と言えるようなものではなからう。

これらは、外国の文化や風習を取り入れつつも日本特有のアレンジを加えた結果、特殊なものとなり、もはや本来の背景や意味が失われているわけなのだが、そのことに我々は気づかなくなりがちである。

日本という地にだけ暮らしていると、日本国内のことは、実に些末なところまで目につくようになるが、その代わりに日本を客観視することは容易でなくなり、いつしか疑うこともなくなってしまうように思われる。

クリエイタを軽視する 日本の特殊な職務著作制度

このことは、文化や社会だけではなく法律についても当てはまる。

日本の著作権法も、ドイツやフランスなどのヨーロッパ大陸法をベースとしながら、アメリカなどにおける個別の制度を寄せ集めて、さらに日本流にアレンジした結果、どこの国にも見られない独特の姿になっているところがいくつかある。日本の職務著作制度はその典型だ（※2）。

もともと著作権制度というのは、作品を創作した「著作者」に権利を与えるという理念に基づいている。多くの国ではこれを重要な原則としており、特にヨーロッパ大陸では揺るぎないものとなっている。

ところが、日本の著作権法はユニークな職務著作制度を有している。つまり日本では、クリエイタが会社の従業者として職務上作成した著作物は職務著作となり、会社が著作者として全ての権利（著作権・著作者人格権）を取得する。他方、このときクリエイタは何の権利も取得できず、さらに「著作者」としての立場も会社に奪われてしまう。このような制度は、ヨーロッパ大陸はもちろん、英米法にも見られない極めて特殊な立法例だといわれている。

もちろん、クリエイタがフリーの立場であれば職務著作にはならない。そのようなクリエイタは、たとえ他人の注文を受けて作品を作ったとしても、自らが著作者になる。写真家の世界ではそうしたケースが多いのかも知れない。だとしても日本では、新聞、雑誌、ビデオゲーム、テレビ番組、キャラクターグッズなど、職務著作による作品が非常に多いのである。

5年ほど前のことだ。ロンドン大学で講演を行った際、著名なエイドリアン・スターリング教授から日本の制度について次のような質問をされた。「日本法の場合、職務著作に当たると会社が著作権のみならず著作者人格権も取得するということが驚いたのだが、では、そのとき author は誰になるのか？」というのである。私は「日本法の場合、会社が author ということになります。」と答えたのだが、どうも釈然としないといった渋い表情だった。イギリス法にも職務著作制度はあるのだが、それは日本のようなものではないし、彼等にとって自然人以外が author になるというのは理解し難いことなのだろう。

日本にはクリエイタを保護する契約法もない

このように、日本では、自然人のみならず会社も「著

作者」になり得る。このことは、実はクリエイタにとってさらなる不幸をもたらしている。それは日本の著作権法に、著作者を保護するための契約法がないことである。

ヨーロッパ大陸の著作権法には「著作者＝クリエイタ」という前提があるからこそ、交渉力に劣るクリエイタが契約によって不当な扱いを受けないようにするために、契約内容を規制する契約法が設けられている。例えば、ドイツでは、報酬が「相当」と言えない場合、契約締結後であってもクリエイタは対価の修正を要求できるとか、あるいは予想外のベストセラーとなった場合は、クリエイタが追加的な報酬を請求できることになっている。フランスでは、著作権を譲渡する場合、クリエイタが一括払いで買ったたかれないように、報酬は必ず収益に連動しなければならないと定められている。アメリカでさえ、クリエイタが出版社等に権利付与した場合、その35年後には契約を終了させて著作権を取り戻すことができる「終了権」がある。このように、多くの国にはクリエイタを保護する著作権契約法があるのだ。

これに対して、日本の著作権法には、そうした契約法が潔いほどに一切ない。日本では、著作権契約は当事者の完全な自由で委ねられており、対価の規制も皆無である。したがって、自分の著作権を全て無償で譲渡するというような契約が、書面もなく簡単に締結できてしまう。国際的に見れば、このことは決して当然のことではないのだ。

クリエイタに焦点を当てた著作権制度を

そこで私は最近、クリエイタに焦点を当てた著作権制度を構築すべきことを主張している（※3）。

2年ほど前、私のミュンヘン留学中の師だったアドルフ・ディーツ教授を早稲田大学に招いたことがある。同教授は講演の中で、ヨーロッパ大陸の著作権法は法律名においてauthorの権利（ドイツ語のUrheberrechtやフランス語のdroit d'auteur等）に言及しているが、「人」が登場しないcopyrightやcopyright lawといった言葉を安易に使用することは、著作権法が何よりも関心を向けるべき「人」に対する視点を喪失する危険があることを指摘した（※4）。日本の著作権法も「人」であるクリエイタに対する視点を忘れ過ぎているのではなからうか。

現状の日本が当たり前にならないように

とはいえ、日本の制度がいかに特殊であっても、それが日本社会に適合している可能性は否定できない。恋人と過ごすクリスマスだって、「日本版」職務著作制度だって、それが日本に適合しているならそれでよいのかも知れない。

しかし、自分の家や職場しか知らずに「ここは居心地が良い」と言うのでは、本当に居心地が良いのかどうか判断できないはずだ。日本版職務著作制度については、クリエイタからも大きな批判の声は聞こえてこないように思われる。サラリーマンなんだから仕方ない、と思われているのかも知れない。しかしそれは、この制度が日本の中であまりにも自明の前提になっているために、そもそも疑問を感じる機会がないからではないだろうか。

啓蒙されるより知らぬが仏でいる方がよいということも、ひょっとしたらあるかも知れないが、あるべき社会や法制度を展望するのであれば、そのような姿勢は望ましいものではない。今の日本が国際的に見てどう位置づけられ、どのような特徴を持っているのかを客観的に認識することが必要だ。

もちろん、そのような視点を持つことは誰しも簡単でない。日本ではどうしても、単一性の高いコミュニティにおいて自明の前提になってしまっている特殊性に気づかなくなりやすい。このコラムで偉そうに国際的視点を云々している私自身も同じである。学会や講演で外国に行く機会も多いが、日本であくせく仕事をしていると、すぐ日本に染まってしまうのだ。だからこそ私は、いくら忙しくても、毎夏できるだけまとまった期間ヨーロッパに滞在するようにしている。猛暑を避けること（だけ）が目的ではない。日本が嫌いなわけでは、もちろんない。何とかして外からの視点を持ち続けたい、そんな足掻きのようなものなのだ。

- ※1：上野達弘「ジャパニーズ・クリスマス」法学週辺 40号 88頁(2012年)参照。
- ※2：詳しくは、上野達弘「出版と著作権制度」上野達弘＝西口元編『出版をめぐる法的課題—その理論と実務』（日本評論社、2015年）1頁も参照。
- ※3：上野達弘「国際社会における日本の著作権法 —クリエイタ指向アプローチの可能性—」コピライト 613号 2頁(2012年)参照。
- ※4：アドルフ・ディーツ＝上野達弘訳「著作権法による著作者・実演家の保護」高林龍ほか編『年報知的財産法 2015 - 2016』（日本評論社、2015年）39頁参照。

上野達弘(うえの・たつひろ)

早稲田大学法学学術院教授。1971年東京生まれ。兵庫県立神戸高校、京都大学法学部卒、同大学院法学研究科修了。成城大学法学部専任講師、立教大学法学部助教授を経て、2013年より現職。2009～2011年マックスプランク知的財産法研究所（ドイツ・ミュンヘン）客員研究員。著作権法学会理事、日本工業所有権法学会常務理事、ALAI Japan 理事、法とコンピュータ学会理事、文化審議会著作権分科会法制・基本問題小委員会委員、同国際小委員会委員など。

キヤノンマーケティング ジャパン

約 3,040 万画素の解像力と
高速連写・高感度性能を両立した
EOS 5D Mark IV

「EOS 5D Mark IV」は、「EOS 5D Mark III」(2012 年 3 月発売)の後継機種で、静止画・動画ともに本格的な作品づくりを実現するため、フラッグシップ機の「EOS-1D X Mark II」(2016 年 4 月発売)に採用されているさまざまな新技術を搭載した高性能モデルです。

有効画素数約 3,040 万画素 35mm フルサイズ CMOS センサーおよび映像エンジン「DIGIC 6+ (プラス)」の搭載により、常用 ISO 感度 ISO100～32000 を実現しています。また、新開発ミラー振動制御システムの採用により、最高約 7 コマ/秒の高速連写を実現しています。さらに、撮像素子から得たデュアルピクセル情報を RAW 画像に付加する「DPRAW 撮影」が可能となり、キヤノン独自の RAW 現像ソフトウェア (無償) を通じて撮影後に解像感補正などの微細な画像処理ができます。

加えて、「61 点高密度レティクル AF II」の搭載により、従来機種より縦方向に測距エリアが拡大し、エクステンダーを使用した超望遠撮影時は、レンズの開放絞り数値が F8 までの明るさでも全測距点で AF が可能※です。
※装着するレンズにより測距点数、クロス測距点数が変動。



キヤノンマーケティングジャパン株式会社

■商品に関する問い合わせ先

キヤノンお客様センター

TEL 050-555-90002

canon.jp/5dmark4

ヨドバシカメラ

ヨドバシカメラは、写真文化の発展に
取り組みます

ヨドバシカメラは 1960 年の創業以来、初め

てカメラを買われる初心者の方から、プロのフォトグラファーの方まで満足いただける幅広い品揃えと満足いただける価格、専門知識を持った販売員のアドバイスをご提供し続けることでお客様からの支持をいただき現在に至っております。

また全国各地でのカメラ撮影会にもさらに力を入れて参ります。本年は 5 月の東京よみう



りランドでのモデル撮影会を皮切りに、6 月には大阪万博公園撮影会、そして 8 月には昨年出店致しました名古屋地区にて「愛・地球博記念公園 大撮影会」を開催。9 月には札幌、福岡、10 月には東京としまえん、仙台での撮影会を実施致しました。また 11 月には京都で初となる「太陽が丘モデル撮影会」を開催致します。いずれの撮影会においても、各カメラメーカー様のご協力により様々なカメラやレンズを試用でき、店頭で触れるのとは違った体験を参加者の皆様に提供しております。

写真を愛する方、写真を楽しむ方への撮影機会のご提供、また交流の場として今後も撮影会の開催をはじめとした写真文化の発展に少しでも貢献できる取り組みをヨドバシカメラは行なって参ります。

株式会社ヨドバシカメラ

担当者: 三宅 泰夫

連絡先: 東京都北新宿 3-20-1

ヨドバシカメラ総合センター

TEL:03-3227-2271

Mail:info@yodobashi.com

URL:http://www.yodobashi.com

プロフォト

世界最速のモノブロック D2 AirTTL

プロフォトは、最短閃光時間 1/63,000 秒、秒間 20 回の高速連射可能、最高 1/8,000 秒のシャッタースピードでシンクロ可能な世界最速のモノブロックストロボ「D2 AirTTL」を 9 月 15 日に発売しました。

現在のほとんどの高性能スタジオジェネレーターを凌駕する驚異的なスピードをモノブロックで実現しました。1/63,000 秒の閃光時間で極限までシャープに動きを止め、最速秒間 20 回の高速連射で 1 秒間の動きを 20 ものバージョンで捉えることができます。最大出力が



500Ws と 1000Ws の 2 モデルご用意し、それぞれ 10 f-stops の極めて広い出力レンジを持ちます。全ての出力レンジにわたって優れた色温度安定性を実現しています。ハイスピードシンクロ (HSS) テクノロジーを搭載し、最速 1/8,000 秒のシャッタースピードでの撮影が可能です。TTL 自動調光機能と、直感的に操作可能な優れたインターフェースによって、撮影ワークフローの効率化にも貢献します。

プロフォト株式会社

マーケティング・コミュニケーション部

担当: 平井

Tel: 03-3206-1861

Fax: 03-3206-1864

Email: info@profoto.jp

Web: www.profoto.com/ja

東京工芸大学

「Flowers」

写大ギャラリー・コレクションより

11 月 7 日 (月) ~ 12 月 21 日 (水)

本展は、写大ギャラリーが所蔵するオリジナルプリント・コレクションの中から、「花」に結びつきのある作品を展示するものです。



イボリット・バヤール「Bauquet de Fleurs」
1850 年頃
(10:00 ~ 20:00 開館 会期中無休・入場無料)

洋の東西を問わず、写真が発明されるずっと以前より、花は美術品や工芸品、日用品の中に描かれてきました。花はそれ自体として、また装飾品の一部として、私達の日常に彩りと潤いを与えてくれると同時に、多くのアーティストにインスピレーションを与え、表現されてきました。写真術の発明直後より、花は被写体として写真家にも好まれ、被写体となった人物にも風景にも、写真それ自体にも、美しさを添えてくれます。

本展では、写真に写された、もしくは写り込んだ花がそれぞれの時代や文化の中でどのような意味を持ち、写真家の目にどう映っていたのか、思いを巡らせながら観ていただけたらと存じます。

東京芸芸大学 写大ギャラリー

担当：吉野・堀内

東京都中野区本町 2-4-7 芸術情報館 2F

TEL：03-3372-1321 (代)

FAX：03-5388-7996

<http://www.shadai.t.kougei.ac.jp/index.html>

ニコンイメージング ジャパン

AF-S NIKKOR 105mm f/1.4E ED
新発売



2016年8月新発売

自然な空間描写と高い光学性能、新次元の大口径中望遠レンズ

「三次元的ハイファイ」の設計思想を継承し、ピント面から遠ざかるにつれて自然に変わっていく美しいボケ味で、人物や静物などの奥行き感をより自然に描写する、大口径中望遠単焦点レンズ。開放絞りでも遠景をシャープに再現する高い解像力と、点光源を歪みやかにじみの少ない「点」として描写する高い点像再現性を誇ります。また3枚のEDレンズが色にじみを効果的に低減。NIKKOR 伝統の焦点距離105mmにおいて世界で初めて開放F値1.4とAFの両立を実現しています※。

※ 2016年7月27日現在発売済みの、35mm判対応の単焦点レンズとして、ニコン調べ。

・E タイプレンズはカメラによって使用に制限のある場合があります。

株式会社ニコンイメージングジャパン

【製品に関するお問合せ】

ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル

0570-02-8000

www.nikon-image.com

富士フイルムイメージング システムズ

作品プリントの魅力と感動を発信する
新拠点

「富士フォトギャラリー銀座」

・「クリエイティブ銀座本店」

東京・銀座一丁目、8月20日にオープン

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社は、「富士フォトギャラリー新宿」を銀座に移転し、8月20日に、新たに「富士フォトギャラリー銀座」としてオープンしました。またそれに合わせ、弊社直営のプロラボ「クリエイティブ」の既存店舗「クリエイティブ新宿」と「クリエイティブ銀座」を統合し、新たに集約した「クリエイティブ銀座本店」を、同フロアに併設し、同時オープンいたしました。

「富士フォトギャラリー銀座」は、従来の新宿会場よりもスペースを拡大し、3つの展示会場（「スペース1」39㎡、「スペース2」38㎡、「スペース3」24㎡）を設けています。展示点数に合わせて、各スペースを繋げてご利用いただくことも可能です。プロ写真家の発表の場として、本格的なギャラリーであると同時に、初心者からベテランまで、全ての写真愛好家が、気軽に、カジュアルにご利用いただける写真専門ギャラリーを目指します。

また「写真のある生活で人生を豊かに」を基本コンセプトに、新しい製品やその使い方を紹介するコーナーを併設いたしました。自分の写真を使ってお洒落に空間を演出する飾り方など、身近に写真がある豊かな暮らしをご提案して参ります。

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社

＜お問合せ先＞

プロフェッショナルフォト営業部

クリエイティブグループ

TEL：03-6417-3994



堀内カラー

2016 堀内カラーフォトコンテスト
作品募集中
プリント割引キャンペーン開催

昨年度金賞 堀内カラー賞「夏休み」石川 賢一



今年で第8回を迎える堀内カラーフォトコンテストにて作品を募集しています。「金賞 堀内カラー賞」は、賞金10万円とHCLフォトギャラリー新宿御苑と名古屋での個展開催権を進呈、募集期間中は弊社ネット注文と各店頭注文で四ツ切・A4 プリント割引キャンペーンが開催されており、応募以外でもご利用いただけます。

【応募要項】

- テーマ：〈ノンジャンルの部〉、〈ネイチャーの部〉
- 応募締切：平成28年11月30日（水）当日消印有効
- 応募資格：アマチュア写真愛好家
- 応募作品：サイズ A4、四ツ切、ワイド四ツ切、カラー・モノクロプリント（銀塩、インクジェット）、単写真のみ・複数応募可
- 審査員：織作峰子氏

※応募資格がアマチュア写真家になっていただきますようお願いいたします。

株式会社堀内カラー

※詳細は <http://www.horiuchi-color.co.jp>

※応募・問合せ先：（株）堀内カラー

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-6-14

フォトコンテスト係

TEL.03-3295-1083

FAX.03-3295-1200

※堀内カラー各店頭でも応募受付いたします。

（各社からお送りいただいた原稿をそのまま掲載しました。構成／伏見行介）

フォトキナ 2016 最新情報、 今後のトレンドを探る！

ドイツ・ケルンのケルンメッセにて、世界最大の映像用品ショー、フォトキナが10月20日から25日までの6日間開催された。隔年開催される本イベントだが、世界中のカメラディーラーやファンが集まるショーだけに、業界の先を読むには絶好の場だ。



■トレンドはVRとドローン

今回のトレンドはVR（仮想現実）とドローン。VRは主に360°をカバーする全天球カメラで撮影後、専用ヘッドセットを取り付けて周囲を見渡せば、あたかもその環境にいるかのような体験ができるもの。大手ではニコンがKeyMissionシリーズを発表したが、その中にも360°撮影可能モデルが用意されている。また、この分野はリコーイメージングの

THETAが先鞭を切った経緯もあり、今後の期待される。ドローンは無線操縦できる無人飛行機のこと。これにカメラを搭載すれば、手軽に新しい映像表現が楽しめるとあって、近年人気が高まっている。こちらはドローンメーカーをはじめ、搭載用カメラなどが出展されていた。

■富士フィルムの中判ミラーレスに注目

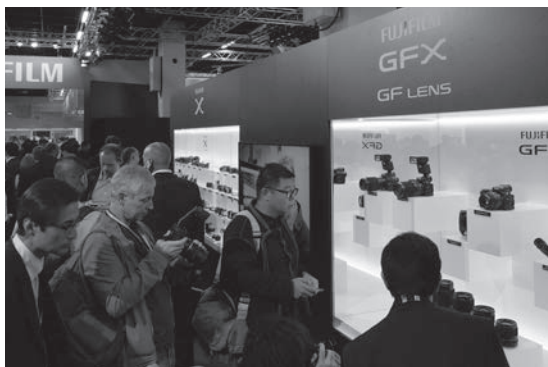
我々に身近な製品として、大きな動きが見られたのは中判



いわゆるガレージメーカーを中心に360°カメラの出展も多く見られた。今後、どのように成長していくのが楽しみだ。



会場南口にて、改造コンテナを利用してVR体験コーナーを設けたニコン。ヘッドセットをつければ、360°の視界が広がる。



APS-C サイズからフルサイズを飛ばして、中判フォーマットを新規展開する富士フィルム。来年初期からの販売を目指す。

デジタルカメラ。富士フィルムは中判ミラーレスシステムカメラ GFX を開発発表。約 5140 万画素、35 ミリフルサイズの約 1.7 倍の面積を持つ、43.8 × 32.9 ミリの画像センサーを搭載し、レンズは 23 ミリから 120 ミリの 6 本を用意。2017 年初期の発売を見込み、レンズは同年中に段階的にすべての発売を予定している。

■ハッセル社は中判ミラーレス機を参考出品

今夏、中判ミラーレス機 X1D を発表したハッセルブラッドも、共通のシステムを利用するコンセプトモデル V1D を参考出品。おなじみの 6 × 6 判、V システムをモチーフに、X1D のシステムを流用するが、撮像センサーに正方形の製品がないため、横長の 1 億画素センサーにマスクをかけて、約 7500 万画素のスクエアにするとコメントしている。なお発売時期などは未定とのことだ。

■オリンパスは E-M1 の後継モデルを発表

そのほかでは、オリンパスより E-M1 の後継モデルにあたる E-M1MarkII が開発発表。約 2037 万画素センサーに、121 点全点クロスタイプの像面位相差 AF を搭載し、AF/AE 追従で最高約 18 コマ / 秒の高速連写などで磨きかけた。ミラーレス機は構造上、動体撮影に弱いのが通り相場だったが、技術革新によってそれも過去の話になりつつあるよ



約 3 年ぶりのモデルチェンジになる E-M1MarkII。新しく 12-100 ミリ F4、30 ミリ F3.5 マクロ、25 ミリ F1.2 も加わる。



V システムをモチーフとした V1D。あくまでもコンセプトモデルで発売未定だが、製品化への意欲を見せる。

うだ。

■ソニー、パナソニックも新機種を発表

ソニーは α 99 後継の α 99II を発表。こちらはミノルター一眼レフから踏襲する A マウント採用モデルの最高峰。約 4240 万画素の超高画素で、AF/AE 追従、約 12 コマ / 秒の高速連写がウリだ。また動画ユーザーを大きく視野に入れた製品づくりを進めるパナソニックは 4K/60P 動画と 1800 万画素、秒間 30 コマより、写真を切り出せる「6K フォト」を可能とするフラッグシップモデル GH5 を開発発表している。

またデジタルばかりでなく、ライカにインスタントカメラ SOFORT (ゾフォート) が仲間入りするなど、一般指向の製品にも興味深い動きが見られた。

カメラは近年、世界的に出荷が縮小傾向。要因は主にスマホ内蔵カメラの高性能化によるものとされるが、コンパクト機は大型センサー搭載など、プレミアム路線で単価を向上。レンズ交換式カメラは交換レンズをはじめとする、魅力的なシステム商品群を用意して、復調に期待している。そんな中、相次ぐ高級機や中判カメラの動きは、高付加価値を持つカメラの原点回帰のようにも見える。次回フォトキナは 2018 年 9 月 25 日～30 日で開催予定。

(記・撮影／出版広報委員・桃井一至)



開催前日のプレスカンファレンスでは、立ち見が出るほどの大盛況。ソニーヨーロッパ副社長の青木陽介氏が登壇した。

2016 年 第 12 回「名取洋之助写真賞」決まる

公益社団法人日本写真家協会が新進写真家の発掘と活動を奨励するために、主としてドキュメンタリー分野で活躍している 35 歳までの写真家を対象とした 2016 年第 12 回「名取洋之助写真賞」の選考審査会を、8 月 29 日（月）JCI 会議室で、飯沢耕太郎（写真評論家）、広河隆一（フォトジャーナリスト）、熊切圭介（写真家）の 3 氏によって行いました。

応募者はプロ写真家から大学在学中の学生までの 35 名 36 作品。男性 21 人女性 14 人。カラー 24 作品、モノクロ 8 作品、混合 4 作品でした。

選考は 1 組 30 枚の組写真のため審査会場の制約もあり受け順に 9 作品ずつ 4 回に分けて行い、第一次審査で 10 作品を選び、第二次審査で 5 作品が残りました。最終協議の結果、下記に決定しました。



選考風景（平成 28 年 8 月 29 日 JCI 会議室 撮影・小城崇史）

○二次審査通過者

川上 真 「枝川・十畳長屋の五郎さん」 夢無子 「待ち伏せ・Under Siege」
黒岩 正和 「島魂〜TOUKON」 和田 芽衣 「娘(病)とともに生きていく」
板谷 めぐみ 「今日もここに座る、海に出る。―基地の島沖縄の祈り―」

○最終審査通過者

川上 真 「枝川・十畳長屋の五郎さん」
和田 芽衣 「娘(病)とともに生きていく」

■ 2016 年第 12 回「名取洋之助写真賞」受賞



川上 真（かわかみ まこと）1985 年 埼玉県生まれ。31 歳。

2012 年 DYAS JAPAN フォトジャーナリスト学校第 3 期を受講し、フォトジャーナリストとして活動を開始。国内の新聞社、雑誌にて写真を掲載。
2014 年 第 62 回 ニッコールフォトコンテスト モノクローム部門 特選。
第 15 回 上野彦馬賞 入選。
2015 年 第 16 回 上野彦馬賞 入選。ロンドン在住。

受賞作品 「枝川・十畳長屋の五郎さん」（カラー 30 枚）

作品について 東京の再開発で取り残される江東区枝川の古い長屋と住人、五郎さんの姿から、記憶や歴史が新しいものに移り変わる様子を撮影したドキュメンタリー作品。

受賞者のことば この度は荣誉ある名取洋之助写真賞を受賞させていただき大変光栄です。長年、目標としていた賞を受賞できたことに未だ実感が湧きません。枝川の十畳長屋に初めて訪れたのが 8 年前で、その時間の流れとともに周辺の開発が進みました。歴史を伝える建物が消え、忘れ去られることに危機感を覚え取材を始めました。こうして十畳長屋とそこで生まれ育った人の姿を残せたこと、発表の場を頂けたことに感謝致します。

■ 2016 年第 12 回「名取洋之助写真奨励賞」受賞



和田 芽衣（わだ めい）1983 年 神奈川県生まれ。33 歳。

2007 年 3 月 北里大学大学院医療系研究科医療心理学修士課程卒。
2007 年 4 月～2012 年 2 月 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科（助教）。
2014 年 3 月 北里大学大学院医療系研究科医療心理学博士課程単位取得退学。
2014 年より写真家佐藤秀明氏に師事。2015～2016 年 JPS 展入選。
2015 年 4 月～現在 フリーランスの写真家として活動開始。埼玉県在住。

受賞作品 「娘(病)とともに生きていく」（モノクロ 30 枚）

作品について 生後 8 ヶ月の娘が先天性の根治不可の病とわかり、受け止め難い現実をファインダー越しに見ることで作者は現実と一定の距離を保つことができた。また、作者は心理士としてがんの臨床に携わっていた際に「患者や家族、当事者のためにあるがままの姿を伝えることの必要性」を感じた。病と向き合いながら生きる親子の 5 年間のプライベートドキュメンタリーであると同時に、人生のどん底に在るであろう仲間へ向けたエールでもある。

受賞者のことば 今回の受賞は私にとって、娘と私の 5 年の努力を認めて頂けたということであり、感無量でございます。医療福祉をテーマとして写真を撮り続けようと思う私にとって、奨励賞は文字通り大きな励みとなりました。今後も写真という手法をもって、病や障害とともに生きる患者さんやご家族の人生に寄り添い、また彼らを支える専門職を応援して参りたいと思います。また、この 5 年間応援し続けてくれた夫に感謝します。

2016 年第 12 回「名取洋之助写真賞」総評

熊切 圭介(写真家・公益社団法人日本写真家協会会長)

今回の名取賞を受賞した「枝川・十畳長屋の五郎さん」は近代化から取り残された街と、其処で生きる人達のリアルな姿と人間模様を、細やかで温かい眼差しで、生活感を大事にしながら描いている。話の主人公の五郎さんを中心に、周辺の人達の貧しくとも心豊かに暮らしている姿を、五郎さんのこれまでの人生の手懸りになるような痕跡の数々を丹念に集め、今という時代を生きている五郎さんの人物像を浮き上がらせている。自分が暮らしている下町の人情も、周囲の環境の変化とともに薄れ、住み難くなってきたと、五郎さんは思っているかもしれない。



奨励賞和田芽衣さんの「娘(病)とともに生きていく」は重い病と向き合いながら生きる親子の、5年にわたる生活記録である。本作品はプライベートドキュメンタリーに属する作品だが、作品から伝わってくる訴求力の強さは、たとえようもなく強い。

人生のすべてが順調だった生活が、予想もしなかった大きな不幸に見舞われる。生後8ヵ月の娘が、先天性の難病であることが分り、作者の人生は深く重い闇に包まれた生活を余儀無くされる。自分の娘の限らない不幸な現実を前にした時、世の不条理を嘆き苦しんだと思うが、同じような苦しみの中にいる人達のことを考え、希望を持って生きる道を選んでいく。自分には写真という表現手段があることに思い至り、生きる希望の手懸りを得たという。

作品「娘(病)とともに生きる」が、作者の望み通り同じような境遇の人生を送っている人達に対する心のこもったエールになることを期待したい。

広河 隆一(フォトジャーナリスト)

名取賞の川上真さんの作品は、枝川・十畳長屋に住む五郎さんというひとりの老人の生活を追っている。土地が東京オリンピックで高騰したため、彼は不動産会社から立ち退き訴訟を起こされた。川上さんは、暖かくそして細やかに、そして時には緊張感をたたえて、この老人の生活を記録することにより、現在という時代が何を奪い、何を失おうとしているか、私たち



に伝えている。一枚一枚の写真に、ひとりの老人の記録というだけでなく、私たちの時代の歴史が写し取られ、記録という世界の原点を再確認させる作品となっている。主人公の笑顔の写真からさえ、深い喪失感を感じるの、写真の力だろう。応募者の多くの作品にみられる「自分探し」に終始する記録をドキュメンタリーと錯覚する人がいるとしたら、川上さんの作品を学習してほしいと感じた。

奨励賞の和田芽衣さんの「娘(病)とともに生きていく」は最後の選考まで私は票を入れ続けた。「命」に見事に対峙していると思った。しかし奨励賞として、私は板谷めぐみさんの「今日もここに座る、海に出る」を推した。国家の暴力が襲う沖縄の辺野古基地建設に抵抗するひとりの女性ヨシおばあ、の「人を殺すことにつながる」すべてに対して毅然と立ち向かう姿の写真が、フォトジャーナリズムの精神を体現していると感じた。故福島菊次郎さんに師事したという経歴を見て、納得できた。今後を期待したい。

飯沢 耕太郎(写真評論家)

応募点数が前年の2倍以上に増えたというのは、とりあえず素晴らしいことだ。だが、名取洋之助写真賞の潜在的な可能性は、こんなものではないはずだ。ドキュメンタリー写真を志向する写真家たちの層は、かなりの厚みがあるはずなのに、それらの人たちに賞の存在がしっかりと伝わっていないのではなかと思うからだ。



とはいえ、今回の名取洋之助写真賞を受賞した川上真さんの「枝川・十畳長屋の五郎さん」は、よく練り上げられたいい作品だった。東京・江東区枝川という、朝鮮系の人たちが1940年代に移住させられた、やや特異な地域を舞台にして、そこの「十畳長屋」で生まれ育った66歳の男性の人生を、じっくりと腰を据えて浮かび上がらせている。いま、立ち退きを迫られて係争中という彼の、渋みのある表情を正面から捉えた写真が実にいい。

奨励賞を受賞した和田芽衣さんの「娘(病)とともに生きていく」は、難病の娘と家族との日々を、やはり真っ直ぐに見つめ返したプライベート・ドキュメント。丁寧に構成された写真の行間から、作者の切実な感情が伝わってくる。

今回は他にも力作が多かった。20代の若い世代の応募も増えてきている。次回もとても楽しみにってきた。

「名取洋之助写真賞」について

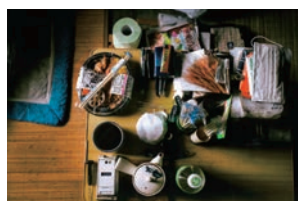
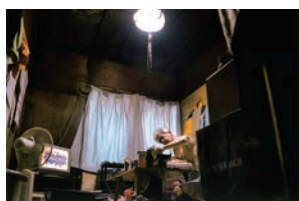
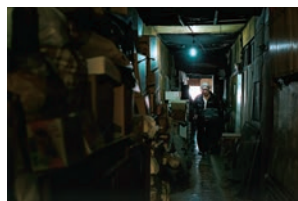
公益社団法人日本写真家協会(JPS)は、社会に貢献する事業として「JPS展」や「日本写真家協会賞」の表彰並びに顕彰を行っています。2005年からは「名取洋之助写真賞」を創設しました。

名取氏は、1950年の協会設立初期から写真企画展への助言。更に、写真著作権の重要性を進言されるなど、さまざまな面で協力を頂いています。没後、名取洋之助に関わった日本工房、サンニュース、岩波写真文庫の創設に関してわが国のフォトジャーナリズムの発展に大きく貢献されたことを顕彰し、主として若いフォトジャーナリストの育成に役立つことを望み、この写真賞を創設しました。

●名取洋之助(1910～62年) ドイツに留学していた名取洋之助は23歳の若さで、1930年代ヨーロッパで勃興していたフォト・ルポルタージュをわが国に導入し、木村伊兵衛らと33年「日本工房」を興す。その後、土門拳、藤本四八、亀倉雄策らと「NIPPON」を創刊し、フォト・ジャーナリズムを確立する。戦後は47年に『週刊サン・ニュース』を創刊。50年に『岩波写真文庫』を創るなど、写真家であると同時にすぐれた企画・編集者でもあった。

■ 2016年 第12回名取洋之助写真賞

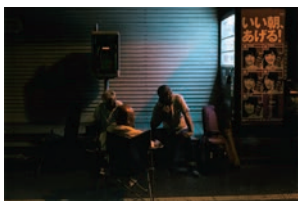
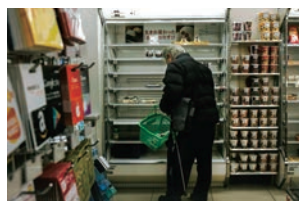
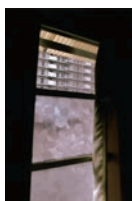
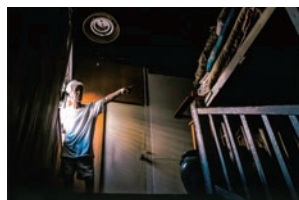
川上 真「枝川・十畳長屋の五郎さん」(カラー 30 点)



■ 2016年 第12回名取洋之助写真賞 奨励賞

和田芽衣「娘(病)とともに生きる」(モノクロ 30 点)





おめでとうございます

—— 受賞おめでとうございます。個人での受賞は9年ぶりになります。写真集の印刷に関わり始めた経緯をお聞かせください。

高柳：ありがとうございます。まさか私がこのような大きな賞を頂けるとは思いませんでしたので、大変うれしいです。

私は営業職で入社したのですが、印刷の仕事を理解するため2年間ほど現場研修がありました。製版課に勤務し、徐々に印刷という未知の領域に魅力を感じ始めていたとき、茶室を撮った写真集に出会いました。

その中の夕暮れ時の山茶花の葉と、そこから滴り落ちようとする水滴を捉えた写真にくぎ付けになりました。その描写

力に「印刷ってすごいな、写真ってすごいな。」と感動しました。今でも思い出すと心がざわつきますし、その経験が印刷を考えるときの原点になっています。

—— 写真集の印刷で心がけていることは何でしょうか。

高柳：年間70冊ほど写真集の印刷を手掛けているのですが、黒子に徹して写真家の要望を丁寧に聞くことです。

印刷用紙やインクの種類など様々な可能性のある中で、写真家の望むクオリティの印刷に仕上げるためには、コミュニケーションがとても大切です。長く写真を撮ってきた写真家の頭の中には、こういうイメージで表現したいという「暗黙知」ができています。なかなか言葉にするのは難しい「暗黙知」を聞き出しながら、それに合った紙やインクを選択し、写真集全体の明るさやコントラストなどを決めること、つまり具体的な「形式知」に置き換えてゆくことが私の役割だと思っています。

写真一点一点に明るめ、暗めなどの指示を頂くことも大切ですが、写真集全体を方向づける写真家のイメージを知ることが重要なポイントになるのだと考えています。

—— 仕事でやり甲斐を感じるときは、どんなときですか。

高柳：やはり、写真の魅力を引き出しながら、そこに印刷の力でさらにプラスアルファができたと思う写真集に仕上がったときです。「この印刷はいいね。すごいね。」と言っていたくと、うれしいですね。

—— デジタル時代になって変わったところ、変わってはいけないと思うところは何かですか。

高柳：一番大きく変わった点は、印刷の精度が上がり、クライアントの要望に細かく応えることができるようになったこ

とだと思います。印刷用のモニターを見ながら、細部にわたり色や濃度、コントラストなどを調整できるようになり、私たちの持つ印刷の経験値を細かく活かすことができる時代になりました。ですから私はデジタルが大好きです。変わってはいけない点は、「真剣勝負の意識」と「感性」を大切にすることだと思います。私が言うのも何ですが、プロの仕事は真剣勝負です。後で調節できるからこの位でいいやではなく、日々感性やスキルを磨く意識は変わってはいけないと思います。

—— 写真文化の中で、写真集の役割をどのように考えていますか。

第42回日本写真家協会賞



高柳 昇 さん

(株式会社東京印書館取締役
統括プリンティングディレクター)

高柳：写真集の役割の一つに利便性があると思います。一般の人たちが写真家のプリントを手にとって観るというようなことはなかなかできません。写真集という印刷物になってそれが可能となり、写真の世界をより身近に感じてもらうことができるのだと思います。ですから、オリジナルプリントの魅力を印刷で再現できないと、写真文化に寄与しているとはいえないので、そこが難しいところですね。

—— 今後の抱負と、これから写真集を作る人にアドバイスをお願いします。

高柳：もっともっとスキルアップしたいですね。今までたくさんの写真集のプリンティングディレクターを務めてきましたが、正直に言って、印刷で100%満足した写真集はほとんどありません。中国の書画に「墨に五彩あり」という言葉が

ありますが、例えばモノクロ表現の写真集を製版・印刷する場合に、高いレベルで写真の黒の五彩を見分ける感性、再現する印刷技術を磨き続けたいと思います。

写真集を編集するときには、経験豊富な人に手伝ってもらうことが大切だと思います。本人の好みだけで写真を選ぶのではなく、第三者の視点を取り入れることです。また作りた写真集のイメージをしっかりと考えることも重要だと思います。

—— ありがとうございました。

高柳 昇(たかやなぎ・のぼる)

1955年埼玉県出身 中央大学卒 1978年東京印書館に入社以来、石元泰博、森山大道、本橋成一、須田一政など多くの写真家達の写真集のプリンティングディレクターを務める。近年では川田喜久治「地図」、ウィリアム・クライン「東京」、並河万里「出雲」等の写真集の複製も手掛けている。

(平成28年8月10日 東京印書館本社にて 聞き手/常務理事・加藤雅昭、撮影・構成/出版広報委員・飯塚明夫)

JPS2016 年新入会員展

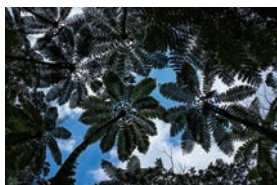
『私の仕事』

東京：2016年7月14日(木)～20日(水)

於：アイデムフォトギャラリー「シリウス」

大阪：2016年8月12日(金)～8月18日(木)

於：富士フィルムフォトサロン大阪



想い

秋元 貴美子

雨季のころ
(カンボジア)
足立 君江

赤雲を切り裂く

五十嵐 顕
(A ☆ 50/Akira Igarashi)

新横浜駅夕景

池口 英司

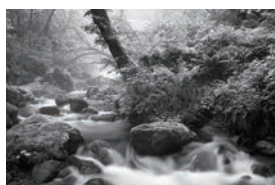


万年の重なり

出澤 達男

夢みるアドレセンス
(2016 カレンダー)

井ノ元 浩二



森と水と 木谷沢溪流

岩本 圭介



GOOD!!

うさみ たかみつ



眼光

遠藤 健次

「あたらしい糸に」 より
#2

奥山 淳志

「海底に咲くムラサキ
ハナギンチャク」水俣

尾崎 たまき



土蜘蛛

越智 信喜

 <p>ウチツケル・・・</p> <p>加藤 彰</p>	 <p>MARUNOUCHI 19:00</p> <p>叶 悠真</p>	 <p>天門橋ノ夜（富山）</p> <p>上岡 弘和</p>	 <p>富士山上空のワシ星雲と シリウス</p> <p>木村 芳文</p>
 <p>Piece of Trip - 香港 2</p> <p>クキモト ノリコ</p>	 <p>湘南秋夜の華</p> <p>源明 輝</p>	 <p>淡路人形浄瑠璃 響</p> <p>後藤 剛</p>	 <p>佐渡島の夕景</p> <p>近藤 太智</p>
 <p>北狐の瞑想</p> <p>斉藤 嶺堂</p>	 <p>インパクト</p> <p>坂井田 富三</p>	 <p>広蔵市場にて （韓国、ソウル）</p> <p>佐藤 憲一</p>	 <p>あさかのこども</p> <p>杉本 奈々重</p>
 <p>昔 噺</p> <p>鈴木 是清</p>	 <p>ある冬の日</p> <p>曾根原 昇</p>	 <p>仏領インドシナの世界</p> <p>園 健</p>	 <p>2016 年、菱山南帆子 26 歳。国会前で</p> <p>高波 淳</p>



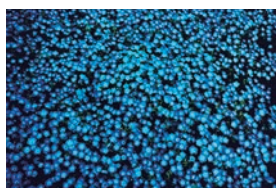
五月雨の「操車場」

高野 陽一



聖域に遣える

高橋 良典



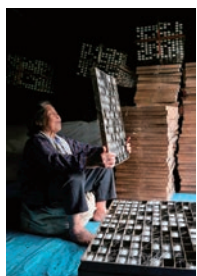
散らばる青

宅間 國博



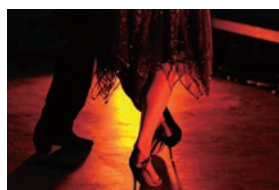
明ける盆地

塚原 富幸



出来映え

角田 新八



Kenji y Liliana

中島 純治



ジュビリー

中津川 隆康



Crevices of leaves

中西 学



森と海の境界

中村 卓哉



九份老街

西沢 千晶



経ヶ岬灯台 明治 31 年

野口 毅



チベット

野田 雅也



ENA

長谷 良樹



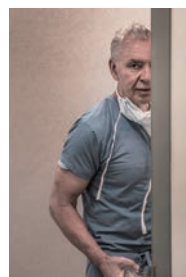
10 年後に家族に会いに行くと
2010 年 6 月 19 日

花井 知之



Paris Torso, 1986

HARUKI



外科医 アレックス

藤田 修平

 <p>瑠</p> <p>水咲 奈々</p>	 <p>愛から始まる</p> <p>宮本 博文</p>	 <p>サバニ 旅をする舟</p> <p>村山 嘉昭</p>	 <p>島景色 〈祝島、祭後の栈橋〉</p> <p>箭内 博行</p>
 <p>Breitling Image</p> <p>湯浅 立志</p>	 <p>真夏の屋下がり ～海辺の公園</p> <p>横山 聡</p>	 <p>LA PORTE BLEUE</p> <p>YOLLIKO SAITO</p>	 <p>東日本大震災の現場から 宮城県南三陸町 2016</p> <p>渡辺 幹夫</p>

展示作品各自2点から編集部でセレクトした1点を50音順に掲載しました。(構成／小池良幸)

JPS2016 年度新入会員展実行委員会・藤田 修平 (委員長)、中津川 隆康、加藤 彰、杉本 奈々重、西沢 千晶、横山 聡、渡辺 幹夫



東京展オープニング会長挨拶 (撮影・加藤 彰)



東京会場オープニングパーティー (撮影・加藤 彰)



東京展示会場風景 (撮影・加藤 彰)



大阪展示会場風景 (撮影・福島正造)

「Japan's coastline and its people」

「日本の海岸線をゆく」トンガ王国写真展 報告

2016年9月9日～22日 トンガ王国ヌクアロファ市ビジターセンター

本展は日本写真家協会創立65周年記念写真展「日本の海岸線をゆく」から97点を選び、A3サイズに出力し防水ラミネート加工を行って展示した縮小版「Japan's coastline and its people(日本の海岸線をゆく)」写真展である。在トンガ日本大使館とトンガ観光局の協力を得て国際交流基金と日本写真家協会の共催により実現した。現地に事業担当として松本徳彦副会長とトンガ展担当の内堀タケシ会員を派遣した。

トンガ王国には美術館など照明の整った壁面を持つ施設がなく、会場選びに苦慮したが交通など立地条件も良く、来場者の見込める観光局のビジターセンターの芝庭で行う事とした。全て野外の展示となるため、展示用パネルを日本で制作し船便にてトンガ王国に送った。現地でパネルを塗装し組み立て、芝生の庭にパネルを設営し写真作品をパネルに貼る方式とした。展示壁面長は約36m、1.8mのパネルに約6点ずつ写真作品を貼り、19枚のパネルを設置した。会場からは海岸が見えるほどで、離島に行く船着き場も近く、海からの風対策がパネル設営の重要な要素となった。また展示は屋外なので防水艶消しラミネート加工が必須であり、会場設営のための専門業者も日本から出張してもらい設置した。

8日、開会前夜祭は大使館主催により日本大使公邸で行われ、現地メディアTVラジオ新聞、各国高官、観光大臣などが招かれ、在トンガ日本大使、松本副会長の挨拶に続き、観光大臣の乾杯で宴が始まった。外務省から届けられた日本酒、現地の海で獲れた魚を使った刺身や日本食、当日に絞めた豚の丸焼きなどが振る舞われ、夜遅くまで大使公邸は賑わった。

9日、オープニングはトンガ王国の皇太子殿下妃殿下

の臨席を賜り、観光大臣、海外政府高官、在トンガ日本大使、参事官、大使館員などとTVラジオ新聞などのメディア関係者も出席する盛大な式典となり、在トンガ王国日本大使沼田行雄氏と松本副会長の挨拶、トンガ王国観光大臣の開会宣言で開場した。その後、日本大使とトンガ王国皇太子殿下妃殿下と供に松本副会長が写真の解説を丁寧に行った。皇太子殿下妃殿下も日本の写真に大変興味をお持ちになり、御質問も多く全ての写真をじっくりご覧頂いた。

午後は会場を在トンガ日本大使館のビルに移し、松本副会長と内堀タケシ会員によるワークショップを開いた。30席ほど用意した会場は席が不足するほど盛況で、写真展の写真選択の基準についての質問などもあったが、早々に技術的な問題や各人の使っているカメラの機能の説明を求められた。ほとんどの参加者はCanonやNikonなど日本製の一眼レフカメラを使っているが、露出補正やプログラム機能など自身のカメラ機能を使いこなせず、カメラの使用説明書のレクチャーの時間も多く取って終了した。

初日から晴天ではないが雨も降らずほどよい気候で、会場には爽やかな潮風が毎日吹いていた。皇太子殿下妃殿下の臨席も含め、現地の新聞、ラジオ、TV報道機関に大きく取り上げられ、約800人の来場者があった。アンケートによると「日本はトンガ同様の海洋国であることが写真から細部を知ることでもでき、文化、祭り、豊かな海産物なども印象的であった」など、写真を通して日本への理解を深めることができた。また、学校の授業にも取り上げられて先生引率による学生の見学者も多く、若い世代にも日本の現状を知る機会となったようだった。

(記・撮影/内堀タケシ)



学生たちに展示作品の説明をする松本副会長



展示会場で行われたオープニングセレモニー

2016JPS 展 報 告

写真展事業担当理事 熊谷 正

第41回JPS展は、東京展6月11日～26日、名古屋展7月5日～10日、関西展7月19日～24日の会期で開催しました。

一般部門1,882名6,416枚、18歳以下部門133名301枚の多彩なジャンルにわたる応募作品の中から選ばれた作品、一般部門448枚、18歳以下部門52枚とヤングアイ参加校14校の力作を展示し、表現の多様性がうかがえる写真展になりました。入場者数は例年より増加し、東京展では、5,054名、名古屋展では、1,571名、関西展では、2,097名でした。

審査にあたっては、近年デジタルでの加工修正作品が目立つようになり、ストレート写真と相まって審査のたいへんさを実感しています。特にストレートな風景写真の過剰な画像修正、加工による作品や安易な作品作りの傾向が見受けられ、またインクジェットプリンター出力によるプリント紙の選び方やプリント設定に多くの課題があるように感じました。

上位入賞者は、文部科学大臣賞が滋賀県在住の土肥美帆さん「LIFE」4枚組。東京都知事賞は、滋賀県在住の常石由美子さん「生気躍動」単写真。18歳以下部門最優秀賞は広島県在住の金本凜太郎さん「Pause!!!」です。その他多くの優れた入選作品が選ばれ、総展示枚数514枚の写真でJPS展を盛り上げてくれました。

今年の会員作品展については、東京展会場と名古屋展会場の展示スペースの関係上、展示を見送りましたが、来年は恵比寿の東京都写真美術館を会場として開催が出来ますので、会員作品の展示を復活いたします。

関西展では、例年会員作品を展示している空きスペースで、特別企画展として「知っていますかーヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」展を開催しました。

東京展の表彰式と講演会は、6月12日に東京都美術館講堂で行いました。今回は会場の客席数が多かったのも、同伴された受賞者の関係者、ご家族の方々にも会場内で見ていただくことができホッとしました。

表彰式後の講演会「ネット時代における写真のルールとマ



表彰式 (6.11 東京都美術館講堂、撮影・天神木健一郎)

ナー」は、『アサヒカメラ』副編集長の間島英之氏と山口勝廣専務理事との対談を写真展事業委員の小澤太一会員の司会進行で行いました。近年のスナップ写真撮影における諸問題に対して実例を交えながらの講演は、JPS展に応募される方の関心が高かったようで、大勢の方々に聴講していただきました。

名古屋展の表彰式(東海地区入選者紹介)と講演会は、7月9日に愛知芸術文化センター12階にて開催しました。表彰式では、松本徳彦副会長が上位入賞者の紹介と入賞作品の講評を行いました。三澤武彦会員による講演会「どうして写真を撮るんだろう?」、五木田友宏会員によるイベント「光をつくろう!スピードライト活用法」を開催し、好評でした。

関西展の表彰式(関西地区入選者紹介)と講演会は、7月22日に京都市国際交流会館で開催しました。表彰式では、熊切会長より上位入賞者の紹介と入賞作品の講評を行いました。西岡伸太会員による講演会「写真作りのよもやまばなし」は、好評でした。会期前日7月18日に開催したイベント「ゆかたDEフォトウォーク」は、天気にも恵まれ、キヤノンマーケティングジャパン(株)の協力でデジタル一眼カメラとインクジェットプリンターを使用して浴衣を着た女性たちが思い思いのポートレートを撮り合い、プリント出力した素敵な写真を会場の一角に展示しました。

JPS展は、年間を通じての事業となりますので、委員が一丸となって、常に進化しながら、運営をしていきたいと思ひます。



東京展講演会 (撮影・天神木健一郎)



受賞者の土肥美帆さんと熊切会長 (撮影・天神木健一郎)



東京展展示会場 (撮影・川村容一)

第41回 2016 JPS 展の報告

作品受付：2015年12月15日(火)～2016年1月20日(水)
作品審査：2月6日(土)

審査員：熊切圭介(審査員長)、宮澤正明、山口規子、吉村和敏、佐々木広人(『アサヒカメラ』編集長)

後援：文化庁ほか

総展示数：514枚(公募285名500枚、ヤングアイ14校14枚)
総入場者数：8,722名

入場料(各展共通)：一般700円(団体割引560円)、学生400円(団体割引320円)、高校生以下無料、65歳以上400円(関西展、名古屋展は65歳以上無料)
※団体割引は20名以上

応募総数：2,015名、6,717枚

一般部門：1,882名、6,416枚

18歳以下部門：133名、301枚

入賞・入選者総数：285名、500枚

一般部門：254名、448枚(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選224名)

18歳以下部門：31名、52枚(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選21名)

入賞者氏名：

文部科学大臣賞

土肥美帆

LIFE

4枚組

カラー

東京都知事賞

常石由美子

生気躍動

単

カラー

金賞

森英夫

残像残心

3枚組

モノクロ

銀賞

福井憲男

イーグルハンター

3枚組

カラー

銀賞

大林幹彦

雅の列・祇園祭

単

カラー

銅賞

関谷智彦

雪山の肖像

4枚組

モノクロ

銅賞

仲澤正男

夏休み

4枚組

カラー

銅賞

土居武司

風のいたずら

単

カラー

(奨励賞以下略)

18歳以下部門

最優秀賞 金本凜太郎

Pause!!!

3枚組

カラー

(18歳以下部門優秀賞以下略)

企画展示「ヤングアイ」

公益社団法人日本写真家協会会長賞：学校法人 日本写真

映像専門学校「記憶の防護」堤 悠貴、林 利香、吉

井脩人

ヤングアイ奨励賞：東京総合写真専門学校 写真芸術第二

学科「Kaleidoscope」井上雄輔、深川伶華

参加校：14校

専門学校 札幌ビジュアルアーツ、筑波大学 芸術専門学群、

現代写真研究所、東京工芸大学 芸術学部 写真学科、学校

法人 専門学校 東京ビジュアルアーツ 写真学科、学校法人

呉学園 日本写真芸術専門学校、日本大学 芸術学部 写真学

科、東京総合写真専門学校 写真芸術第二学科、専門学校

名古屋ビジュアルアーツ 写真学科、名古屋学芸大学 メデ

ィア造形学部 映像メディア学科、学校法人 日本写真映

像専門学校、ビジュアルアーツ専門学校 大阪 写真学科、

大阪芸術大学、九州産業大学 芸術学部 写真映像学科

【東京展】

後援：文化庁、東京都、東京都写真美術館

会場：東京都美術館 ギャラリー B・C

会期：6月11日(土)～6月26日(日)9:30～17:30(最

終入館は閉館の30分前)、6月20日(月)休館

表彰式・講演会：6月12日(日)東京都美術館 ロビー階講堂

13:00～14:30 表彰式、15:00～16:30 講演会「ネット時代における写真のルールとマナー」講師：間島英之(『アサヒカメラ』副編集長)、山口勝廣(JPS専務理事) 参加者数：約220名

祝賀パーティー：6月12日(日)17:00～19:00 東京都美術館2階レストラン「MUSEUM TERRACE」

協力(会場モニター提供)：パナソニック株式会社

入場者数：5,054名

【名古屋展】

後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会

会場：愛知県美術館 ギャラリー D 室

会期：7月5日(火)～7月10日(日)10:00～18:00

(最終入館は閉館の30分前)、金20:00閉館、最終日

17:00閉館

表彰式・講演会：7月9日(土)愛知芸術文化センター12階

13:00～13:50 東海地区入選者紹介、14:00～15:30 講演会「ど

うして写真を撮るんだろう？」講師：三澤武彦(JPS会員)

参加者数：約140名

イベント：7月9日(土)愛知芸術文化センター12階

10:00～11:30「光をつくろう！スピードライト活用法」

講師：五木田友宏(JPS会員) 参加者数：60名

入場者数：1,571名

【関西展】

後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会

会場：京都市美術館別館

会期：7月19日(火)～7月24日(日)9:00～17:00(最

終入館は閉館の30分前)

表彰式・講演会：7月22日(金)京都市国際交流会館

13:00～14:30 関西地区入選者紹介とビジュアルパフォー

マンス、15:00～16:30 講演会「写真作りのよもやまばなし」

講師：西岡伸太(JPS会員) 参加者数：約160名

イベント：7月18日(月・祝)「ゆかた DE フォトウォーク

in 京都・岡崎」講師：柴田明蘭、西村仁見、クキモトノ

リコ(JPS会員) 参加者数：19名 協力：キヤノンマー

ケティングジャパン株式会社

入場者数：2,097名

第41回 2016 JPS 展

写真展事業担当理事：熊谷 正

委員長：荒谷良一 副委員長：大津茂巳 委員：今井孝弘、

川村容一、小澤太一、小林みのる、小室貴義、佐藤健治、

富田泰東、渡辺英明

名古屋展実行委員長：森田廣実 副実行委員長：松原 豊

委員：加藤智充、五木田友宏、小玉亘宏、鈴木一生、塚本

伸爾、辻 康男、原田佐登美、村山直章

関西展実行委員長：永野一晃 副実行委員長：清水 薫

委員：植村耕司、金城泰哲、辻村耕司、中島佳彦、二村 海、

前田欣一、三村博史、横島克己



名古屋展展示会場 (撮影・加藤智充)



関西展展示会場 (撮影・今井孝弘)

第42回 2017 JPS 展案内

写真展事業委員会

2017年の第42回JPS展は、東京展の展示会場をリニューアルした東京都写真美術館に移して開催されることになります。ひとつの会場内での展示となりますので、観やすい展示構成をめざしています。

また昨年、会場の事情で休止していた会員作品部門を、2017JPS展では、募集・展示することになりました。テーマを「ポートフォリオ～Portfolio～」として、会員の皆様が仕事で発表された作品を提出して頂き、展示します。

●会員作品部門

テーマ：「ポートフォリオ～Portfolio～」

展示作品：1人1作品(2枚。単写真2点または2枚組写真1点)

提出物：見本プリント／六つ切、またはA4サイズ

(カラー・モノクロ、銀塩・デジタルを問わず)

エントリー締切：平成28年11月30日(水)まで

・印刷物、写真集、個展にて発表した作品であること。撮影日などは古いものでも可、Webのみで公開した作品は除く。

・出展料(プリント、額装、展示費用)10,000円。

●公募部門

前回に準じます。応募規定は右枠内を参照。

■イベント等

講演会、セミナー、撮影会を開催予定。

■作品集

展示作品を写真集として発刊、販売。

■メールマガジン

JPS展メールマガジンを配信していますのでご購読ください。下記アドレスから登録できます。

<http://www.jps.gr.jp/jps-ten-magazine/>

第42回JPS展の応募チラシが出来上がりました

写真教室などの講師をされている会員の皆様、ぜひ生徒さんへの配布にご協力ください。

また、店舗やギャラリー等で配布していただける方は事務局までお知らせください。



<公募：一般部門、18歳以下部門 応募規定>

●**応募資格**：アマチュア、プロフェッショナル、年齢、性別、国籍を問いません。ただし、JPS会員は除きます。

●**応募部門**：一般部門 年齢を問いません

18歳以下部門 1998年4月1日以降生まれの方

●**テーマ**：自由

●**応募プリントサイズ**：A4または六つ切8×10インチ(203×254mm)。カラー、モノクロ共プリントのみ。デジタル加工も可。ただしデジタル加工・合成等の欄に印を入れること。作品は、必ず応募者本人が撮影したものであること。

●**出品点数**：単写真=制限はありません。組写真=5枚までを1組の制限として何組でもかまいません。組写真は、左より順に並ぶように構成して番号を付けてください。ただし、写真と写真は貼り付けないこと。また台紙にも貼らないで応募してください。

●**受付手数料**：

★**一般部門**：1枚につき2,200円(組写真の場合も1枚2,200円)

★**18歳以下部門**：1枚につき600円(組写真の場合も1枚600円) 郵便局より下記郵便振替口座へ2017年1月15日(日)までにお振り込みください。

通信欄に応募枚数、ご依頼人の郵便番号、住所、氏名、氏名フリガナ、電話番号を必ずご記入ください。

★**作品の中に受付手数料を同封することは厳禁とします。**応募作品返却希望者は、返却料2,000円を加算してお振込みください。(海外からの応募の場合は返却できません)

郵便振替口座番号 00110-5-651936

口座名 日本写真家協会 JPS 展

●**受付及び締切**：郵送または宅配便に限ります。

(持参は受付いたしません)

2016年12月10日(土)から2017年1月15日(日)まで。

最終日消印有効。

●**審査員**：熊切圭介(審査員長)、野町和嘉、三好和義、吉野 信、菅原隆治(「CAPA」編集長)

(審査員の都合により変更することがあります)

●**審査結果**：2017年3月中旬頃、応募者全員に文書を送付。ホームページ(URL：<http://www.jps.gr.jp>)とメールマガジンでも発表します。(電話でのお答えはいたしません)

●**展示用作品**：入賞・入選作品は、後日指定する期日までに各自にて半切に引伸し、再提出していただきます。なお上位入賞作品については大型サイズになる場合があります。

●**展示及びパネルの製作費**：入賞・入選作品は、当協会特注のパネルにて展示しますので、一般部門は1枚につき8,400円、18歳以下部門は1枚につき4,200円を指定の日時までに納入していただきます。納入がない場合は、入賞・入選が取り消しとなります。

●**賞(一般部門)**：

文部科学大臣賞 1名(賞状、楯、賞金50万円、副賞)

東京都知事賞(予定) 1名(賞状、楯、賞金30万円、副賞)

金 賞 1名(賞状、楯、賞金15万円、副賞)

銀 賞 2名(賞状、楯、賞金10万円、副賞)

銅 賞 3名(賞状、楯、賞金5万円、副賞)

奨励賞 5名(賞状、楯、賞金2万円、副賞)

優秀賞 20名程度(賞状、楯、副賞)

入 選 200名程度(賞状、記念品)

(18歳以下部門)

最優秀賞 1名(賞状、楯、副賞)

優秀賞 10名程度(賞状、記念品、副賞)

入 選 10名程度(賞状)

●**展示会場・会期**

東京都写真美術館…2017年5月20日～6月4日(予定)

愛知県美術館…2017年7月(予定)

京都文化博物館…2017年9月(予定)

●**作品集**：第42回2017 J P S展作品集の刊行を予定。

●**応募先・お問い合わせ**：〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCII ビル 303 公益社団法人日本写真家協会
第42回2017JPS展 TEL.03-3265-7453 FAX.03-3265-7460

写真解説

黄金に輝くゴールデンロック (表紙写真) ——— 三田崇博

標高 1,100 m の山の頂上にある今にも落ちそうな岩、ゴールデンロック。ミャンマーで屈指の巡礼地であり訪れる人が絶えない。

岩の上に建つ仏塔に取められている仏陀の頭髪がバランスをとっていると言われている。雨季のこの時期は特に天気が変わりやすく、時折豪雨に見舞われ予定していた夜の撮影も断念せざるを得なかった。近くに宿を取り早朝 5 時に目が覚め、小雨になっていたので撮影にいくとすでに祈りを捧げる一人の男性に出会った。この国の人たちの信仰の深さをあらためて知った。

「中空」 # 983 (表 4 写真) ——— 山本昌男

身の回りの何気ない存在の、ほんの小さな息遣いを感じながら、画面に定着させてきたシリーズの中の一点。

見慣れた物が、ある時、ふと、違った表情を見せてくれる面白さに夢になった。その違いは光や空気の変化によるものでもあり、自らの内面の更新による仕業か…日常に「美」は確かに存在する、でもそれは特別なものではない、という事を伝えたくて。

試行錯誤しながらシルバークリートの表現力を借りて制作をしてきた二十数年。改めて自分の作品を「離見の見」よろしく再構築して一冊の本としてまとめた。

街角寸景 ——— 森井禎紹

30 カ国 44 回の海外撮影の中から私の印象に残った 12 カ国を絞り、その中から 132 枚をピックアップ、「地球・ぶらり旅」のタイトルで出版しました。その内の一枚「街角寸景」は、アテネの街を撮影中、レストランで休憩している道化師と目線が合いました。ガラス越しで言葉が通じなかったのですが、彼は私にむかって指でシャッターを押す仕草をしました。私は指を丸めて OK のサイン、ガラスに写った街角を舞台として写しました。

秋の装い ——— 榎本正好

赤城山は榛名山、妙義山と並び上毛三山の一つに数えられています。写真集「赤城彩象」は、その赤城山の標高約 1,000 m 以上の地域で撮影したものをまとめたものです。

赤城の標高約 1,000 m 地帯から栗の原生林が現れます。栗の太木の多さでは日本でも最大級だと言われています。ここには、朽ちてはた木や空洞が見られる木、根をあらわにしている倒木など樹齢 100 年を超える巨木・老木があちらこちらにあります。なかでもひときわ大きい「赤城栗太郎」は樹齢数百年と言われています。

Churchill.ca ——— 伊藤 厚

カナダ、マニトバ州チャーチルはマニトバ州北部にある人口 1000 人未満の集落で、ハドソン・ベイに流れ込むチャーチル川の河口に位置している。

ハドソン・ベイが凍り、フォート・プリンス・オブ・ウェールズからスウェーデン製の雪上車に乗り、氷上の旅を始めた。

次々に表情が変わる、北極光に魅了されて、零下 50 度であることを忘れるくらい、フィルムに感光させることに夢中になった。

久慈川の氷花 (シガ) ——— 黒沢富雄

茨城県北部を流れる久慈川は、冬の厳寒期に、川の表面を水の小片が流れる珍しい現象が見られます。

また、川底は 50cm 以内で浅瀬の玉石の表面が凍り付いて、外気の温度が -5℃ 以下の日が 5 日以上続くと発生するが、最近は温暖化の影響により回数が減少して、見る機会が少ないです。

表面と川底と一緒に凍る所が見られる場合が少なく、表面の小石に氷が付いて、川底も凍っています。

毎日氷の流れは変わり、氷花(シガ)の出来具合にも変化が見られます。

りんご農家の夫婦 ——— 公文健太郎

日本の地方を旅するなかで、時としてふと立ち止まり、眺めてしまう風景があった。僕の場合、それは自然が織りなす雄大な景色ではなく、人の営みがつくる風景であることが多かった。みかん畑に囲まれた山あいの集落。美しく積み上げられた石垣で層をなす段々畑。夕日に照らされた田園風景。そして静かな風景に囲まれ農作業に勤しむ人々の姿が、時間の流れを感じさせてくれた。そんな風景に感動するたびに、「日本の風景」は「農業の風景」なのだとか気付かされた。今の日本の風景を残しておきたい。そんな思いから美しき農業の風景を記録する旅を始めた。

理髪店の親子 ——— 大津茂巳

人に正面から向かい合い、話をする。

その中で生まれてくる写真達を集めた写真展が「人間の日々」である。この写真はその写真達の中でも特に思い入れのある写真で、京都の山科駅前にある古い理髪店の親子。親父さんは 60 年以上の歴史を持ち、それを娘さんが継いでゆく。この写真を撮影するために、半年間月一ペースで髪を切りに行った。髪を切ってもらいながら生まれたコミュニケーションが突った瞬間の一枚である。

戦わないために闘う (島袋文子さん) ——— 森住 卓

名護市辺野古に米軍新基地建設計画が始まって 20 年になる。辺野古に住む島袋文子(85 歳)さんは戦争に繋がる一切のものに反対している。

国内唯一の地上戦となった沖縄戦は御誼話県民の 4 人に一人が犠牲になった。15 歳だった文子さんは目の不自由な母と弟の手を引き、戦場を逃げ惑った。暗闇でどの渇きを潤すために飲んだ水たまりの水は、翌朝見ると死体が浮く真っ赤な水だった。

真夏の炎天下、真冬の寒風吹きすさぶ基地ゲート前には文子さんの姿があった。機動隊と対峙しても一歩もひるむことはない。あの時の体験を若い機動隊員に話す文子さんの顔は慈悲に満ちていた。(2015 年 11 月 11 日米軍キャンプ・シュワブゲート前)

多摩川 1970-74 ——— 江成常夫

秩父の山地に水源を発し、都内を蛇行する多摩川は、全長が 138km の母なる川である。その首都の川が砂利の乱獲や生活排水によって「死の川」と化すのは、戦後の高度経済成長期に当たる 1960 年代から 70 年代にかけてである。

堰堤を滑り落ちる汚水から妖魔のような泡が湧き、風に乗って舞い上がり、岸辺では酸欠死した鯉やウグイが浮きあがる。そしてさらに、死んだ魚にかわりプラスチックの金魚が泳いでいたり。そこからは経済神話が生んだ無知狼藉ぶりが見てとれる。

平成 28 年度「報道写真論」講座報告

主催：専修大学、公益社団法人日本写真家協会

平成 23 年度から始まった専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での「報道写真論」の講義に、28 年度は桃井和馬、石川梵の両氏に講師をお願いした。

専修大学のジャーナリズム学科開設趣旨は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを方針としている。この講座には 23 年度は桑原史成氏、24 年度は長倉洋海、英伸三各氏、25 年度は宮嶋茂樹、樋口健二各氏、26 年度は大石芳野、山本皓一各氏、27 年度は清水哲朗、石川文洋各氏を派遣し講義を行っていただいた。28 年度の講義内容のレポートを報告する。教室は川崎市多摩区東三田 2-1-1 の専修大学生田キャンパス。



●桃井和馬

平成 28 年 4 月 12 日～5 月 24 日(7 回)

専修大学での「報道写真論」は、本気で学びたい学生だけが集まる選択授業だから、毎回提出してもらったリアクションペーパーにも、授業への感想、私が投げかけた問いへの意見などが、どれも小さい文字でぎっしりと書かれていた。最終課題は、各自が新聞や雑誌から選んだ 1 枚の写真の面白さを、社会背景などを基に読み解くレポートに仕上げてもらった。それぞれが選んだ写真を読み解く中で、歴史を見つめ、撮られた意味を模索しながら、アカデミックに言語化する試みで、単に 1 枚の写真が「面白い」とか、「好き」と評論するのではなく、その写真の何が、なぜ面白く、どのような理由でメディアに掲載されたのか、その社会的背景とは？などの問いを自らで探り、展開していく課題だ。

提出されたレポートは、想像以上の出来であった。各人の好きな写真を選ぶということから、学生の得意分野から写真を見つけられたこともあるだろうが、丁寧に仕上げられたレポートのレベルはかなりの高さだった。



プロジェクター画面の前で講義する桃井和馬氏

計 7 回の授業は、私がこれまで撮影した写真を基に展開。

1 回目は、静止画である写真がなぜ、動画以上のインパクトが残る可能性があるのかを「想像力」の観点から解説。想像力は、思考力であり、それが、自分の存在が何者にも利用されないための自立条件で、生きぬく力になることを説いた。

2 回目、3 回目は、戦争がなぜ引き起こされるのかを、イラクやルワンダなどの具体例から探った。1 枚の写真の背後にある事実、また何枚もの写真と写真の間にある「見えない」背景をつなげることで、それぞれの学生が戦争の原因を思索。そして社会の大多数が「思索しなくなった時」、為政者は簡単に社会を戦争に向かわせることができることを説明。写真を考え抜く力（思索力）が、社会の暴走を止める力にもなることを、学生たちは理解してくれたようだ。

4 回目は「地球規模の自然破壊」を、5 回目は、「核兵器を持つことの愚」を、6 回目は「歴史を学ぶ中での平和構築法」を、7 回目は「地球の上で連鎖する命」の意味をテーマに講義を展開。

毎回、各論から総論へ、総論から各論へと、テーマを展開することで、それぞれの学生が、地球の上の、世界の中の、現代の日本において、一人の学生としての自分は、どのように感じ、どう社会のため、世界や地球のために生きていくことができるかを考え続けた。報道写真とは、撮る者も、観る者も、社会との関わりが生まれることを「引き受ける行為」だと信じるからだ。私が写真を見せながら繰り返し投げかけたこうした問いに、学生たちは毎回全力で答えてくれた。社会の未来への可能性に触れる思いができた講義だった。

●石川 梵

平成 28 年 6 月 7 日～7 月 19 日(7 回)

全 7 回の講義を通して心がけたのは、現場に立ち続ける写真家としての視点だ。

お茶の間評論家ではなく、学生たちに疑似的に現場に立ってもらい、報道写真の難しさと喜びを教えた。また、大学側の理解を取り、報道写真という枠を超え、現在製作中のドキュメンタリー映画を題材に、問題点を一緒に考えながら、ジャーナリズムのあり方についても考えてもらった。

第 1 回：まず、私自身のライフワーク、地球と祈りについて写真を見せながらおおまかに解説した。そして代表作であるインドネシアの生存捕鯨について話した。4 年かけて撮った人間とクジラの死闘、さらに 3 年かけて撮ったクジラの目、感嘆の感想が多くでたが、多くの学生が写真家魂というものと、一枚の写真に込められた写真家の思いに心を動かされたようだ。

第 2 回：このとき、あなたはどうか？その問いを常に発しながら、報道者の立場から東日本大震災を私の写真群を見ながら追体験させた。取材に行くべきか、行かざるべきか、被災者にカメラを向けるべきか、そうでないか。東日本大震災の現場では、常に私自身という人間が試されていたが、学生らは疑似体験を通して、さまざまに思いを巡らしていたようだ。

第 3 回：写真は世界を救えるか？それはわからない。



キャンパスで講義中の石川 梵氏

桃井 和馬(ももい・かずま)

写真家、ノンフィクション作家、桜美林大学特任教授。

1962 年生まれ。これまで世界 140 カ国を取材し、「紛争」「地球環境」「宗教」などを基軸に、独自の切り口で「文明論」を展開している。講演・講座の他、テレビ・ラジオ出演多数。第 32 回太陽賞受賞。主要著書に『もう、死なせない！』（フレーベル館）、『すべての生命(いのち)にであえてよかった』（日本キリスト教団出版局）、『妻と最期の十日間』（集英社）、『希望の大地』（岩波書店）、他多数。JPS 会員。

HP <http://www.momoikazuma.com/>

しかし、ひとつの村なら救えるかもしれない。私が現在取り組んでいる震源地のネパール大地震復興プロジェクトを説明し、私が写真家生命を賭けて取り組んでいる内容について説明した。雑誌の衰退とメディア環境の変化は絶望と希望を生み出しているという現代的、実戦的レクチャーを行った。

第 4 回：私が製作中のドキュメンタリー映画の上映。ネパール大地震ドキュメンタリー映画の 3 分 2 を上映。その感想と問題点、改善方法について生徒たちが大判のリアクションペーパーに、ぎっしりと書き込んだ。

第 5 回：続きの第 3 章の上映 そして感想を読みながらのトーク。さらに「感動を伝える」というテーマで撮影課題を出した。

第 6 回：生徒学生たちの指摘で実際に変更した映画の箇所を解説。ちょうど編集集中だったので、生徒学生にとってもめったになり機会であり、私にとっても参考になる意見があった。それらを修正して見せると、生徒たちもやりがいを感じたようだ。課題写真「感動を伝える」が風景ばかりだったので、一喝、「なぜ人を撮らない！」

第 7 回：新たな「愛」を表現した人物写真を課題にしたところ、多くの人物写真が集まった。先の課題と合わせてランダムスライドショーを上映。写真が自ら語り出すことの意味を教えた。今の時代、人を撮る、公開することは難しいことだ。しかし、その意義を多くの学生たちが自ら気づき感動してくれた。

そしてなぜ私が写真家になったのか、これまでどんなことを考えながら生きてきたのかについて NHK の私の特集番組を上映しながら解説。

最後に、全 7 回を通した感想として、多くの学生が生きていくことの意味、いかに生きるべきかということと考えたと、リアクションペーパーに記してくれた。地球と人間、その間にある祈り、そして愛、写真を撮る行為は実はいかに生きていくかという行為と重なる。あえて言葉にしなくても、そこまで感じてくれたのは望外の喜びだった。

(写真提供／専修大学、構成／小池良幸)

石川 梵(いしかわ・ほん)

フランス AFP 通信を経てフリーランス。

30 年あまりに渡り、地球の空撮と人間の祈りの世界を撮り続ける。人類と大自然の共生がライフワークのテーマ。写真集『海人』（新潮社）で写真協会新人賞、講談社出版文化賞、『The Days After 東日本大震災の記憶』で写真協会作家賞を受賞。このほか写真集に『伊勢神宮』（朝日新聞）著書『人間の大地』（岩波書店）ほか多数。現在、ネパール大地震の復興をテーマにドキュメンタリー映画「世界でいちばん美しい村」を製作中。JPS 会員。

平成 27 年度小学生を対象とした「写真学習プログラム」報告

写真の楽しさ、面白さを広める

— 協力：富士フイルム(株) —

平成 17(2005)年より、レンズ付きフィルム「写ルンです」による小学生を対象とした「写真学習プログラム」を、富士フイルム(株)の協力によって、毎年全国の小学校 50 クラスで実施している。

デジタルカメラは勿論のことインターネット検索機能付き携帯電話(スマホ)の普及によって手軽に写真が撮れ、SNS などの情報ツールとして写真が活用されているのが現状である。写真の原点ともいえるフィルムによる写真撮影が大幅に減少する現状を考えこのプログラムでは、従来からのレンズ付きフィルム「写ルンです」とコンパクトデジタルカメラを併用している。それは、単に写ったという喜びだけでなく、児童だからこそ必要とされている「事物の観察、物事を注意深く見る、凝視することの大切さ」を写真撮影により見ることの意識を通じて会得し体験してもらうことに意義を見いだしている。このことは写真という優れた記録媒体を使つての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。

「写真学習プログラム」は、協会の教育事業として 11 年間に延べ 565 人の会員による指導で、20,514 人の児童に、「写真学習プログラム」の授業を実施して、「写真への興味を喚起すること」を体験してもらっている。

また、多くの方々にこの児童たちの作品を見ていただこうと、富士フイルム(株)、富士フイルムイメージングシステムズ(株)が主催する「PHOTO IS」想いをつなぐ。30,000 人の写真展」の特別企画「PHOTO IS」小学生の眼」へ「写真学習プログラム」参加児童の作品を展示している。写真愛好家をはじめ会場で観覧された多くの人々が、展示された小学生の作品を観て、素直で力強い感性だと驚いていた。



【2015 年 4 月～2016 年 3 月実施分】

No.	実施校	県名
1	三原市立小泉小学校	広島県
2	三原市立須波小学校	広島県
3	松浦市立志佐小学校 1 組	長崎県
4	松浦市立志佐小学校 2 組	長崎県
5	斜里町立川上小学校	北海道
6	みやま市立下庄小学校 1 組	福岡県
7	みやま市立下庄小学校 2 組	福岡県
8	都城市立梅北小学校	宮崎県
9	川西市立緑台小学校 1 組	兵庫県
10	川西市立緑台小学校 2 組	兵庫県
11	伊東市立富戸小学校	静岡県
12	みやま市立清水小学校	福岡県
13	川崎市立大戸小学校 1 組	神奈川県
14	川崎市立大戸小学校 2 組	神奈川県
15	川崎市立大戸小学校 3 組	神奈川県
16	川崎市立大戸小学校 4 組	神奈川県
17	清里町立光岳小学校	北海道
18	登米市立南方小学校 1 組	宮城県
19	登米市立南方小学校 2 組	宮城県
20	多摩市立西愛宕小学校 4～5 年生	東京都
21	多摩市立西愛宕小学校 6 年生	東京都

No.	実施校	県名
22	神戸市立六甲山小学校	兵庫県
23	長崎市立銭座小学校 1 組	長崎県
24	長崎市立銭座小学校 2 組	長崎県
25	福山市立新市小学校 1 組	広島県
26	福山市立新市小学校 2 組	広島県
27	葛飾区立梅田小学校 5 年 1 組	東京都
28	葛飾区立梅田小学校 5 年 2 組	東京都
29	那須町立那須高原小学校	栃木県
30	葛飾区立梅田小学校あおぞら学級	東京都
31	江戸川区立二之江小学校 1 組	東京都
32	江戸川区立二之江小学校 2 組	東京都
33	台東区立東浅草小学校 1 組	東京都
34	台東区立東浅草小学校 2 組	東京都
35	多摩市立連光寺小学校 1 組	東京都
36	多摩市立連光寺小学校 2 組	東京都
37	千代田区立和泉小学校 5 年 1 組	東京都
38	千代田区立和泉小学校 5 年 2 組	東京都
39	千代田区立和泉小学校 4 年生	東京都



【平成 27 年度実施校児童の作品から】



三原市立須波小学校生の作品



松浦市立志佐小学校生の作品



斜里町立川上小学校生の作品



都城市立梅北小学校生の作品



川西市立緑台小学校生の作品



伊東市立富戸小学校生の作品



川崎市立大戸小学校生の作品



清里町立光岳小学校生の作品



登米市立南方小学校生の作品



多摩市立西愛宕小学校生の作品



神戸市立六甲山小学校生の作品



福山市立新市小学校生の作品



葛飾区立梅田小学校生の作品



多摩市立連光寺小学校生の作品



千代田区立和泉小学校生の作品

平成 28 年度全国高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」

写真力を伝える、極める

－協力：(株)ニコンイメージングジャパン、エプソン販売(株)－

全国高等学校文化連盟写真専門部との共催で催している写真部顧問を対象とした平成 28 年度第 10 回「デジタル写真講座」を、6 月 10 日岩手、6 月 25 日愛媛で開催した。実施に当たってはエプソン販売(株)と(株)ニコンイメージングジャパンの協力で行った。

デジタルカメラの普及は急激で、いまや高校生の大半がデジタルでの写真制作という時代になっている。顧問の先生方もこの流れに遅れまいとカメラの仕組みや使い方、インクジェットプリントの技術を得ようとして約 7 時間の講習を熱心に体験された。

(記／教育推進委員会)

1 回目：平成 28 年 6 月 10 日(金)

会 場：岩手県立盛岡南高等学校

講 師：山口勝廣、和田直樹

補 助：小池 聡

東北地方が梅雨入りをする直前の 6 月 10 日、高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」が、岩手県立盛岡南高等学校で開催された。東日本大震災の被害が大きかった三陸沿岸部を含む県内 16 の高校から 21 名の先生方が参加した。

岩手県高等学校部文化連盟写真専門部長の岩澤健二校長の開講の挨拶、講師の山口専務理事、和田常務理事の挨拶に続いて、ニコンイメージングジャパンの米岡氏より、当日使用するニコン D750 の基本的な使い方、各種モード設定などを初心者にも分かりやすく説明があった。デジタル一眼レフに不慣れな先生もいたが各講師より丁寧な説明を受け、撮影準備を整えた後、車で約 5 分の都南中央公園に移動して撮影実習が行われた。地元のプロ女性モデル 2 名を被写体として上級者グループを山口講師が担当、初心者グループは和田が担当し、2 つのグループに分かれて撮影実習を開始した。この日は梅雨入り直前の快晴で気温は 30 度、強い日差しもあり人物撮影には難しい撮影条件ではあったが、講師は基本となる光線の選び方、補助光としてのレフ板の効果的な使い方、露出補正などを指導し、先生方は公園の遊具やモニュメントを利用するなど、背景の処理に工夫をし、モデルの魅力を引き出す写真を撮ろうと熱心にシャッターを押し、和やかな雰囲気の中で約 2 時間の実践的な撮影実習を行った。

撮影実習後は高校へ戻り、各自撮影したデータをパソコンへ移し、エプソン販売の松岡氏によるプリンターの説明を受けプリント作業に入った。人物撮影では、数多く撮影した写真の中から作品を選ぶ作業も大切なことを講師からアドバイスを受け、パソコンのモニターをしっかりと見て慎重に写真を選んでいった。また、それぞれのグループでは、経験豊富な先生が初心者の方のプリント作業を手伝い、それぞれ仕上がったプリントを机上に並べ比較しながら意見交換をしていた。

プリント作業終了後は、先生方の作品をオーバーヘッドプロジェクターで投影し、講師による講評が行われた。仕上がった作品はどれも個性豊かでレベルが高く、初心者の方の作品でも講師から良い評価を受け、一枚講評されるごとに会場からは拍手が起きていた。また、それぞれの作品についてのピンツ、フレーミング、レフ板の使い方、背景処理、モデルの目線など、プロ写真家ならではの講師からのアドバイスがあり、参加者は講師の一言一言に注意深く聞き入っていた。

作品講評に引き続き、山口講師より、「SNS 時代の著作権と肖像権」と題した講義があり、急速に広まった SNS でのトラブルを回避するための注意点や、スナップ撮影の注意点、著作権の基本についての解説がされ、これらを写真部顧問の先生方自身が勉強し、生徒への指導をするようにアドバイスがあった。また、山口講師が長年撮り続けている御嶽山や木曽路の作品が投影され、力強い作品と、撮影現場の体験談に先生方も大いに感銘を受けていた。

閉会式では受講者代表から、「今までの講習会で一番有意



強い日差しが照りつける中での撮影会(岩手会場)



実際のプリント作業を行う参加者(岩手会場)



プリントを投影しての講習会(岩手会場)

義で楽しいものでした、この体験を写真部部員への指導に活かしたい。」との言葉があり、実りある講習会は閉会した。

(記／和田直樹、撮影／小池 聡)

2回目：平成 28 年 6 月 25 日(土)

会 場：愛媛県立松山工業高等学校

講 師：山口勝廣、和田直樹

補 助：武田 直、垂水謙庄

「全国高等学校文化連盟写真部」との共催で毎年実施している高校写真部顧問を対象とした平成 28 年度「デジタル写真講座」が 6 月 25 日、夏目漱石の小説「坊っちゃん」や道後温泉で有名な愛媛県松山市の県立松山工業高校で開催した。ニコンイメージングジャパンとエプソン販売の協力のもと愛媛県下の高校写真部顧問教諭 19 名が参加した。

デジタルカメラの普及はめざましく、今や 1 人 1 台。スマートフォンなどを含め、老若男女を問わず、日々の生活の中で写真に親しむ時代になってきた。

初めに、日本写真家協会副会長の松本徳彦から、「たとえデジタルでも一番大切なのは、何をどう撮るかが大切」との挨拶と常務理事足立寛からは、「最近テレビをはじめヨコ位置画面が多く、写真もおのずとヨコ位置が増えてきた。きょうは、タテ位置写真を意識してほしい」と説明があった。

各自にニコン D 750 と標準ズームレンズ 24 ～ 85mm が貸し出され、一通りカメラの操作方法の説明がなされた後、「坊っちゃん」と「マドンナ」のモデルが待つ、松山城へ移動した。

梅雨の季節特有の小雨が降る中、2 班に分かれ撮影開始し



小雨の中、松山城での撮影実習(愛媛会場)



プリントした各自の自身作が並ぶ講習会(愛媛会場)

た。途中、昨年「ゆるキャラグランプリ」で 2 位に輝いた「みきゃん」も参加して華やかな撮影実習会となった。人物主体の撮影でのバックのほかし方、背景をどうするか、など実践的な技術指導を行いながら、和やかな雰囲気です約 2 時間はあっという間に過ぎた。

昼食後、背面モニターで写真を選び、エプソン販売の講師指導のもと、写真をプリント、A4 に出力された各人 2 枚の自信作をテーブルに並べた講習会となった。

最初に松本副会長から作品を見ての総評として「昨今のデジタルカメラは、技術の発展により誰でも綺麗に撮れるようになった」と表情のとらえ方、背景の選び方、空間の大切さなどの説明があった。

講習会後に松本副会長が、「肖像権、こんな時どうする」と題し、街角でのスナップ写真を撮影する上でのルールやマナーについて、パワーポイントを使いサンプル写真など採り上げながらの講話があった。身近な問題だけに熱心に聞き入っていた。

写真歴なしの高井英明教諭は、「絞り、シャッタースピードなど、基本を学ぶことが出来、楽しく 1 日過ごせた」と話した。紅一点参加の渡部真弓教諭は、「カメラ歴 10 年で家族を主に撮っています。今日は、分かりやすく教えていただき、人によって捉え方も違ってくるなど、大変勉強になりました」と感想が寄せられた。本日の講習で得たものを学校に戻り写真部の生徒に伝え、写真ライフの向上になることを願い終了した。

(記／武田 直、撮影／垂水謙庄)



松本副会長によるルールとマナーについての講話(愛媛会場)



Message Board



◆池田 勉 (2012 年入会)

上方で布教のキリスト教宣教師と信者 24 人は時の権力者・豊臣秀吉の命で捕えられ、厳冬の街道を裸足で一ヵ月間歩かされ、長崎の西坂で処刑されている。道中 2 人追加して 26 人は十字架に磔られ、凡そ 4 千人の群集が見守る中で処刑されている。これを機に長崎のキリスト教徒は潜伏の世界に入っている。



その中で東彼杵から西坂までの要所をドキュメンタリックに表現した写真作品展を東彼杵町歴史民俗資料館で 9 月 1 ヶ月間「第 20 回池田勉写真展・西坂への道」と題して開催。

(長崎県長与町在住)

◆宇苗 満 (2006 年入会)

楽しみだった今年の夏祭りも終わりました。

私が毎年参加している「言代主神社例大祭」の社殿は、江戸時代の天保 2 年 (1831) に創建されましたが、平成 5 年 (1993) の北海道南西沖地震で焼失したため、伊勢神宮の御好意で内宮別宮・月読宮の撤去材一式を御下賜いただき復元建立したものです。

また、祭山車の形態はニシン漁繁栄時代に海洋交易をしていた京都の祇園祭から伝わったものとされ、共に巡行する私たち祭人は各住宅の玄関口で福を呼ぶ「ハオイ」を歌い上げます。これはニシン漁の網を引き揚げる掛け声だと言われています。

真っ赤に日焼けした顔と、つぶれた声が出た頃、急ぎ足で冬が近づいてきます。

(北海道奥尻島在住)

◆尾崎たまき (2016 年入会)

地元である熊本が二度の大地震に見舞われました。その後熊本へは、被災した実家の手伝いや撮影などで帰省を繰り返しております。観光地として有名な阿蘇や熊本城もいまだ大変な状況は続いているようですが、何より皆

さんの足が熊本から遠のいたことを熊本の皆さんは残念がっています。観光できる場所や宿泊場所など、熊本にはまだまだたくさんあります。是非足を運んで美味しいものを食べたり、美しい景色を撮影したり、熊本の素晴らしさを満喫する旅へ出かけて欲しいと願っております。おもてなし大好きな熊本の皆さんが大歓迎してくれること間違いなしです。

(神奈川県川崎市在住)

◆五十嵐 颯 (2016 年入会)

御会主催の「JPS 2016 年 新入会員展」に引き続き、9 月 30 日金曜日～10 月 6 日木曜日の期間は富士フィルムサロン名古屋にて、10 月 6 日木曜日～10 月 25 日火曜日の期間は成田空港第一ターミナル中央 5F にて、それぞれ飛行機撮影ファンが主催する作品展に当方作品を特別展覧させていただいています。最近、巷で静かなブームとなっている飛行機撮影。空港の展望デッキでも撮影に



動む人の姿が目立つようになってきました。私たち航空写真家も飛行機撮影ファンの活動に積極的に協力し、飛行機撮影ジャンルのさらなる普及、盛り上げにひと役かえればと思います。

(千葉県市川市在住)

◆蜂谷 秀人 (1996 年入会)

ツールドフランス 7 連覇したランス・アームストロングのドーピングを追った映画「疑惑のチャンピオン」。岡山でも上映されることになり、上映館のロビーにアームストロングの実際の写真を展示してもらいました。映画はよく出来ていますが、写真のリアリズムの凄さを改めて感じています。

(岡山県岡山市在住)

◆出澤 達男 (2016 年入会)

リオデジャネイロオリンピックも終わり、4 年後にはいよいよ東京オリンピックを迎えようとしています。52 年前の 1964 年東京オリンピック、この時私はまだ中学生でしたが、この時東京オリンピックの警備・来賓用クルーザーとして建造された大型木造帆船 (ヨット) があります。

このヨットに試乗できるということで江の島ヨットハーバーを訪れました。

しかし、この日はあいにく台風 9 号が近づいているため中止になってしま

いました。

空も海も穏やかそうに見えましたが、

沖はきつと風も強いのでしょうか。

ヨットはあきらめて、せっかく来た江の島を回ってみると、若者たちの海のレジャーは、ヨット・水上バイク・モーターボートとすっかり様変わりしたのを感じながら、江の島をスナップに収めました。

(神奈川県横浜市在住)



◆井ノ元 浩二 (2016 年入会)

今年入会させて頂き JPS の会報・協会ニュースを拝見して勉強中の身ですが、早速メッセージボードのお話を頂きましたので、投稿させていただきます。

私は、人物一筋 (アイドル (男女)・女優・アーティスト) を撮り続けて 33 年が経ちました。

①長澤美里奈写真集 (9 月 25 日発売・ワニブックス刊)

②女子アナ・アイドル・のカレンダー 15～16 本 (10 月の中旬から順次発売)

③農業 DANSHI カレンダー (時事通信社より 9 月末から発売)

④週刊現代 (米倉涼子さんグラビア・講談社より 10 月発売)

個人の作品撮影としては、街歩きで出逢った情景・バリ島のお祭り・バリ島の農家のポートレート等を、何時か写真展が出来ればと思いながら撮りためています。

(東京都世田谷区在住)

◆馮 学敏 (2001 年入会)

日中国交正常化 45 周年記念写真展 予定

お茶の故郷は中国にあり、ウーロン茶の故郷は福建にあります。福建は中国の南東に位置し、北西を山に囲まれながら、南方向 375 km に及ぶ入り組んだ海岸線を持っています。総面積は約 12 万平方キロメートル。気候は温暖で四季春の如し。良港が多数あるため、かつて海のシルクロードの原点として、お茶、陶器、シルクといった中国の物産で海上貿易が盛んな地域でもありました。山の幸とも言える良質のお茶が古くから栽培されていて、お茶の産地としても有名であります。特にウーロン茶の「鉄観音」はお茶の貴族と称されて、国内外にその名を馳せています。ここ 10 年の間、私は東京から福建に 5 回ほど足を運び、福建の世界遺産 (武

夷山、福建土楼)をはじめ、風俗習慣やお茶文化などを撮影してきたものです。そのうち、今年の3回の撮影(延べ1ヵ月間)は現地政府の多大な協力を得て、お茶摘みの季節に合わせ、お茶の文化と日本の仏教黄檗宗の開祖・隠元禪師について撮影しました。年末東京にて写真展「福建—ウーロン茶」を開催予定です。

このような特別な地域の写真を通して、より多くの日本の皆様方にウーロン茶の故郷を知り、好きになり、観光に行き、また、中日両国人民の民間文化交流を促進し、相互理解を深めることができると願います。

(神奈川県川崎市在住)

◆クキモトノリコ (2016 年入会)

7月に京都で開催されたJPS展に合わせて、今年も一般の方向けのイベント「ゆかた DE フォトウォーク」が開催され、約20名の女性にご参加頂きました。平安神宮周辺にてお互いを撮影、その日撮影した写真をプリント、JPS展会場内にて展示まで行うという内容で、一眼レフを触るのは初めて、という方も含めてそれぞれに写真の楽しさを体感して頂けたかと思います。JPSの一員として写真の楽しさを伝える活動に今後も携わってゆきたいです。



(兵庫県神戸市在住)

◆加藤 彰 (2016 年入会)

先日2016年新入会員展が終わりました。自分は新入会員展実行委員会のメンバーとして運営にも携わらせていただきました。至らぬ点もありご来場いただいた方々にはご迷惑もお掛けした事と思いますが、それでも今の自分は達成感に包まれています。貴重な体験が出来ただけでなく委員会の活動を通じて多くの会員や関係者と知り合う機会を得、今後の写真家活動にとっても有意義な時間を過ごす事が出来たからです。JPSは受け身で待っているのとメリットは少ないと感じる方もいるのかもしれませんが、しかし自分から能動的に活動していけばとても大きな収穫が得られると感じられました。今後もJPSの活動を通じて、更なる成長を目指していきたいです。

(神奈川県川崎市在住)

◆坂井田富三 (2016 年入会)

10月27日～11月2日の期間、フォトギャラリーキタムラ新館で「#ねこまみれ写真展 - 猫のライカとinstagramの仲間たち - 坂井田富三 with #ね

こまみれ編集部」を開催します。

愛猫の写真

をメインに、instagramのフォロワーに声をかけ、参加型の写真展企画しております。SNSによる拡散によって、写真展告知や来場数をどのくらいまで増やせるのか、実験的な取り組みとして今回企画しています。(神奈川県横浜在住)



◆岩本圭介 (2016 年入会)

先日久しぶりに、大阪へ出張することになりました。そこでホテルを探したのですが、どこも混んでいて高い！ならばと大阪事情に詳しい友人に尋ねたところ、あいりん地区のドヤ街なら安く泊まれるよと勧められました。ご存知の方も多いでしょうが、ここはかつて暴動が頻発した日本最大のドヤ街です。少々不安を抱えての出発となりました。しかしその街では外国人のバックパッカーや観光客の姿が目立ち、串カツやタコ焼きを楽しむ人たちが賑わっておりました。外国人観光客の急増で、ドヤ街も随分変わったようです。私が泊まった宿も意外と(失礼！)小ざれいで快適でした。しかし純然たる「ドヤ」も数多く有るので、お泊りの際にはご注意ください。

(北海道札幌市在住)

◆足立君江 (2016 年入会)

今年も雨季に入ったカンボジアで、土砂降りの雨の中、バイクで村の暮らしを取材。40歳代が活躍する時代になり、内戦時代を生きてきた人たちは、現在も口が重い感じです。10月は「村を巡る撮影ツアー」が催行決定となっています。7月は孤児院の絵画展&写真展など行事が重なりました。又、月一回の写真クラブの講師をしながら「東京の街歩き」を実施、「撮る、選ぶ、見せる」を基本に、組み写真を作ることに挑戦、また各種コンテストに応募で会員が大賞に輝くことができました。身近なところで撮影を楽しもうと、写真クラブの街歩き撮影を「公開講座」としました。



別に女性だけを対象にした、6ヵ月10回コースの「女性教室」の講師の依頼を受け、現在、同時に進行中です。

(東京都杉並区在住)

◆池谷俊一 (1992 年入会)

私は富士山の下の御殿場に住んでいる。駅前広場の一角のコーヒー店兼写真事務所内部に小さな小さなギャラリーを設置。若者や写真者の個展を開き、現代写真現状を勉強している。JPS会員の私は社会性を思考し、個展の意味を人々に伝播する。10日間で1万円。遠方の人なら我家で泊まりも可能(JPS会員に限る)、無論無料。全紙に12点程度の壁在り。サイズ自由。JPS会員の遠方の方は、旅もふくめ富士山撮影もOK。3ヵ月前より申込み下さい。(静岡県御殿場市在住)

◆荒牧万佐行 (1966 年入会)

50 年前の思い出

“何を写した！”2人の公安が私の腕をつかんだ。50年前、中国文化大革命の取材で上海での事だった。革命の一日が暮れて、黄浦江の堤防で寄りそう恋人たち、“革命中も恋は生まれる”絵になると思い、シャッターを押した。このトラブルがあった同じ場所を50年ぶりに訪れた。モダンな高層ビル群、多くの観光客、新しい中国を見た感じだった。



(東京都杉並区在住)

◆小橋健一 (1979 年入会)

71 回目の終戦記念日

地元江戸川 FM から番組出演の依頼がラインで飛び込んできた。

2015 年秋に出版の『橋の探見録-5』の続きを語るのかなと翌日約束の午後4時にスタジオ入りした。5時スタートの30分の生放送だった。

小橋さんは戦前生まれですから戦時中のエピソードを……。それは無理だと若手のディレクターを見たが待てよと思った。昭和20年が終戦で私は5歳。

当時私が住んでいた本所区(現墨田区)亀沢町も昭和20(1945)年3月10日の東京大空襲で住居も焦土と化した。幸い前もって父親の実家に疎開していたから難は免れた。繰り返された東京大空襲！母親とその度に逃げ込んだ防空壕、防空ズキンの上から焼夷弾の音が怖くて何度も耳を塞いだ。などと語っていると30分はあっという間だった。私達はこの戦争の犠牲になった多くの人たちの上に成り立っていることを忘れないでいましょうと締めくくった。(東京都江戸川区在住)

JPS ブック レビュー



京都、お参りしましょう 溝縁ひろし、足立裕

①メトロポリタンプレス
②2016年6月 ③18.8×13cm、150頁
④1,400円 ⑤発行所



赤城彩象 榎本正好

①MOON PRESS ②2016年6月
③20×22cm、48頁 ④1,800円
⑤発行所



世界は広く、美しい 地球をつなぐ色 ＜赤＞＜青＞ 長倉洋海

①新日本出版社 ②2016年5月、6月
③23.5×21.5cm、48頁 ④2,300円
⑤長倉氏



命が煌めく瞬間 中川幸作

①清須市はるみ美術館
②2016年4月 ③29.7×21cm、137頁
④ー ⑤中川氏



黄色いハンカチは 揺れている 写真・小林正典 文・高尾具成

①ビレッジプレス ②2016年5月
③21×15cm、192頁 ④1,800円
⑤発行所



遙かなるグルクン 中村征夫

①日経ナショナルジオグラフィック社
②2016年4月 ③23.5×24.8cm、144頁
④3,400円 ⑤発行所



につぼん縦断 民鉄駅物語〔東日本編〕 櫻井 寛

①交通新聞社 ②2016年6月
③17.2×10.8cm、240頁
④900円 ⑤発行所



月刊 「たぐさんのふしぎ」 375号 富岡製糸場 生糸がつくった近代の日本 田村 仁

①福音館書店 ②2016年6月
③25×19cm、40頁 ④667円
⑤田村氏



平久保半島 サガリバナの原風景 大塚勝久

①南山舎 ②2016年5月
③26×26cm、68頁 ④3,000円
⑤大塚氏



旅写真家が厳選した 世界三十六景 三田崇博

①読書館 ②2016年5月
③29.4×21cm、80頁
④2,100円 ⑤三田氏



Nikon D500 完全マスターガイド 表紙写真撮影・伏見行介 本誌撮影・文・小城史史

①朝日新聞出版 ②2016年6月
③27.7×21cm、128頁
④2,000円 ⑤小城氏



東欧美女 61 人 裸のファイル

中村 昇

①双葉社 ②2016年6月
③25.7 × 18.3cm、148頁
④3,800円 ⑤中村氏



大和路郷愁

入江泰吉

①JCI フォトサロン
②2016年6月 ③24 × 25cm、31頁
④800円 ⑤発行所



小さきもの、沈黙の中で

山本昌男

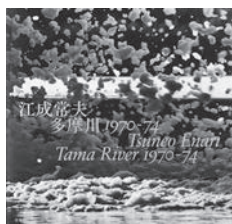
①RM ②2016年4月
③30.7 × 24.5cm、132頁
④ー ⑤山本氏



森井禎紹の地球・ぶらり旅

森井禎紹

①森井禎紹写真事務所 ②2016年7月
③24.8 × 26.8cm、152頁 ④5,000円
⑤森井氏



多摩川 1970-74

江成常夫

①平凡社 ②2016年6月
③25.3 × 26.2cm、120頁
④4,600円 ⑤発行所



園長先生は108歳!

榎並悦子

①クレヴィス ②2016年5月
③24 × 18.2cm、128頁
④1,500円 ⑤榎並氏



久慈川の氷花(シガ)

黒沢富雄

①日本写真企画 ②2016年1月
③20 × 21cm、56頁
④1,800円 ⑤黒沢氏



炎えた女

大山謙一郎

①遊人工房 ②2016年8月
③30 × 22cm、63頁 ④1,000円
⑤発行所



海のなかのぞいた

よしのゆうすけ

①福音館書店 ②2016年6月
③24.7 × 22.5cm、32頁
④1,200円 ⑤発行所



「ベルギーの最も美しい村」 全踏破の旅

吉村和敏

①講談社 ②2016年5月
③21 × 15cm、192頁
④2,400円 ⑤吉村氏



水と生きる建築土木遺産

後藤治、二村悟
写真・小野吉彦

①彰国社 ②2016年6月
③19.8 × 14.8cm、160頁
④2,300円 ⑤小野氏



Dear Earth

高砂淳二

①パイ インターナショナル
②2016年8月 ③20.5 × 29.7cm、136頁
④2,400円 ⑤高砂氏

 <p>世界は広く、美しい 地球をつなぐ色 <緑><白> 長倉洋海</p> <p>①新日本出版社 ②2016年8月 ③23.5 × 21.5cm、48 頁 ④2,300 円 ⑤発行所</p>	 <p>沖縄 若夏の記憶 大石芳野</p> <p>①岩波書店 ②2016年7月 ③14.8 × 10.5cm、228 頁 ④1,220 円 ⑤発行所</p>	 <p>貌・KAO II 白鳥写真館 「これから…」 白鳥真太郎</p> <p>①日本経済新聞出版社 ②2016年6月 ③29.7 × 22.7cm、222 頁 ④4,500 円 ⑤白鳥氏</p>	 <p>テツは熱いうちに撮れ！ 結解 学</p> <p>①交通新聞社 ②2016年8月 ③21 × 14.8cm、160 頁 ④1,500 円 ⑤発行所</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

寄 贈 図 書

芳賀日向殿……………監修・芳賀日向・行ってみよう撮ってみよう
日本の祭り
近藤誠宏殿……………素描集 第232集
中島次郎、監修・近藤誠宏・新野物語
小川泰祐殿……………日本建築写真家協会・大阪写真新世界
東京都写真美術館殿……………RD3 プロジェクト・被災写真救済の手引き
……………東京都写真美術館 総合開館20周年史
一次施設開館から25年のあゆみ
交通新聞社殿……………中村建治・中央線誕生
日本カメラ社殿……………加藤洋一・鳥影、T.T. たなか・ENCOUNTERS

JCII フォトサロン殿……………赤羽末吉・赤羽末吉スケッチ写真
モンゴル・1943年
……………井桜直美・一幕末・明治の肖像写真―海を渡った侍たち
日本写真協会殿……………「東京写真月間2016」図録
日本肖像写真家協会殿……………人像2015
日本リアリズム写真集団殿……………2016年「視点」第41回展作品集
光村推古書院殿……………名古屋 昭和の暮らし 昭和20～40年代
リコーイメージング㈱ペンタックスリコーファミリークラブ事務局殿
……………PENTAX RICOH PHOTO ANNUAL 2016-2017
勉強出版殿……………東京復興写真集1945～46 文化社がみた焼跡からの再起

受賞おめでとうございます。今後ますますの活躍をご期待申し上げます。(50音順)



■フォトシティさがみはら 2016 さがみはら写真新人奨励賞受賞 平成28年10月15日
受賞者：清水哲朗（2004年入会）
写真集『New Type』に対して。



■「東京国際写真コンペティション 2016」受賞者に選出 平成28年8月
受賞者：長谷良樹（2016年入会）
タイトル「First Composition」

東京都写真美術館 (TOP MUSEUM) リニューアル・オープン

総合開館から20年目となる2016年、東京都写真美術館は約2年に及ぶ長い休館期間を経て、9月3日(土)にリニューアル・オープンした。これに合わせて、シンボルマークと愛称も新しくなった。新しい愛称 TOP MUSEUM (トップ ミュージアム) は Tokyo Photographic Art Museum から取ったもので、写真・映像の美術館としてトップの感動を届けたいということで名付けられた。

1階と2階のロビーが改修され、ミュージアム・ショップやカフェも一新されたが、展示作品をよりよく展示・保存する設備機器等の改修が大きな目的で、空調の機器更新や照明をLED器具に変えたり、2階・3階展示室の床をカーペットからフローリングに変えたりと、目立たない点の改修も数多く行われている。

TOP MUSEUM では、今後1年間にわたって総合開館20周年を記念した展覧会を始め、上映やシンポジウムが開催される。

東京都写真美術館 (TOP MUSEUM)

開館時間：10:00-18:00(木・金は20:00まで)。

*入館は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日

観覧料：展覧会・上映によって料金が異なります。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

問い合わせ：03-3280-0099

<https://topmuseum.jp/>

(記・撮影／出版広報委員・柴田 誠)



東京都写真美術館外観



2Fのミュージアム・ショップ

一般社団法人 日本写真文化協会 全国文化部役員による写真展「写真館ものがたり-愛-」開催

2016年9月1日(木)～7日(水)に東京・四谷のポートレートギャラリーで開催された写真展「写真館ものがたり-愛-」の記者発表会が、9月6日(火)に行われた。日本写真文化協会の全国文化部役員58名による作品展で全国の写真館が捉えた集大成的な写真展。

また記者発表会では、国別対抗写真コンテスト、第4回ワールド・フォトグラフィック・カップ(WPC)が、2017年春に横浜で開催されることが発表された。ポートレート、ウェディング、コマーシャル、イラストレーション/デジタルアート、ルポルタージュ/フォトジャーナリズム、ネイチャーの6部門で、参加国が各部門3作品ずつ、計18点の作品をエントリーし、個人の受賞ポイントの合計でW杯が決定する。各部門の上位10作品(計60点)のファイナリストの中から、上位3作品には金銀銅のメダルが授与される。授賞式は2月23日(木)に横浜で開催される。



ポートレートギャラリーで開催された記者発表会で挨拶する日本写真文化協会会長の堀恵介氏

日本は2013年から毎年参加しており、今回は上位入賞を目指して公募作品も加えてエントリー。2016年は27ヶ国が参加し、ポルトガルがW杯を授賞。2位ロシア、3位スロバキアだった。

(記・撮影／出版広報委員・柴田 誠)

受賞・出版・写真展 2015年・日本写真家協会会員 (1月～12月)

作品による会員の動きを記録する意味から年1回受賞・出版・写真展をされた方々の記録を掲載しております。資料は会員のアンケートの回答をもとに作成しておりますので掲載されることもあると思いますがご了承下さい。

■受賞

会 員 名	受 賞 名	時 期	理 由
飯 塚 明 夫	日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 2014 ビーブル部門最優秀賞	3/16	タイトル「e-waste 廃棄場の労働者」に対して
榎 並 悦 子	日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 2014 ネイチャー部門優秀賞	3/16	タイトル「終焉-晩秋のごん」に対して
江 成 常 夫	酒田市特別功労表彰	11/11	写真文化を通し、酒田市の発展に寄与
川 口 邦 雄	平成 27 年日本写真協会賞功労賞	6/1	自然に対する広い知識や独自の個性により、半世紀以上に渡り山岳写真に大きな存在感を示してきた。その長年に渡る写真界への貢献に対して
桑 原 史 成	イ・ヘソン写真文化賞	12/9	写真展や出版を介して韓国の写真文化への貢献が大きかったことに対して
下 瀬 信 雄	第 34 回土門拳賞	4/17	受賞作の『結界』は、山口県・萩市周辺の自然を繊細に撮り続けた大判フィルムによるモノクローム作品。自然を前にして人が恐れを抱き、祈りを感じる「空間」の一瞬を撮りためてきたもの。「生と死」をテーマに自然の怖さと美しさを 2011 年 3 月 11 日を経験した写真家として見事に写し撮り、見るものに驚きをもたらした
鐔 山 英 次	平成 27 年日本写真協会賞功労賞	6/1	東京新聞写真部員として活躍し、退職後は武蔵野を流れる野川の再生や津軽の撮影など、写真と社会との融合を考え活動してきた。その長年の功労に対して
中 井 精 也	第 46 回講談社出版文化賞写真賞	5/27	写真集『1日1鉄!』に対して
中 井 精 也	平成 27 年日本写真協会賞新人賞	6/1	「1日1鉄!」や「ゆる鉄」などにより鉄道写真にイノベーションを巻き起こし、更に社会性の濃い表現も追求するなど、鉄道写真の可能性を切り開いてきた。その馬力と牽引力溢れる制作活動に対して
中 川 幸 作	第 56 回 CBC クラブ文化賞 (くちなし章)	2/3	名古屋の音楽・美術工芸界の芸術家の写真を数多く撮影し発表してきたことに対して
丸 山 耕	日経ナショナル ジオグラフィック写真賞 2014 ビーブル部門優秀賞	3/16	タイトル「我が子を思う」に対して
水 越 武	平成 27 年度地域文化功労者表彰	11/18	永年にわたり優れた活動を行い、地域文化の振興に貢献してきたことに対して
南 川 三 治 郎	平成 27 年日本写真協会賞作家賞	6/1	美術家や作家の創作現場を捉えた初期の作品から、近作の伊勢神宮をテーマとした作品まで、被写体やテーマと真摯に向き合う姿勢と周到な取材で、たゆみない撮影を重ねてきた。その長年の写真制作活動に対して
山 縣 勉	EMERGING ASIAN PHOTOGRAPHY GRANT	9/5	社会的に優れた写真作品に対して助成金を与えるもの
山 口 一 彦	第 1 回「まち・ひとと活力大賞」	9/16	ここ数年北海道室蘭をライフワークとして風景・ポートレートを撮影。写真集、巡回写真展を発表してきたことに対して
吉 村 和 敏	第 31 回写真の町東川賞特別作家賞	8/8	写真集『CEMENT』(ノストロ・ボスコ、2010 年) に対して

■出版

(写真集・写真関係著書・電子書籍・CD-ROM・DVD・ビデオ等)

会 員 名	著 書 名	発行所	発行月	定価
浅 井 秀 美	東京・愛犬日和	本坊書房	11/30	3,500
阿 部 俊 一	美しき美瑛の光と空	Photo Stage ACE	5/25	3,500
飯 田 裕 子	長崎の教会 (共著)	JTB パブリッシング	10/15	1,600
池 田 宏	南極- ANTARCTICA -	学研プラス	12/	3,000
伊 藤 勝 敏	さかなだってねむるんです (共著)	ポプラ社	9/	1,400
(故) 福越功一	播磨屋 一九九二～二〇〇四 中村吉右衛門	JCII フォトサロン	11/3	800
井 上 隆 雄	「糺の森」の四季 光と遊ぶ	賀茂御祖神社	4/27	-
(故) 入江泰吉	回顧 入江泰吉の仕事	光村推古書院	11/19	3,800
岩 木 登	ワッカ Wakka/いのちの水の回廊	岩木登		24,000
海 野 和 男	自然のだまし絵 昆虫の擬態	誠文堂新光社	5/15	3,000
海 野 和 男	世界のカメラキリ観察図鑑	草思社	6/26	2,200
江 口 慎 一	光の詩集 Brilliance	日本写真企画	7/2	1,800
江 口 慎 一	個性派マクロ表現術	日本写真企画	7/2	1,600
江 口 慎 一	花別クローズアップ技法 秋冬編	日本カメラ社	8/5	1,850
榎 本 敏 雄	SAKURA	Gallery by Galerie wouter van Leeuwen	5/15	40 ユーロ
大 石 芳 野	戦争は終わっても終わらない	藤原書店	7/30	3,600
太 田 康 介	しろさびとまっちゃん	KADOKAWA メディアファクトリー	2/20	1,100
太 田 康 介	シンクロ姉妹猫 うちのとらまる	辰巳出版	8/15	1,200
大 塚 雅 貴	SAHARA 砂と風の大地	山と溪谷社	5/31	2,750
大 西 み つ ぐ	昭和町カメラノート	日本写真企画	11/1	1,300
岡 克 一	ニッポン灯台紀行	世界文化社	4/10	1,800
おちあいまちこ	なぐさめの詩	いのちのこば社	4/25	500
おちあいまちこ	きぼうの朝	いのちのこば社	4/25	500

会 員 名	著 書 名	発 行 所	発行月	定価
小 野 吉 彦	日本の最も美しい名建築（共著）	エクスナレッジ	9/2	1,800
加 藤 庸 二	島の博物事典	成山堂書店	6/18	5,000
金 瀬 胖	路上の伝記	現代写真研究所出版局	12/1	2,500
亀 井 正 樹	枯葉剤は世代をこえて ベトナム戦争と化学兵器の爪痕	新日本出版社	8/10	2,400
亀 田 昭 雄	幻影の園	アトリエ Winds	9/1	4,500
亀 村 俊 二	写真家になるために	亀村俊二	3/1	－
川 廷 昌 弘	芦屋桜	ブックエンド	2/6	2,000
(故) 木之下 晃	音楽写真家 木之下 晃 たいせつな出会い	木之下晃アーカイヴス	4/24	－
木 原 浩	世界植物記 アフリカ・南アメリカ編	平凡社	3/13	6,800
桑 原 英 文	奈良を愉しむ 奈良 大和路の桜	淡交社	3/29	1,600
桑 原 史 成	激動韓国 50 年 1965-2015	ヌンビ出版	7/29	3,300
結 解 学	数字で斬る！新幹線	ネコ・パブリッシング	4/30	648
小 城 崇 史	コンテストに役立つ 極上インクジェットプリント入門	朝日新聞出版	2/20	1,800
小 城 崇 史	Nikon D7200 完全マスターガイド（共著）	朝日新聞出版	4/30	2,000
小 城 崇 史	Canon EOS 5Ds/5DsR 完全マスターガイド（共著）	朝日新聞出版	9/30	2,300
小 西 貴 士	心をとめて 森を歩く（共著）	聖公会出版	1/15	1,800
小 西 貴 士	心をとめて 森を歩く ポストカードブック	聖公会出版	4/25	1,000
小 西 貴 士	子どもがひとり笑ったら…	フレーベル館	7/27	1,600
小 橋 健 一	橋の探見録－5	遼人工房	10/10	1,800
小 平 尚 典	そうだ、高野山がある。（共著）	バジリコ	4/10	1,600
小 松 健 一	心に残る「三國志」の言葉	新潮社	8/30	1,500
近 藤 誠 宏	ぎふ地歌舞伎衣裳	岐阜新聞社	8/15	3,000
齋 藤 ジ ン	西方白虎	齋藤ジン		500
櫻 井 寛	知識ゼロからの憧れの鉄道入門	幻冬舎	1/10	1,300
櫻 井 寛	欧州鉄道の旅	宝島ワンダーネット	1/14	－
櫻 井 寛	日本鉄道切手夢紀行	日本郵趣出版	10/15	1,400
佐 藤 健 治	岩崎通信機カレンダー「四季風光」	岩崎通信機（株）	1/	－
佐 藤 秀 明	じいさとばあさと田んぼの神様	三五館	5/19	1,800
佐 納 徹	天空の舞い	東方出版	12/1	2,000
清 水 哲 朗	New Type	日本カメラ社	12/	4,800
白 鳥 真 太 郎	貌	JCH フォトサロン	1/5	800
鈴木 竜 三	Uncovering Japan Vol.1（電子書籍）	アマゾンキンドル	3/22	5,97 ドル
鈴木 竜 三	Uncovering Japan Vol.2（電子書籍）	アマゾンキンドル	8/28	6,07 ドル
前 佛 勇	立山連峰と自然風景	前佛 勇		－
高 木 康 允	出会いの顔	高木康允	5/25	－
高 砂 淳 二	yes（共著）	小学館	9/29	1,000
高 野 潤	新大陸が生んだ食物－トウモロコシ・ジャガイモ・トウガラシ	中央公論新社	4/25	1,000
高 野 潤	アマゾン 森の貌	新潮社	5/20	1,400
高 野 潤	インカの世界を知る（共著）	岩波書店	11/	960
竹 内 ト キ 子	カレンダー 2016 こころの富士	辰巳出版	9/20	1,050
竹 田 武 史	桃源郷の記 中国バーシャ村の人々との 10 年	新潮社	11/10	1,800
田 中 達 也	星の絶景を撮る	玄光社	1/23	1,800
田 中 達 也	蜚の本	日本写真企画	5/20	1,800
田ノ岡 哲哉	花の撮影術	日本カメラ社	2/25	1,850
(故) 丹 野 章	昭和曲馬団	禅フォトギャラリー	9/12	－
塚 田 洋 一	横浜ダンスコレクション 20 年史 1996-2015	横浜赤レンガ倉庫 1 号館	1/20	－
塚 本 伸 爾	季の彩 光の色	塚本伸爾写真事務所	8/25	2,500
中 川 喜 代 治	広重と清親－清親没後 100 年記念	太田記念美術館	4/1	2,400
中 川 喜 代 治	ようこそ浮世絵の世界へ	太田記念美術館	8/10	2,160
中 川 喜 代 治	美を楽しむ健康	一般社団法人 MOA インターナショナル	9/1	500
中 村 武 弘	いそのなかまたち	ポプラ社	6/	1,200
(故) 中 村 正 也	NUDE WOMAN	JCH フォトサロン	3/31	800
夏 梅 陸 夫	花のアート作品集Ⅱ（電子書籍）	アイロゴス	3/	500
西 村 建 子	哀愁の大地－旧満州－	shashasha	9/22	4,800
西 村 豊	よつごのこりす はるくんのおすもう	アリス館	4/20	1,400
野 町 和 嘉	極限高地	日経ナショナルジオグラフィック社	6/7	4,600
野 町 和 嘉	地平線の彼方から	クレヴィス	6/26	1,500
芳 賀 日 向	行ってみたい 撮ってみたい 日本の祭り	旅行読売出版社	8/2	1,600
萩 野 矢 慶 記	江戸東京 四季の花を撮ろう	日本カメラ社	4/20	1,850
萩 野 矢 慶 記	街にあふれた子どもの遊び	彩流社	11/27	2,500
B A K U 齊 藤	初めてのアンコール遺跡	草土文化	3/10	1,800
橋 本 紘 二	雪国春耕	農山漁村文化協会	2/10	3,600
英 伸 三	「1,700 人の交響詩」	JCH フォトサロン	3/3	800
(故) 林 忠 彦	AMERICA1955	徳間書店	7/31	4,000
林 義 勝	観世清和と能を観よう（共著）	岩崎書店	3/20	3,000
林 義 勝	オヤジの背中	日本写真企画	12/	2,500
原 楨 春 夫	平林寺	エコー出版	11/25	2,000
樋 口 健 二	増補新版 毒ガスの島	こぶし書房	6/30	2,400

会 員 名	著 書 名	発 行 所	発行月	定価
馮 学 敏	新疆印象 (共著)	東京中国文化センター	11/20	-
深 澤 武	沖縄・八重山諸島	青菁社	12/	2,000
福 田 豊 文	しぜんにタッチ! もぐもぐ どうぶつえん (共著)	ひさかたチャイルド	8/	1,300
藤 井 一 広	千人武者行列 (共著)	下野新聞社	7/1	3,800
藤 森 武	日本刀-神が宿る武器- (共著)	日経 BP 社	6/30	1,667
古 川 誠	神々集う出雲の國 神在月	山陰中央新報社	4/21	1,800
古 澤 誠 一	横浜もよう	ハマンフォトグラフィ	8/30	2,000
松 原 豊	伊勢神宮とは何か (共著)	集英社	8/17	1,400
丸 田 あ つ し	亜細亜ノ夜景 (共著)	河出書房新社	4/30	2,500
水 越 武	真昼の星への旅	新潮社	3/30	30,000
水 野 克 比 古	重森三玲の庭園	光村推古書院	2/23	3,800
溝 縁 ひ ろ し	京都の花街-芸妓・舞妓の伝統美-	光村推古書院	6/22	2,800
宮 嶋 茂 樹	SCRAMBLE!	講談社	7/16	3,500
宮 野 正 喜	倉敷 ダニエル・オストの花と心 (共著)	JTB パブリッシング	7/1	6,500
持 田 昭 俊	しんかんせん いま・むかし	小峰書店	2/18	1,200
本 橋 成 一	炭鉱くヤマ>新版	海鳥社	2/1	3,200
本 橋 成 一	アラヤシキの住人たち	農山漁村文化協会	3/20	1,600
森 田 敏 隆	一度は見たい桜 (共著)	光村推古書院	3/23	1,800
森 田 敏 隆	絶景ふるさとの富士	光村推古書院	3/23	1,800
森 田 敏 隆	心も染まる紅葉 (共著)	光村推古書院	11/8	1,800
諸 河 久	モノクロームの私鉄	イカロス出版	12/20	2,000
矢 部 志 朗	北の国のシマリス	バイ インターナショナル	4/10	1,300
山 縣 勉	涅槃の谷	ZEN PHOTO GALLERY	11/8	2,700
山 岸 伸	瞬間の顔 Vol.7	山岸伸写真事務所	3/19	1,852
山 岸 伸	山岸伸のポートレート写真を志す人へ	朝日新聞出版	4/20	1,400
山 口 規 子	世界のともだち 31 イタリア パスタの島のジャンパオロ	偕成社	12/	1,800
山 崎 友 也	ドラマチック鉄道写真撮影術	洋泉社	9/17	2,000
山 本 皓 一	人を引きよせる天才 田中角栄 (共著)	笠倉出版社	7/1	900
由 木 毅	私の愛した宇宙人	ゆうな出版	9/1	900
横 塚 眞 己 人	太陽の花	フレーベル館	3/	1,400
吉 野 雄 輔	世界で一番美しい 海のいきもの図鑑	創元社	6/10	3,600
吉 野 雄 輔	ヤマケイカレンダー 2016「海の時間 Blue」	山と溪谷社	9/18	1,200
吉 村 和 敏	「イタリアの最も美しい村」全路破の旅	講談社	3/19	3,800
吉 村 和 敏	雪の色	フォトセレクトブックス	9/25	2,800
吉 村 和 敏	Moments on Earth モーメンツ オン アース	日本カメラ社	10/8	2,700
吉 村 和 敏	KANRANSHA × 観覧車	丸善出版	12/15	3,200
林 明 輝	[ドローン] 写真集 空飛ぶ写真機	平凡社	5/12	3,800
林 明 輝	自然首都 福島県只見町の四季	平凡社	9/9	3,400
若 林 の ぶ ゆ き	横浜つるみ区カレンダー 撮影 20 年の記録 1996 年～2015 年	バレード	9/16	1,500
和 久 六 蔵	茶毘の夏	蒼穹舎	5/10	4,000
和 田 剛 一	野鳥撮影のバイブル	玄光社	4/10	1,800
和 田 光 弘	アートロード駒街道	東奥日報社	10/2	1,600

写真展 (一門展・巡回展・常設展などの写真展は省略させていただきました)

会 員 名	写 真 展 名	会 期	会 場
青 山 昌 弘	北米大陸の息吹	10/30～11/5	富士フィルムフォトサロン名古屋
浅 尾 省 五	シロクマの世界	11/13～11/14	広島市・アクアホール
荒 谷 良 一	TOKYO CITY VIEW	6/11～6/17	キャノンギャラリー銀座、他
安 念 余 志 子	光のどけき	1/17～1/25	高岡市・ミューゼふくおかカメラ館 多目的ホール
池 田 進 一	東北の朝市	3/1～3/31	文京区・Caffe e bar U_U
市 原 基	三國連太郎 三回忌「貌」	4/9～4/15	キャノンギャラリー銀座
伊 藤 勝 敏	海中彩色劇場	7/20～11/1	北海道・千歳水族館
井 上 清 司	昭和 30 年代の百人 風貌	5/21～5/27	新宿区・ヒルトピアアートスクエア
井 村 淳	ALIVE2 ～Great Cats～	9/3～9/9	キャノンギャラリー銀座
岩 崎 和 雄	祇園閣	10/9～10/15	富士フィルムフォトサロン東京
岩 永 豊	有明海	4/1～7/31	佐賀市・かわそえ佐賀田園の郷ギャラリー
宇 納 敏	習作フォトレーション	9/2～9/7	町田市フォトサロン
江 口 慎 一	光の詩集 Brilliance	7/2～7/8	キャノンギャラリー銀座
榎 並 悦 子	明日へ。東北の息吹 東日本震災から・2011～2015-	2/24～3/22	長崎市・ナガサキピースミュージアム
江 成 常 夫	まぼろし国・満州と戦争孤児	7/27～8/21	Garely Hart、中国
江 成 常 夫	母国は遙かに遠く-戦争孤児と戦争花嫁-	7/30～8/4	相模原市民ギャラリー
榎 本 敏 雄	sakura	5/16～6/20	蘭・Galerie wouter van Leeuwen
老 川 良 一	WIND INSTRUMENTS II	6/9～6/27	名古屋市・ギャラリー Jardin
大 石 芳 野	戦争は終わっても終わらない	11/6～11/14	豊島区・立教大学池袋キャンパス
大 浦 タ ケ シ	蒼き刻-Ink Blue Serenity in Tokyo-	10/15～10/21	キャノンギャラリー銀座
大 島 洋	そして三閉伊	6/30～7/13	新宿ニコンサロン
大 島 洋	幸運の町・三閉伊	7/1～7/14	銀座ニコンサロン

会 員 名	写 真 展 名	会 期	会 場
大 塚 雅 貴	サハラ風 vent du Sahara	6/4 ~ 10	キヤノンギャラリー銀座
大 西 み つ ぐ	BORDER 放水路	7/26 ~ 9/13	新潟県・アジア写真映像館
大 西 み つ ぐ	東京交差するふたりの視点	10/1 ~ 12/25	大正大学「ESPACE KUU」
大 野 隆 志	沖縄時間「〜竹富島・種子取祭〜」	1/3 ~ 1/14	京急百貨店・ウィング上大岡
岡 本 央	写真家岡本央が見てきた中国	3/29 ~ 4/26	大崎市・吉野作造記念館 企画展示室
おちあいまちこ	今日もいいことありますように	3/2 ~ 3/9	銀座教文館ギャラリーステラ
おちあいまちこ	Living with Flowers	8/31 ~ 9/12	恵泉園芸センター
織 作 峰 子	SAKURA	5/8 ~ 6/8	長野県・軽井沢ニューアートミュージアム
KAORU(柴原薫)	柴原薫展 Vol.11	12/14 ~ 12/19	ギャラリーQ
加 藤 庸 二	島ー花綵列島	6/18 ~ 6/28	新宿区・ヒルトピアアートスクエア
金 井 杜 道	ー 1977 年にー	1/20 ~ 2/1	福岡市・ギャラリーおいし
金 井 杜 道	ウルムチ、トルファンにて 1979	3/30 ~ 4/4	中央区・ギャラリーミハラヤ
金 井 杜 道	十二神将 ぼーとれーと	9/1 ~ 9/6	京都市・ギャラリー H2O
亀 村 俊 二	「京」の「構図」其の三	9/28 ~ 10/4	京都市・ホームギャラリー horizon
川 本 武 司	サラブレッドの四季	5/1 ~ 5/30	橿原市・ミュージックカフェアンジェス
菊 池 東 太	日系アメリカ人強制収容所 WAR RELOCATION CENTER	11/18 ~ 12/1	銀座ニコサロン
菊 地 晴 夫	日本で最も美しい大地ー美瑛 丘のある風景	4/3 ~ 4/9	富士フィルムフォトサロン東京
菊 地 晴 夫	丘のある風景	6/19 ~ 6/24	富士フィルムフォトサロン札幌
木 原 浩	世界植物記 アフリカ・南アメリカ編	3/12 ~ 3/18	キヤノンギャラリー銀座
久 保 田 弘 信	戦禍の子どもたち	7/4 ~ 7/20	新潟県・刈羽村図書館
久 保 田 弘 信	世界の子どもたち	8/1 ~ 8/31	神奈川県・箱根湯本ホテル
熊 谷 正	Wayang Creation	5/19 ~ 7/30	中央区・EIZO ガレリア銀座
桑 原 史 成	派兵ー激動韓国 50 年	8/5 ~ 8/11	ソウル・朝鮮日報美術館
小 澤 太 一	ナウル日和	1/8 ~ 1/21	キヤノンギャラリー名古屋
小 澤 太 一	レソト日和	2/10 ~ 2/20	コニカミノルタプラザギャラリー C
小 林 紀 晴	ring wandering 悲しき迷走	1/22 ~ 1/28	大阪ニコサロン
小 平 尚 典	4/524 日航 123 便御巣鷹山墜落事故	8/10 ~ 8/12	港区・六本木スペース ビリオン
小 松 健 一	見果てぬ夢よ、風よ、雲よー探検家・矢島保治郎	4/8 ~ 7/20	リコーイメージングスクエア新宿 ギャラリー I & II
小 松 健 一	三國志巡禮ー 67,000km の旅	5/9 ~ 7/17	前橋市・ノイエス朝日
小 松 健 一	上州・東京・沖縄・チリ・ヒマラヤ	9/16 ~ 9/28	志本市・art space Leaf
児 矢 野 昌 敬	バリ・旅の記憶	10/9 ~ 10/15	ギャラリー・アートグラフ
小山 貴 和	台湾寸描	9/22 ~ 9/27	新宿区・ルーニィ・247 フォトグラフィー
近 藤 誠 宏	明日へ繋ぐ相生座	8/1 ~ 8/30	瑞浪市・中仙道ミュージアム、岐阜市
齋 藤 ジン	西方白虎	6/26 ~ 7/2	富士フォトギャラリー新宿、他
坂 田 栄 一 郎	STORMY WEATHER	10/2 ~ 11/15	中央区・AKIO NAGASAWA Gallery/Publishing
佐 々 木 元 彦	キューバの星	2/1 ~ 2/15	牛久市・アース 808 ギャラリー
佐 々 木 元 彦	キューバの星たち	7/19 ~ 8/9	いわき市・ギャラリー コールビット
世 本 恒 子	日本初の女性報道写真家 笹本恒子 100 歳展	6/13 ~ 8/30	高岡市・ミューゼふくおかカメラ館、品川区
世 本 恒 子	笹本恒子 101 歳展	11/14 ~ 12/13	金沢市・金沢 21 世紀美術館 市民ギャラリー A
佐 藤 昭 一	PASSAGEー時空の流路アート	3/30 ~ 4/10	渋谷区・フォトギャラリー・アルティザン TOKYO、他
佐 藤 尚	里の風景	1/16 ~ 1/22	富士フィルムフォトサロン名古屋
佐 藤 仁 重	X-NYーニューヨークー	7/31 ~ 8/20	富士フィルムスクエアギャラリー X
三 田 崇 博	暁 世界の夜明け	1/5 ~ 1/12	京都府・けいはんな記念公園水景園内ギャラリー月の庭、松山市、横浜市、佐世保市、札幌市
三 田 崇 博	生駒の火祭り	9/18 ~ 10/12	生駒市・生駒市駅前図書館
三 田 崇 博	アジアの遺産 II	11/20 ~ 11/23	京都府・けいはんな記念公園水景園内ギャラリー月の庭、大阪
渋谷 利 雄	能登の天花「能登」キリシマツツシ写真展	3/10 ~ 4/30	霧島市・霧島市庁舎シビックセンター、始良郡、曾於市
渋谷 利 雄	祭りの国・能登	9/14 ~ 10/3	輪島市・輪島市市民ギャラリー・いろは蔵
島 内 治 彦	道をゆくー近所の肖像写真ー	5/22 ~ 7/28	オリバスギャラリー大阪
島 田 聡	市場	9/30 ~ 10/10	EIZO ガレリア銀座
嶋 田 忠	凍る嘴	1/15 ~ 1/27	キヤノンギャラリー福岡
清 水 薫	春夏秋冬「鉄路の季節」	5/22 ~ 7/28	富士フィルムフォトサロン東京
下 瀬 信 雄	「結界」	1/15 ~ 1/21	ポートレートギャラリー
下 瀬 信 雄	第 34 回土門拳賞受賞作品展「結界」	5/6 ~ 5/19	銀座ニコサロン、酒田市
庄 司 博 彦	あっちにもこっちにも富士山	2/21 ~ 2/22	富士市・ふじさんめっせ 富士市産業交流展示場
庄 司 博 彦	劇的★奇跡の一本松があるまち★	7/10 ~ 7/16	フレームマン・ギンザ、サロン
庄 司 博 彦	山伏と歩く「海拔ゼロからの富士登山道」	10/10 ~ 10/12	東京タワー B1 タワーホール
白 川 義 員	永遠の日本	7/25 ~ 9/6	松山市・愛媛県美術館
白 鳥 真 太 郎	貌	1/5 ~ 2/1	J C I I フォトサロン
白 旗 史 朗	白旗史朗写真展	12/4 ~ 12/22	キヤノン S タワー 2F オープンギャラリー
菅 田 隆 雄	瞬輝幻彩 尾瀬 2	1/23 ~ 1/27	高崎シティギャラリー第 2 展示室、名古屋、松阪市
鈴木 高 宇	DamーLandscape of the Japanese mountainー	6/17 ~ 6/29	リコーイメージングスクエア新宿
鈴木 智 明	点描=知多半島	6/25 ~ 7/8	キヤノンギャラリー名古屋
鈴木 智 明	ときどき大須	12/21 ~ 12/28	名古屋市・フォトサロン サン・ルゥ
須 田 一 政	東京 1976-78	1/20 ~ 3/7	横浜市・PAST RAYS
須 田 一 政	釜ヶ崎	2/6 ~ 2/28	港区・ZEN FOTO GALLERY
須 田 一 政	筋脈	5/1 ~ 5/31	新宿区・Gallery Photo/synthesis
関 口 照 生	地球の笑顔	5/23 ~ 6/14	津市・三重県総合博物館 MieMu 3 階企画展示室
平 寿 夫	その瞳の先に有るもの IIーイエメンの肖像ー	4/21 ~ 7/26	京都市・ヤマモトギャラリー
平 寿 夫	稀少な砂漠の花とアラビアの民の国、イエメン	5/4 ~ 5/10	泉佐野市・りんくう公園総合休憩所

会 員 名	写 真 展 名	会 期	会 場
高 井 潔	日本の民家 茅葺きの家	1/13～2/6	千代田区・日本外国特派員協会内
高 井 潔	日本の民家 福島+茅葺きの家	4/10～4/20	福島市・福島テルサ4階ギャラリー
高 尾 啓 介	夢みる瞳「変わらない未来に続く笑顔達」	1/9～1/10	葛飾シンフォニーホールズギャラリーⅡ
高 城 芳 治	野島四季彩	10/2～10/8	富士フィルムフォトサロン大阪
高 橋 正 徳	ここに暮らすと決めました	12/10～/23	高知市・沢田マンションギャラリー room38
高 村 達	Botanical Garden ～植物園	5/9～/21	ホテル椿山荘東京 アートギャラリー
高 屋 力	「出雲」山陰路を駆けた日	4/25～5/31	福知山市・福知山市観光ギャラリー
竹 内 ト キ 子	富士山「雲と山麓の四季」	9/16～9/27	御殿場市・樹空の森
竹 内 敏 信	21 世紀富士	2/2～2/20	アートスペース丸の内、他
谷 沢 重 城	私記－大和	1/5～1/15	富士フィルムフォトサロン大阪
田 沼 武 能	輝く瞳の子どもたち	4/11～6/7	高岡市・ミュゼふくおかカメラ館
田 ノ 岡 哲 哉	華宇宙「浮遊卵Ⅱ」	11/10～11/15	港区・ギャラリー 2104
田 村 仁 志	生の鼓動	6/8～6/20	京都市・佛教大学四条センター
田 村 仁 志	琳派 400 年記念・田村仁志写真展「意匠のごとく」	12/7～12/24	京都市・佛教大学四条センター
垂 井 俊 憲	山上の聖地 高野山	4/17～/23	富士フィルムフォトサロン東京
塚 本 伸 剛	季の彩 光の色	8/11～8/28	名古屋市・PAPER VOICE VELLUM、他
土 田 ヒ ロ ミ	砂を数える	4/25～6/7	神戸市・Gallery TANTO TEMPO
テラウチマサト	RED FISH	12/11～, 16/1/7	エブソンイメージングギャラリーエブサイト
永 井 秀 幸	Ciao! ITALIA ～秋華	9/30～11/2	静岡市・池田の森ギャラリー
永 井 勝	Corolla - 花冠 -	4/13～4/28	フォトギャラリー アルティザン
永 井 勝	遺失物保管所・その他	10/30～11/19	エブソンイメージングギャラリーエブサイト
長 倉 洋 海	その先の世界へ	2/5～2/17	キャノンギャラリー仙台、武蔵野市、長野県、神奈川県
長 倉 洋 海	ぼくが出会った子どもたち	12/5～, 16/6/4	秋田県・ブルーホール
永 嶋 サ ト シ	Color Stream	7/15～7/25	EIZO ガレリア銀座
永 田 陽 一	福福星 Star of the Stars	6/26～7/9	中央区・Briht Photo Salon (日本写真学院内)、他
中 西 裕 人	STAVROS アトスの修道士	7/23～7/29	キャノンギャラリー銀座
奈良原 一 高	JAPANESE 禪	5/11～7/4	港区・フォト・ギャラリー・インターナショナル
奈良原 一 高	静止した時間	6/27～8/8	港区・タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー / フィルム
奈良原 一 高	「スペイン－偉大なる午後」	7/3～10/13	島根県立美術館
西 岡 千 春	近江・まほろば・抄	2/12～2/17	京都市・ギャラリー古都
西 本 政 明	カワセミ 青い鳥	6/5～6/10	富士フィルム大阪サービスステーション コミュニティギャラリー
二 村 海	無重力家族	4/28～5/3	京都市・ギャリエヤマシタ 2 号館 2F
根 本 タ ケ シ	能登 空と海と	10/23～10/28	オリンパスギャラリー東京
野 町 和 嘉	聖地巡礼	3/13～4/19	横浜市・あーすぶらざ
野 町 和 嘉	撮影師の朝聖	3/20～4/6	台湾・新光三越
野 町 和 嘉	Le vie dell anima	5/30～11/8	伊・Reggia di Monza
野 町 和 嘉	地平線の彼方から－人と大地のドキュメント	6/26～7/15	フジフィルムスクエア
ハービー・山口	Wetzlar	1/23～4/12	中央区・ライカギャラリー東京
ハービー・山口	子供たちは今日も歌っている	1/30～2/12	オリンパスギャラリー大阪
橋 本 紘 二	「雪国春耕」越後松之山 昭和 50 年代の山村の記録	4/16～/22	アイデムフォトギャラリー「シリウス」
橋 本 武 彦	星空 2015 ヨーロッパからの風	4/14～5/6	台東区・スタイケントーキョー
秦 達 夫	あらびるでな	2/19～3/4	キャノンギャラリー名古屋
英 伸 三	東京日曜日記	2/21～3/2	コニカミノルタブラザギャラリー C
英 伸 三	1,700 人の交響詩－横須賀市立池上中学の教育記録－	3/3～3/29	JCII フォトサロン
英 伸 三	文革の残影－中国 江南の古鎮を訪ね歩く－	9/23～10/6	銀座二コソサロン
ハナサ・リュウ(漢語)	身体作品	6/3～/16	銀座二コソサロン
浜 崎 さ わ こ	Rose	10/2～10/23	千代田区・快晴堂フォトサロン
原 田 寛	鎌倉 美の脇役	2/24～3/1	鎌倉市・鎌倉生涯学習センター 市民ギャラリー
原 田 寛	四季建長寺	10/31～11/9	鎌倉市・建長寺法堂
原 横 春 夫	天地の霊気	5/14～/19	富士フィルムフォトサロン仙台
原 横 春 夫	平林寺写真展	11/25～12/6	新座市・ほっとプラザ、他
広 河 隆 一	いのちをつたえる	5/14～5/31	世田谷区・キッド・アイラック・アート・ホール
広 瀬 慎 也	京都美山 芦生の森 樹奏森響	7/10～7/16	富士フィルムフォトサロン大阪、京都
福 田 健 太 郎	春恋し－桜巡る旅－	4/2～/30	中央区・ソニーイメージングギャラリー銀座
藤 村 大 介	Twilight Scapes	2/13～2/19	ギャラリー・アートグラフ
藤 森 武	みちのくの俳優	4/11～5/10	山形市・山形美術館、青森県、秋田県
ブルース・オズボン	ブルース・オズボンと親子写真～2015 年『親子の日』に出会った親子～	9/11～9/16	オリンパスギャラリー東京
細 江 英 公	「薔薇刑」一度ミシマを忘れるために	3/5～3/31	中央区・コミュニケーションギャラリー ぶげん社
本 田 祐 造	四万十の四季	7/1～9/30	高知県・大方あかつき館
前 川 真 行	GREAT APES 森にすむ人々	3/27～4/9	富士フィルムフォトサロン東京
増 田 彰 久	世界遺産 華僑の故郷・開平	7/24～7/30	富士フィルムフォトサロン東京 スペース 1
松 倉 広 治	Surf ～波音	9/2～9/12	EIZO ガレリア銀座
松 原 豊	年の始めに銭湯展 三重ノ銭湯写真展 2015	1/10～1/25	津市・ギャラリー Volvox
松 本 コ ウ シ	午前零時のスケッチ	3/26～4/1	大阪二コソサロン
松 本 徳 彦	芸能生活 60 年 水谷八重子の足跡	9/10～9/16	キャノンギャラリー銀座
三 澤 武 彦	もうひとつの結婚式	1/29～2/4	キャノンギャラリー銀座
水 越 武	天上のモノクローム	10/6～10/31	中央区・コミュニケーションギャラリー ぶげん社
水 谷 章 人	THE A L P S	1/6～1/14	ボートレートギャラリー
水 本 俊 也	鳥取砂丘新発見伝「小鳥の家族 in 鳥取砂丘」	2/6～2/11	鳥取市・中電ふれあいホール

会 員 名	写 真 展 名	会 期	会 場
水 本 俊 也	鳥取砂丘新発見伝×写真展 2015「小鳥の家族 in 鳥取砂丘」	12/25 ～ 12/27	鳥取市・中電ふれあいホール
溝 縁 ひ ろ し	祇をん・紗月…舞妓から芸妓へ…	4/9 ～ /21	京都市・ギャラリー・古都
溝 縁 ひ ろ し	鳥原いまむかし	4/17 ～ /19	京都市・輪違屋
湊 和 雄	沖縄いきもの紀行～山原から八重山～	7/24 ～ 7/30	富士フィルムフォトサロン東京 スペース 2
南 良 和	ある山村・農民	5/15 ～ 7/4	横浜市・PAST RAYS
南 良 和	日本・農民	11/20 ～ 12/26	横浜市・PAST RAYS
三 村 博 史	I am 舞踏派 Vol.3	11/3 ～ 11/8	京都市・gallery Main
宮 沢 あ き ら	和紙植物写真展「一紙一葉」vol.17	2/20 ～ 3/1	茨城県植物園
宮 沢 あ き ら	和紙植物写真展「一紙一葉」vol.18	10/31 ～ 11/8	茨城県植物園
宮 澤 正 明	伊勢神話への旅	1/21 ～ 2/7	代官山 葛屋書店 2 号館 1F ギャラリー
三 好 和 義	琉球・楽園へのあゆみ	4/8 ～ 4/21	銀座ニコンサロン
三 好 和 義	永遠の楽園 沖縄	5/14 ～ /20	大阪ニコンサロン
村 上 昭 浩	町内夏祭りの記録	1/5 ～ 1/20	ニコンプラザ仙台フォトギャラリー
村 上 昭 浩	馬搬-山で働く人と馬-	4/1 ～ 4/10	コニカミノルタプラザギャラリーA、帯広市
本 橋 成 一	炭鉱<ヤマ>	2/11 ～ 2/24	銀座ニコンサロン
森 永 純	森永純の世界	5/27 ～ 6/28	リコーイメージングスクエア銀座 ギャラリー A.W.P
諸 河 久	「モノクロームの国鉄」デジタルリマスターの世界	1/5 ～ 1/16	台東区・P H O T O G A L L E R Y U C
矢 島 公 雄	絶対水平	9/1 ～ 9/19	港区・ギャラリー EM 西麻布
山 岸 伸	瞬間の顔 Vol.7	3/19 ～ 4/1	オリンパスギャラリー東京
山 岸 伸	『世界文化遺産賀茂別雷神社～第四十二回式年遷宮までの道～』	5/22 ～ /27	オリンパスギャラリー東京
山 口 一 彦	室蘭の顔-風の人・土の人-	2/27 ～ 3/8	室蘭市・室蘭市民美術館
山 口 一 彦	室蘭 in 軽井沢	8/13 ～ 8/18	長野県・軽井沢観光会館 2F
山 口 規 子	Water Diamond	2/17 ～ 2/28	EIZO ガレリア銀座
山 下 恒 夫	続 島想い	9/8 ～ 9/17	コニカミノルタプラザギャラリー C
山 本 純 一	原始の大地-知床-	4/16 ～ /22	キャノンギャラリー銀座
由 木 毅	水の惑星	7/17 ～ 7/22	京都市・AMS 写真館 GALLERY
横 尾 英 樹	SUNSET PARK	2/11 ～ 2/23	リコーイメージングスクエア新宿 ギャラリー II
吉 住 志 穂	天使の輝き	4/3 ～ 4/8	富士フィルムフォトサロン札幌
吉 野 信	ネイチャー・ワールド	1/5 ～ 1/21	アイデムフォトギャラリー「シリウス」、他
吉 村 和 敏	「イタリアの最も美しい村」全踏破の旅	4/29 ～ 5/11	リコーイメージングスクエア新宿 ギャラリー I & II
吉 村 和 敏	-MOMENTS ON EARTH -	9/5 ～ 11/3	高岡市・ミューゼふくおかカメラ館
林 明 輝	空飛ぶ写真機	5/1 ～ /28	中央区・ソニーイメージングギャラリー銀座、山形、横浜、 鳥根県、広島市、他
林 明 輝	「自然首都」福島県只見町の四季	8/28 ～ 9/3	富士フィルムフォトサロン東京
渡 辺 英 明	雪の降る街	2/19 ～ 2/25	オリンパスギャラリー東京
渡 辺 英 明	俺様の風景さ	6/15 ～ 6/28	新宿区・ギャラリー蒼穹舎
渡 辺 英 明	GR II NY	10/26 ～ 11/14	中野区・tokinon 50/1.4
渡 部 さ と る	traverse	6/19 ～ 7/9	エプソンイメージングギャラリーエプサイト
物故展（常設展は省略させていただきます）			
(故) 天野 尚	創造の原点	9/5 ～ 10/12	新潟県・弥彦村総合コミュニティーセンター、弥彦の丘美術館
(故) 稲越功一	播磨屋 一九九二～二〇〇四 中村吉右衛門	11/3 ～ 11/29	JCII フォトサロン
(故) 菊池俊吉	平和の礎展 2015	6/25 ～ 7/2	調布市・郷土博物館
(故) 木之下 晃	マエストロ-世界の音楽家-	3/20 ～ 4/1	中央区・ソニーイメージングギャラリー銀座
(故) 佐藤 明	佐藤 明 Akira Sato	4/25 ～ 6/6	港区・Take Ninagawa
(故) 丹野 章	昭和曲馬団	9/12 ～ 9/19	港区・禅フォトギャラリー
(故) 丹野 章	世界のバレエ	10/14 ～ 10/26	志木市・art space Leaf
(故) 津田洋甫	写真家 津田洋甫の軌跡 写真展	10/23 ～ 11/5	オリンパスギャラリー大阪
(故) 土門 拳	路上	1/11 ～ 3/29	中野区・写大ギャラリー
(故) 土門 拳	古寺巡礼	10/24 ～ 12/6	新潟市・新潟市新津美術館
(故) 中村正也	NUDE WOMAN	3/31 ～ 4/26	JCII フォトサロン
(故) 花井 尊	報道の現場を駆け抜けた	6/12 ～ 6/18	ギャラリー・アートグラフ
(故) 林 忠彦	カストリ時代 1946-1956 & AMERICA1955	7/27 ～ 8/25	キャノンオープンギャラリー 1・2
(故) 綿引幸造	知床・富良野	4/28 ～ 11/3	富良野市・「季の色」館
グループ展（会員中心のものを掲載させていただきます）			
グループ展名		会員数	
第 35 回 JPS 関西メンバーズ展 ジャパン！		会員 100 人	1/16 ～ 1/22
JPS 関西メンバーズ・5 人展 ASIA		会員 5 名	1/23 ～ 1/29
第 36 回 2015JPS メンバーズ東海会員展		会員 20 名	2/3 ～ 2/15
森と海-すぐその小宇宙		今森光彦、中村征夫	2/20 ～ 3/11
「震災よ！」Ⅳ		花井尊（故）、柿木正人	3/6 ～ 3/12
第 10 回東海メンバーズ展「日常」		会員 24 名	6/30 ～ 7/5
JPS2015 年新入会員展「私の仕事」		会員 34 名	7/16 ～ 7/22
四季の丘		阿部俊一、菊地晴夫	8/1 ～ 9/30
JPS 有志による 関西六人展		会員 6 名	8/14 ～ 8/20
日本人の原風景		芳賀日出男、山口勝廣	9/18 ～ 10/26
新疆印象-馮学敏・佐藤憲一写真展		佐藤憲一、馮学敏	11/30 ～ 12/4
			富士フィルムフォトサロン大阪、京都市 オリンパスギャラリー大阪 名古屋市・セントラルギャラリー フジフィルムスクエア ギャラリー・アートグラフ 名古屋市・ノリタケの森ギャラリー アイデムフォトギャラリー「シリウス」、大阪市 美咲町・ピ・エール 富士フィルムフォトサロン大阪 キャノン S タワー 2F オープンギャラリー 1 港区・東京中国文化センター



井上 隆雄 正会員

平成 28 年 7 月 21 日、肺炎のため逝去。76 歳。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(昭和 54 年入会)

哲学の人 井上隆雄さんを偲ぶ

田沼武能

私が井上隆雄さんと親しくお話をするようになったのは、協会の JPS 展会場を京都で開催するようになってからである。彼の尽力により現在行われている会場のアイデア等を頂いた。その意味において彼は大変な功労者である。

一度、重い病にかかり、入院されていたことがあったが奇跡的に復活され仕事に戻られた。その後は慎重度が一気に増したように思う。しかし、ご自分の作品作りは旺盛で何冊も作品集を出されている。私は一度、東京で写真展を開かれてはと助めたことがある。彼は、写真集(彼は光画帖とか随想帖と称している)を作った自分の考えを残したので写真展は考えていないとの返事を頂いた。井上氏の考えを尊重し、その後はふれなかった。

私が京都で行うイベントには必ず出席され、人のお付合いを大切にされていた。昨年私は京都の地蔵盆の撮影に行った(協会員で副住職の岸野亮哉氏の寺)。幸い彼のアトリエが近所にあったこともあり、車椅子で撮影現場に来てくれた。撮影後、彼のアトリエに案内してくれた。自然に囲まれた瀟灑なアトリエであった。案内されたのはこの時が初めてで最後になってしまった。彼とは「水源の里」という写真コンテンツの審査を務めているが近年は鷺田清一氏にも加わって頂いている。京都の文化人が入ることにより、新しい視点が増え重みが増すからである。

その審査のこともあり、この四月にお手紙を頂いた。いつも和紙に毛筆でしたためた手紙がくる。珍しく個人的なことが書いてあった。「私は、いま、東北や他の「自然」の写真を整理しつつあります。何冊かの本にまとめて、私の自然観を表して、自然と人間との関係性を考えてみたいと思っています」とあった。彼は胸をふくらませ、その夢を叶えようと頑張っていたのだ。彼にとっても私にとっても叶えられなかったことは悲しいことだ。心から哀悼の言葉を申し上げます。台孝



本田 祐造 正会員

平成 28 年 7 月 26 日、逝去。78 歳。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(平成 14 年入会)

本田祐造さんを偲ぶ

総務委員会

高知県生まれ、中学 2 年より写真を始める。昭和 34 年日本音楽学校卒業後、小中学校の音楽教師、後に校長として、四万十各地域の学校で勤務した経歴の傍ら、主に「四万十川」の四季の変化と伝統漁法、地域の祭りや暮らしを撮り続け、定年退職を機に、本田写真事務所を開設した。

「水のきれいな川なら各地にある。しかし長いことこの川を見つめれば私を抱えこんでくれるような四万十川」と語っていた本田さん。終生四万十川を撮りつづけ、四万十川に寄り添った写真家であった。心からご冥福をお祈りいたします。

主な作品に『清流四万十川 四季物語』(日本写真企画)、『四万十川模様 日本最後の清流をゆく』(シンフォレスト)『四万十川燦爛 本田祐造写真集』(日本写真企画)。



渡辺 英明 正会員

平成 28 年 8 月 30 日、くも膜下出血のため逝去。52 歳。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(平成 26 年入会)

みんなのアイドル。渡辺英明に送る言葉。 ヤナガワ ゴーッ！

最初に、当代きっての人気写真家の追悼文を私ごときが書くことをお許し願いたい。我が偉大なる同期、渡辺英明を語るにつけ、はずせないお店がある。「中野写真機居酒屋 tokinon 50/14」だ。英明は、2005 年 10 月「青く、好きな街」写真展を皮切りに、遺作展となってしまった今回の「K-1 ASIA」(2016.8.22-9.10)まで、11 年間でなんと 21 回も同店にて個展を開いた。大学時代はお互いそんなに交流はなかったのだが、2011 年 12 月 27 日、この tokinon で運命の再会をして以来、どうやら酒に飲まれていく放物線のカーブが同じだったらしく、度々、朽ち果てるまで飲み明かすようになった。tokinon で会うことが多かった気がするが、毎回、英明の写真展の期間中はいつも満席だった(かつサンドが絶品のお店です)。

そんなある日、改まった口調で「ヤナガワにお願いがある」と。聞くと長く勤めていた新聞社をやめてフリーランスになるにあたり、JPS 入会の推薦文を書いてほしいということだった。細かいことは忘れたが、ゴールデン街の「こじじ」で一杯やりながら本人の前でビシッと書いたつもりだ。もともと、翌日、悪い、ヤナガワ！あれ下書き用の用紙だったよ……と泣きつかれ、ずっけたことは一生、酒の席で言ってやろうと思っていたのに……。そんな話まだたくさんあるのにここでは全然書きたくない。とにかく写真を撮ることの大好きな男だった。作品は街を切り取る目線が年々スルドクになっていくのがわかった。JPS の仕事もがんばっていた。これからもっと楽しい事待っていたのに…。

「こんなにも人を好きになることがあるとわかった」と奥様に言わしめたセカイイチシアワセデパチアタリな写真家。 英明 またな！

経過報告 (2015年8月～2016年5月)

◎ 8 月 31 日 2015 年第 11 回名取洋之助写真賞作品選考会

PM1:30～5:40 JCH 会議室 15 名

○選考・飯沢耕太郎、広河隆一、田沼武能、応募者・16 名 16 点、名取洋之助写真賞・鳥飼祥恵「amputee boy -けんちゃん-」、奨励賞・増田貴大「終わりの気配」

◎ 9 月 7 日 賛助会員との懇談会

PM5:30～7:30 JCH 会議室 賛助会員 27 社 43 名、JPS28 名

◎ 9 月 16 日 2015 年第 11 回名取洋之助写真賞記者発表

PM1:00～1:20 JCH 会議室 カメラ記者クラブ 10 社 12 名

◎ 10 月 3 日 平成 27 年度第 2 回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」

AM9:30～17:00 静岡県・静岡学園高等学校 教師参加者 22 名

◎ 10 月 7 日 日本写真保存センター第 2 回諮問調査委員会

PM1:00～3:00 JCH 会議室 17 名

◎ 10 月 7 日 日本写真保存センター第 2 回支援組織会議

PM3:30～5:00 JCH 会議室 支援組織委員 9 社 14 名、JPS 8 名

◎ 10 月 23 日 三団体懇談会

PM6:00～8:00 公益社団法人日本広告写真家協会

◎ 10 月 27 日 第 1 回著作権研究会

PM1:30～5:00 JCH 会議室 参加者 70 名

○学ぼう！「動画」の著作権の正しい知識

◎ 11 月 7 日 第 9 回 JPS フォトフォーラム

AM10:00～15:50 有楽町朝日ホール 参加者 451 名

○「地球を語る！」パネリスト・清水哲朗、高砂淳二、前川貴行

◎ 11 月 9 日 第 2 回国際交流セミナー

PM5:30～7:30 JCH 会議室 参加者 40 名

○ドライ・ラマ法王取材記

◎ 12 月 9 日 第 41 回日本写真家協会賞贈呈式

PM5:00～5:15 アルカディア市ヶ谷

○受賞者・株式会社堀内カラ

◎ 12 月 9 日 第 11 回名取洋之助写真賞授賞式

PM5:15～5:30 アルカディア市ヶ谷

○受賞者・鳥飼祥恵、増田貴大(奨励賞)

◎ 12 月 9 日 平成 27 年度会員相互祝賀会

PM6:00 ~ 7:30 アルカディア市ヶ谷 参加者 322 名

◎12月21日 出版広報座談会

PM1:00 ~ 3:00 JCII 会議室 7 名

◎12月22日 日本写真保存センター第3回諮問調査委員会

AM10:00 ~ 12:00 JCII 会議室 19 名

◎1月22日 2016年第1回関西在住新年親睦会

PM7:00 ~ 9:00 大阪第一ホテル 参加者 69 名

◎1月29日 ~ 2月4日 2015年第11回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(東京展)

富士フィルムフォトサロン東京 入場者 9,651 名

◎1月29日 ~ 2月18日 インクジェットの本流 ~ JPS 会員によるプリント競演展 ~

エプソンイメージングギャラリーエブサイト 入場者 3,102 名

◎2月3日 page2016 オープン・イベント・JPS セミナー

PM1:30 ~ 4:30 池袋サンシャイン文化会館 参加者 90 名

◎写真原板のデジタルアーカイブの現在

◎2月14日 第2回技術研究会

PM1:00 ~ 4:00 JCII 会議室 参加者 62 名

◎超高画素機の研究 ~ 第1回キヤノン編 ~ キヤノン EOS 5Ds と EOS 5Ds R の解像力と特徴について

◎2月18日 第2回著作権研究会(関西)

PM1:30 ~ 5:00 大阪市立総合生涯学習センター第2研究室 参加者 44 名

◎学ばう!「動画」の著作権の正しい知識

◎2月19日 ~ 25日 2015年第11回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(大阪展)

富士フィルムフォトサロン大阪 入場者 3,130 名

◎2月22日 三団体懇談会

PM6:00 ~ 8:00 一般社団法人日本写真文化協会

◎2月23日 新入会員入会資格審査会

PM1:30 ~ 4:00 JPS 会議室 7 名

◎2月24日 第1回著作権研修会

PM1:30 ~ 3:30 JCII 会議室 参加者 15 名

◎「創造のサイクル」を確かなものに

◎2月25日 ~ 28日 CP*2016 イベント・特別展示

みなとみらいギャラリー 入場者 5,120 名

◎「ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾 被爆から 70 年」・「小学生がとらえた - わたしが見つけた世界」展・「日本写真保存センターの活動」

◎2月27日 CP*2016 イベント・講演会

PM1:30 ~ 3:30 パシフィコ横浜・会議センター 301 ~ 302 参加者 354 名

◎肖像権 こんなときどうする

◎3月1日 ~ 13日 日本写真家協会創立 65 周年記念事業「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」東京展

東京芸術劇場 5 F ギャラリー 1・2 入場者 4,252 名

◎3月2日 ~ 6日 2015年第11回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(福島展) 福島市民ギャラリー 入場者 90 名

◎3月7日 第35回公益社団法人日本写真家協会理事会

PM2:00 ~ 4:00 JCII 会議室 17 名、欠席 3 名、監事 3 名

◎第1号議案:平成28年度事業計画案の件 第2号議案:平成28年度収支予算案の件 第3号議案:資金調達及び設備投資の見込みの件 第4号議案:平成28年度新入会員承認の件 第5号議案:「公益社団法人日本写真家協会細則」一部変更案の件、他

◎3月17日 第3回技術研究会

PM2:00 ~ 4:00 JCII 会議室 参加者 72 名

◎デジタル時代の三脚と一脚選び ~ スリック、ベルボン、マンフロット・各メーカーに聞く ~

◎3月24日 第3回国際交流セミナー

PM6:00 ~ 7:30 JCII 会議室 参加者 26 名

◎巡礼の不思議「四国遍路」&「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」

◎4月4日 平成28年度新入会員説明会

PM1:00 ~ 5:00 JCII 会議室 新入会員 52 名、役員 12 名、委員 13 名、賛助会員 19 社 26 名

◎4月22日 日本写真保存センター第1回諮問調査委員会

PM3:00 ~ 5:00 JCII 会議室 19 名

◎4月25日 第36回公益社団法人日本写真家協会理事会

PM2:00 ~ 4:00 JCII 会議室 18 名、欠席 2 名、監事 3 名

◎第1号議案:平成27年度事業報告書承認の件 第2号議案:平成27年度収支決算報告書承認の件 第3号議案:第42回「日本写真家協会賞」承認の件 第4号議案:平成27年度会費滞納による正会員資格の喪失の件 第5号議案:第17回定時会員総会開催承認の件、その他:笹本恒子名誉会員からの要望について、他

◎4月26日 日本写真保存センター第1回支援組織会議

AM10:30 ~ 12:00 JCII 会議室 支援組織会員 9 社 9 名、JPS 8 名

◎5月7日 第1回国際交流セミナー

PM1:30 ~ 4:00 日比谷図書文化館コンベンションホール 参加者 124 名

◎写真と音楽で伝えたいこと 安田津津紀×タテタカコ

編集後記

◎今号の編集作業中、連日、豊洲の新市場の土壌汚染問題がTV、新聞で大きく取り扱われ、都政はどうなっているのか?と心配していたら、今度は今号でも採り上げているオリンピック問題が急浮上……。いっそのこと、豊洲新市場への移転も東京オリンピックも両方ともやめてしまえばいいのに……と考える今日この頃です。(加藤)

◎リオ大会では多くの日本選手が活躍し、その熱い戦いをやはり、日本人写真家たちが記録した。今回のオリンピックから4K動画から切り出した写真が使われる様になり、写真家が活躍する機会は減るのではないかと、勝手に想像していた。座談会参加者が言われた「一瞬を見つめ出す力が大切になる」という言葉に少し安心した。(飯塚)

◎今年1月29日から2月18日まで、エプソン販売様との共同企画としてインクジェットプリント写真展を西新宿のエブサイトギャラリーにて開催しましたが、同社のご厚意により、2017年4月に第2回を開催する運びとなりました。本会報にも応募要綱を同封いたしましたので、皆様のご応募をお待ちしております。(関)

◎これまで読んだあらゆる編集後記の中でもっとも印象的だったのは、若き日の開高健が雑誌「洋酒天国」の何号かに誌したもので、ただ1行「暑いです」と、それだけのものだし

た。けれどもその4文字の向こうにクーラーなどない真夏の編集室の情景が見え、味わいのある文学となっていたのです。もっともこの味わいは、氏のその後の業績があればこそなのかもしれません。さて、わが後記をどうする?道は遠いようです。(池口)

◎今年の夏は台風が続き、停滞する前線の影響もあり、晴天の日があまりにも少なかった。青空を望まず、出直し出来ないところでは我慢していただいた物件も多かった。鉛色の空の日は続く冬の日本海側で、春の到来と陽射しが待ち遠しい~と言った心境です。(小野)

◎先日、インターネットのオークションサイトを覗いていると、ジナーSやリノフテヒニカなど20年前は、高嶺の花だったあのカメラの機材が驚くほど安価な金額で出展されていた。思わず入札しそうな気持ちを押さえて周りを見渡すと、部屋の隅には最後にいつ開いたか、記憶が定かでない往年のカメラケースがいくつも並んでいた。(小池)

◎こここのところ1964年東京オリンピックの写真を見る機会が多く、大半の写真はモノクロのため想像力を働かせて見ているのですが、10月21日に行われたマラソンは、すでに晩秋だったのですね。4年後どんな景色が見られるのか、今から楽しみです。(小城)

◎VR元年と言われていた今年のフォトキナは、アクション

ンカメラあり、ドローンあり、そして各社の開発発表で賑わいを見せたものの会場は縮小傾向。アジア系の来場者やメディアが少なかったのも印象に残っている。2年後はどのようなのかな。(柴田)

◎この夏、3人の50代のフォトグラファーの計報を受け取りました。働き盛りから、円熟期を向かえようとしている年代なのに、本当に惜しいと思います。体が資本の我々の仕事、健康には注意してもしすぎる事はありません。皆さん、健康診断受けていますか?かくいう私も、しばらく健康診断を受けていません。3人の方々の死を無駄にしないように、健康診断受けなければと思うこの頃です。(伏見)

◎フォトキナで話題のカメラは、ほとんどがミラーレスタイプ。フィルムからデジタルへの移行時には、ベテランほど毛嫌いのデジタルだが、もうそんなことを誰も言わなくなった。次は一眼レフからミラーレスか。みなさん、準備は大丈夫!? (桃井)

◎新しい写真集を作っています。出版社、編集、デザイナーなど信頼できるメンバーとともに作業を進めました。ダメ本や東見本を幾度も作り、試行錯誤を繰り返します。思わぬ問題が発生してあたふたするシーンもありますが、チームで一つの形を作り上げていく醍醐味はやはり何ものにも代え難いです。分野の異なるプロが集うことでモノづくりが臨界点を越える驚きと喜びを味わっています。(山縣)

日本写真家協会会報 第163号 (年3回発行) 2016年10月20日 印刷・発行 ©編集・発行人 熊切圭介

URL <http://www.jps.gr.jp/> Email info@jps.gr.jp 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます

頒価 1カ年・3回 3,500円(消費税・送料共込)

出版広報委員 加藤雅昭(理事)、飯塚明夫(委員長)、関 行宏(副委員長)、池口英司、小野吉彦、小池良幸、小城崇史、柴田 誠、伏見行介、桃井一、山縣 勉

発行所 公益社団法人日本写真家協会 (JPS)

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCII ビル303 電話 03 (3265) 7451 (代表) FAX 03 (3265) 7460

印刷所 株式会社光邦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3丁目11番18号 飯田橋 MK ビル 電話 03 (3265) 0611 (代表)

Topics

Photo Exhibition "Japan's coastline and its people" was held in Tonga.

From September 9, to September 22, 2016, in Nuku'alofa city, Kingdom of Tonga, the Photo Exhibition "Japan's coastline and its people" was held. 97 pictures were selected from the original photo exhibition, which was held in 2016 as the JPS founding 65th anniversary.

With the cooperation of Embassy of Japan in the Kingdom of Tonga and Tourism Tonga, The Japan Foundation and Japan Professional Photographers Society (JPS) hosted the photo exhibition. The venue was the Visitor's Information Centre's lawn. As the seaside was near and there were no roofs, the pictures were displayed by waterproof laminations. The opening ceremony was great success with the spurious attendants, such as the Prince and Princesses of the Kingdom of Tonga, government leaders, the ambassador of Embassy of Japan in the Kingdom of Tonga media people in Tonga. There are over 800 visitors in two weeks for the photo exhibition. From questionnaire & survey, we knew that through the photo exhibition Tonga people learned familiarity to Japan, because both countries are islands, and they felt cultures, festivals, and marine products of Japan were impressive. They felt better understanding of Japan.



Photo Exhibition "Watanabe Yoshio's Eye, Ise Jingu", "Italy" and "Moscow" by Watanabe Yoshio were held.

Watanabe Yoshio (1907-2000) was an honorary chairman of JPS. The department of Photo Archive, JPS will hold his photo exhibitions in Tokyo and Osaka. The bereaved family of Watanabe donated 30,000 original films and 5,000 pictures to the Photo Archive. The famous pictures of "Ise Jingu" (Ise Jingu Shrine) and "Sin-kyuden" were included. "Ise Jingu" was photographed in 1953. "Italy" and "Moscow" were photographed in 1956 and re-printed for black and white prints. "Ise Jingu" was photographed just before the Shikinen Sengu (transfer of a deity to a new shrine building once in a prescribed number of years) and it was the first time in Japan to allow to be photographed from the Mikakiuchi (the inside of worship place). Photographs of "Italy" and "Moscow" show the cultures and daily lives of Europeans after the World War II. The pictures give us the impressions of the difference from that of Japanese and give a feeling of the hardness to be live.

Photo Exhibition

Tokyo venue: from October 27, to November 9, 2016, Portales Gallery at Yotsuya.

Osaka venue: from November 24 to 30, Nikon Salon at Umeda.

International Affairs Committee
Executive Director, Naoki Wada

About the Japan Professional Photographers Society

The Japan Professional Photographers Society was established in 1950. Through its activities it strives to define the role of the professional photographer and secure copyright protection while working to develop photographic culture. In 2001 it received recognition as an Incorporated Body from the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, in March 2011 it was officially recognized as being a Public Interest Incorporated Association by the Prime Minister's office, and since April 1 of that year it has been active under the title, Japan Professional Photographers Society, Public Interest Incorporated Association.

Since its foundation, the society has succeeded in receiving an extension for the period of copyright protection (to 50 years after the death of the artist), held numerous exhibitions concerning photographic history and expression (A Century of Japanese Photography, History of Japanese Contemporary Photography, Sixty Years of Japanese Children, Women, etc.), and published numerous books on photographic history and collections of photographs. In order to contribute to the promotion and development of photographic culture, it holds the JPS Exhibition as an open exhibition, presents a nationwide Photography Study Pro-

gram for elementary school students, the Photo Forum that aims to develop photographic expression, Digital Photography Lectures for the advisors of high school photographic clubs, and presents the Yonosuke Natori Photographic Award to uncover and foster new talent. At the same time, it carries out a wide range of activities to contribute the development of photographic culture, such as: cultural exchange with overseas photographers, PR through publishing and information dissemination via the Internet.

Furthermore, it presents the Japan Professional Photographers Society Award in recognition of individuals or organizations who have achieved notable achievements in the development of photographic technology, education, or critique.

The Japan Professional Photographers Society has devoted itself to the establishment of photographic museums, such as the Tokyo Metropolitan Museum of Photography, and is currently actively working towards the creation of the 'Japan Photographic Preservation Center' (archive) for the collection and preservation of original photographs.

Japan Professional Photographers Society

JCII Bldg. #303, Ichibancho 25, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082

Tel: +81-3-3265-7451 Fax: +81-3-3265-7460

E-mail: info@jps.gr.jp Web site: <http://jps.gr.jp/int/index-e.html>

HCLネットサービス



HORIUCHI COLOR
FINE ART PRINT
SERVICE

インクジェット・プリントを極める ファインアート・プリントサービス

作品イメージを極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数の8種類のアーティスト用紙でご提供します。それぞれの個性と美しさをお楽しみください。

漆喰の特性をインクジェットに生かす
《フレスコジクレ》 ●タイプR(ラフ)

繊細さと優雅さが特長の
《ハーネミュレ・ファインアート》
●ファインアート・パライト/フォトラグ

シャープネス、画像再現性に優れた
《イルフォード・ファインアート》
●ゴールドファイバースilk/ゴールドコットンスムース

インクの重なりが表情豊かに仕上げる
《ヴァンヌーボ》
●ファインアート・ヴァンヌーボSW

柔らかで優しい印象に仕上げる
《伊勢和紙 Photo》 ●雪色/芭蕉

デジタル銀塩プリントを極める ネットd@ザ・プリント

銀塩の表現力を最大限に活かしたラムダプリントで、作品表現に最適な組み合わせが選べ、ドライマウント・マットパネル・アルミフレームのパネル加工も同時に注文できます。

プリント
●ペーパー：コダックプロ、メタリックの2タイプ
●サイズ：六ツ切～B1までの19タイプ
●フチ取り：白フチ、黒フチ、フチなしの3タイプ

パネル加工
●高級アルミフレーム（額縁/シルバー、ブラック）
●マットパネル（オフホワイト、ブラック）
●ドライマウント

銀塩フォトブックを極める ネットd@ザ・フォトアルバム

多彩な編集機能と仕様でさまざまな用途に合わせ、表紙はハードとソフト、本文は高級銀塩写真とオンデマンド高精細印刷の各2タイプでオリジナリティ溢れる作品集ができます。

〈PRO〉シリーズ
●高級写真タイプ：銀塩光沢印画紙+液ラミ
●サイズ/ページ：160SQ、A5、197SQ、A4、10～50p
●カバー：ソフト（ブックケース付）
ハード（くみ表紙）

〈ENJOY〉シリーズ
●高級精細印刷タイプ：表紙/マットPP加工
●サイズ/ページ：200SQ、A4、20～50p
●カバー：ソフト（並製本）、ハード（上製本）

個展・グループ展などの開催を受付けています。



HCL フォトギャラリー新宿御苑

東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎03-3226-9602
●平日=10:00～19:00 ●土曜=10:00～17:00
●最終日=10:00～15:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始
●地下鉄丸の内線「新宿御苑前駅」新宿門口より徒歩1分



HCL フォトギャラリー名古屋

名古屋市中区錦 1-11-20 大永ビルディング 2F ☎052-211-6151
●平日=9:00～18:00 ●土曜=9:00～17:00
●最終日=9:00～13:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始
●地下鉄鶴舞線・東山線「伏見駅」10番出口より徒歩1分

株式会社 堀内カラー

フォトイメージングセンター（フォトアート課）
東京都杉並区和田 1-6-7 ☎(03) 3383-3358

フォトイメージングセンター（旧新宿事業所）
東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎(03) 3226-9581

青山サービスセンター
東京都渋谷区神宮前 3-41-6 ☎(03) 3479-5351

神田サービスセンター
東京都千代田区神田小川町 2-6-14 ☎(03) 3295-2191

東京サービスセンター
東京都杉並区和田 1-6-7 ☎(03) 3383-3321

名古屋サービスセンター
名古屋市中区錦 1-11-20 ☎(052) 211-6151

関西営業課
大阪府北区万歳町 3-17 ☎(06) 6313-2351

サービスの詳細やご注文はホームページから…www.horiuchi-color.co.jp



19世紀に誕生した銀塩写真は、芸術、報道など様々な分野で歴史を写し続けてきました。デジタルが中心の時代になっても、フィルムが描く独特な表現はその輝きを失いません。そして、富士フィルムが総合感材メーカーとしてフィルム開発のなかで培ってきた、独自の技術とアイデアによる高画質へのこだわりは、最新のデジタルカメラ「Xシリーズ」にも綿々と受け継がれています。伝統のフィルムと最先端のデジタル、その表現手法は違っても、製品の開発、製造にかける富士フィルムの情熱は同じです。



フィルムも、デジタルも、富士フィルム。

かけがえない写真文化を伝えたい。
富士フィルムのプロフェッショナル写真製品

FUJIFILM
Professional
PhotoProducts

Canon

make it possible with canon

Another 5.



約5060万画素、もうひとつの5D登場。

EOS 5Ds

約5060万画素フルサイズCMOSセンサーを
搭載した、もうひとつの5D。

EOS 5Ds R

5Dsの解像性能を最大限に引き出す
ローパスフィルター効果キャンセルモデル。

●新開発 有効画素約5060万画素フルサイズCMOSセンサー ●映像エンジン「デュアル DIGIC 6」 ●常用ISO
感度100~6400 拡張:12800 ●最高約5コマ/秒の連写性能 ●61点高密度レティクルAF ●顔や色を検知して
被写体を追尾する「EOS iTR AF」 ●高画素による繊細な質感を表現する新ピクチャースタイル「ディテール重視」と
新シャープネス項目「細かさ」「しきい値」 ●モーターとカムギアでミラーの駆動と速度制御を行いカメラブレを軽減
する「ミラー振動制御システム」 ●徹底的なブレ対策のために強化した高剛性三脚座 ●ミラーアップとシャッター
ボタン押しに伴うカメラブレを解消する新機能 レリーズタイミング任意設定 ●EOS初、約1.3/1.6倍クロップ撮影機能



EOS 5Ds / EOS 5Ds R
は欧州で権威のある
写真・映像関連の賞
「EISAアワード 2015-
2016」を受賞しました。



IOC・JPC/東京2020オリンピック
(スチルカメラ)



EOSは2015年11月10日に累計
生産台数8,000万台、EFレンズは
2015年6月22日に累計生産本数
1億1,000万本を達成しました。



©キャノンEOS ホームページ
canon.jp/eos

キャノンマーケティングジャパン株式会社

焦点距離:552mm 露出:F/6.3 1/2000秒 ISO200

SP150-600mm G2

もっと遠くへ。そして、より近くへ。

感動を逃さない、さらに進化した次世代超望遠ズーム。



SP 150-600mm F/5-6.3 Di VC USD G2 (Model A022)

キヤノン用、ニコン用、ソニー用*

Di:35mm 判フルサイズおよび APS-C サイズ相当デジタル一眼レフカメラ用レンズ

* ソニー用は、手ブレ補正機構「VC」を搭載していません。

TAMRON

www.tamron.co.jp



At the heart of the image

未知なる光を、捕捉せよ。

未踏の領域を切り拓く、動体捕捉力。ペールを脱いだ、高感度性能。

153点AFシステム、進化した連続撮影性能、最高常用感度ISO 102400、4K動画機能…

すべての刷新は、かつてない光を捉える為に。世界はついに、新たな世界を手に入れた。



D5

NEW 価格：オープンプライス

☐ 99点のクロスセンサーを含む広域・高密度の153点AFシステム ☐ AF/AE追従で約12コマ/秒、14ビット記録ロスレス圧縮RAWでも最大200コマ*まで可能な高速連続撮影 ☐ ニコン史上最高の常用感度ISO 102400(Hi 5:ISO 3280000相当まで増感可能)
☐ 自社新開発のニコンFXフォーマットCMOSセンサー ☐ 新画像処理エンジンEXPEED 5 ☐ 4K UHD動画対応 ☐ タッチパネル採用の3.2型 約236万ドット高解像度モニター ※Lexus Professional 2933x XQD 2.0のメモリーカードを使用した場合。 ●記録媒体は別売りです。



ニコンカスタマーサポートセンター
0570-02-8000

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30~18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日) ●ナビダイヤルがご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。 ●ファクシミリでの相談は、(03) 5977-7499へご送信ください。

www.nikon-image.com

株式会社 ニコン・株式会社 ニコン イメージング ジャパン



インクジェットプリンターが拓く デジタル時代の作品づくり

写真画質のカラーインクジェットプリンターの誕生から 20 年が経ち、今では多くの写真家が作品づくりに活用しています。今回は、インクジェットプリントの可能性に早くから着目し、デジタルワークフローの第一人者となっている写真家・根本タケシ氏にお話を伺いました。

◆写真品質のインクジェットの誕生から 20 年

エプソンが初の 6 色インクシステム(染料)を採用したカラーインクジェットプリンター「PM-700C」を発売してから、2016 年でちょうど 20 年を迎えます。それまでのカラーインクジェットプリンターでは実現できなかった PM-700C の精緻で美しい画質は、当時の話題をさらいました。

2002 年には「PM-4000PX」を発売。最大 A3 ノビまでの対応、耐光性に優れた顔料インクの搭載、フォトブラックインクまたはマットブラックインクとグレーインクとの組み合わせによるモノクロプリントの表現性の向上などの特徴により、多くのプロ写真家からも歓迎されました。この頃から、デジタルカメラの高性能化も背景に、インクジェットプリンターは作品制作にも本格的に使われるようになっていきます。

エプソンの現在の最新機種が「SC-PX3V」(A2 ノビ対応)と「SC-PX5V II」(A3 ノビ対応)。「PM-700C」以来 20 年間にわたる技術開発の成果が詰まった製品で、特徴のひとつである「Epson UltraChrome K3 インク」は、光沢紙用のフォトブラックインクは色材を 1.5 倍に増やして黒濃度を向上させ、一方のマット紙用のマットブラックインクは用紙表面に色材がとどまるように工夫して同じく黒濃度を向上させるなど、表現力を高める改良が加えられています。

◆写真家の表現力を広げるインクジェット

カラーインクジェットプリンターの可能性に早くから着目し、作品制作に積極的に取り入れてきた写真家の一人が根本タケシ氏です。氏は海外用紙メーカーの

グローバルアンバサダーにも選ばれるなど、インクジェットプリンターを使ったデジタルワークフローの第一人者として高い評価を得ています。

根本氏は、インクジェットプリントの登場によって、写真家は自分の意図を作品により反映しやすくなったと説明します。「銀塩の時代は、エマルジョン、フィルム現像、プリントなど、それぞれが化学プロセスに依存するブラックボックスが存在していました。しかし写真がデジタルに変わったことで、撮影に始まり用紙選択を含むプリントに至るまで、ワークフローを構成するさまざまな過程に写真家が関与できるようになりました」。

ただし根本氏は、デジタルの時代は、写真家は作品制作に関してより大きな責任を負うべきとも指摘します。「プロとして作品を作る以上は、プリントにもプロとしての質が求められます。プリンタドライバーを徹底的にテストしてクセを掴むことも重要ですし、長期に亘って作品に劣化が起きないように中性の用紙を選



SC-PX3V

- 印刷方式 / 最高解像度: MACH 方式 / 2880dpi × 1440dpi
- インターフェイス (ネットワーク含める): Hi-Speed USB × 1 (PC 接続用 × 1 (背面))、10BASE-T/100BASE-TX、IEEE802.11b/g/n
- インク: 顔料タイプ各色独立インクカートリッジ(フォトブラックまたはマットブラック、シアン、ビビッドマゼンタ、イエロー、ライトシアン、ビビッドライトマゼンタ、グレー、ライトグレー)
- 対応用紙サイズ: L 判 / KG/2L 判 / ハイビジョン / 六切 / 四切 / A6 縦 ~ A2 ノビ縦 (17 インチ) / ファインアート紙・厚紙 (フロント手差し) 用紙厚 1.5mm、専用ロール紙 (A3 ノビ (329mm) ~ A2 ノビ (431.8mm) (17 インチ) 幅)
- 外形寸法 (幅 × 奥行 × 高さ) 収納時: 684 × 376 × 250 (mm)
- 質量: 約 19.5kg

沢するのも写真家の責任です。デジタルの世界を生きていくのは本当に大変ですが、寝る時間を削ってでもやるしかないのです。

なお根本氏は、用紙とインクのペーパー（中性度）をご自身で調べたり、事務所の天井灯にはすべて色評価用蛍光灯を使うなど、作品の質を高めるために徹底した追及を行っています。

◆新開発インクでシャドウの描写が向上

インクジェットプリントに関して厳しい目を持つ根本氏が、現時点でのベストなプリンターとして挙げるのが、エプソンの「SC-PX3V」と「SC-PX5V II」です。これまで歴代のエプソンのカラーインクジェットプリンターを使ってきた中で、とくにA2ノビに対応した「SC-PX3V」は、現在の作品制作に欠かせない存在になっていると述べています。

「作品は基本的にマット紙で制作するためマットブラックインクを使いますが、SC-PX3Vはインクの改良によって従来モデルに比べて黒の締まりや表現が格段に向上していますし、モノクロ作品をプリントしたときのグレーバランスもきわめて良好です」。また、SC-PX3Vに限らず、エプソンのプリンタードライバーはコントロールがしやすいとも述べています。

根本氏はインクジェットで出力した作品の販売も行っていて、一部は海外のコレクターの手にも渡っているそうです。

「作品作りに関してもまだに銀塩プリントにこだわっている写真家がいることも承知しています。ですがインクジェットプリンターの進化によって、写真家が努力さえすれば意図したとおりの作品を高品質に制作することが可能になりました。写真家の収入の幅を広げる意味でも、優れた作品を制作して販売するような活動がもっと盛んになるべきで、今こそ多くの皆さんがインクジェットプリンターを活用すべきだと思います」と根本氏は提案します。



「SC-PX3V」でプリントされた根本氏のモノクロ作品



根本タケシ：写真家。早稲田大学中退、東京写真専門学校（現・ビジュアルアーツ）卒業後、広告写真家として活躍。商品撮影の傍ら、自身の作品を制作し、写真誌や個展を通じて発表。撮影技法やデジタルワークフローに関する著述やセミナーも多い。日本写真芸術専門学校講師。（公社）日本写真家協会会員、（公社）日本広告写真家協会会員、（公社）日本写真協会会員

◆西新宿のプライベートラボに SC-PX3V を設置

カラーインクジェットプリンターを使って作品制作を進める写真家の皆様を応援するために、エプソンはデジタル版のレンタル暗室ともいえる「プライベートラボ」を西新宿の「エプソンイメージングギャラリー エプサイト」内に開設し、「SC-PX3V」のほか、最大64インチ（約1,626mm）幅のプリントが可能な大判プリンター「SC-P2005PS」やフラットベッドスキャナー「GT-X980」を設置しています。

日本写真家協会会員の皆様には、プライベートラボの利用に必要な「アドバンスドメンバーズ」への登録料（5,400円／年）や使用料の割引などの会員特典を提供していますので、ぜひご活用ください。

プライベートラボの詳細についてはエプサイトのウェブページをご参照いただくか、直接お問い合わせください。

エプソンイメージングギャラリー エプサイト
東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 1 階

開館時間：10:30～18:00

（日曜日、夏期、年末年始を除く）

TEL：03-3345-9881

WEB：http://www.epson.jp/katsuyou/photo/taiken/epsite/

※ 製品名やサービス名は各社の商標または登録商標です

フルサイズの、K。

圧倒的な解像度による質感描写と
新たな表現を可能にする高感度性能。
そして、多様なフィールドに適応する
独創的な撮影機能を、一台に凝縮。

PENTAX K-1



主な機能

- 35ミリフルサイズCMOSイメージセンサー
- 有効約3640万画素
- 新画像処理エンジンPRIME IV
- ISO 204800
- 5軸5段ボディ内手ぶれ補正機構SR II
- 3EV低輝度対応AE・AF
- 新操作機能スマートファンクション
- フレキシブルチルト式液晶モニター

EPSON
EXCEED YOUR VISION

すべての光を
顔料で捉える。

A3ノビ対応プリンター
SC-PX7VⅡ
オープンプライス

EPSON ULTRACHROME
K3
A2ノビ/17インチ幅ロール紙
対応プリンター
SC-PX3V
オープンプライス
*ロール紙ユニットは、
オプション対応となります。

すべての色を
黒で極める。

EPSON ULTRACHROME
K3
A3ノビ対応プリンター
SC-PX5VⅡ
オープンプライス

どんな作品も、作り出せる品質がある。

Epson Proselection
エプソンプロセクション

*出力物はイメージです。*写真はハメコミ合成です。*オープンプライス商品の価格は取扱販売店にお問い合わせください。*この広告に記載の仕様、デザインは2016年6月現在のものです。技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。下記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスKDDI光ダイレクトを利用しています。下記電話番号がご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT東日本・NTT西日本の固定電話（一般回線）からおかけいただくか、かっこの番号におかけくださいますようお願いいたします。

SC-PX3V・SC-PX5VⅡ KDDI光ダイレクト 050-3155-8100 (042-585-8444) SC-PX7VⅡ KDDI光ダイレクト 050-3155-8011 (042-589-5250)

ご購入はお近くの販売店 または **エプソンダイレクト** で検索 >> お電話でも **0120-956-285**

エプソンのホームページ <http://www.epson.jp> エプソン販売 株式会社 セイコーエプソン株式会社



Photo Yamamoto Masao